

授業科目名： こどもと健康	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 日坂 歩都恵
			担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門事項 健康		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期の心と体、運動発達などの健康課題を理解し、具体的な保育実践につながる基盤を培う。 ・乳幼児の体の発達の特徴と基本的生活習慣の形成とその意義を理解することができる。 ・幼児期に多様な動きを獲得することの意義を理解し、日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を理解することができる。 			
授業の概要			
<p>領域「健康」の指導は、子どもの心身の発達や基本的生活習慣、安全な生活、運動発達の専門的事項についての知識や技能を身につける。子どもの心身の健康状態を把握する方法、病気とその予防等の安全管理や安全教育、運動発達の理解をする。演習形式により、保育者としての、子どもの健康を守り育てるために必要な知識と技能を身に付ける。</p>			
授業計画			
第1回：「子どもの健康とは」 健康の定義、乳幼児期の健康の意義を理解			
第2回：「領域「健康」のねらい・内容」 保育内容における領域「健康」のねらいと内容			
第3回：「子どもの身体的発達の理解（体格）」 子どもの体格との特徴や生理機能			
第4回：「子どもの身体発達の理解（器官等）」 子どもの器官等の発育・発達の特徴			
第5回：「子どもの基本的生活習慣（睡眠）」 基本的生活習慣の自立の重要性（睡眠）			
第6回：「子どもの基本的生活習慣（食事・排泄）」 基本的生活習慣の自立の重要性（食事・排泄）			
第7回：「子どもの基本的生活習慣（清潔・衣服の着脱）」 基本的生活習慣の自立の重要性（清潔・衣服の着脱）			
第8回：「日常生活における運動」 社会の変化と生活の中の動きの経験、またその配慮の基本的な考え方			
第9回：「遊びとしての運動」 子どもにとっての遊びとして行う運動の在り方			
第10回：「食育と栄養」 食育のねらいと内容、食育の実践			
第11回：「子どもの感染症」 保育における感染症の予防と対応			
第12回：「子どもの事故や病気」 子どもの事故や病気等のその対応			
第13回：「安全保育と危機管理」 子どもにおける安全保育と危機管理			
第14回：「子どもの発育・発達の測定法の活用」 子どもの体格・運動能力測定の方法と評価			
第15回：「学習のまとめと振り返り」 現在の子どもの健康課題と展望			

定期試験

テキスト

『保育者をめざすあなたへー子どもと健康ー 第2版』 勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行編 みらい 2019年

参考書・参考資料等

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領』、厚生労働省（2018）『保育所保育指針』、内閣府・ 文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び解説書
--

学生に対する評価

試験（50%）、発表・実技（20%）、授業内課題（30%）

授業科目名： こどもと人間関係	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 磯野 久美子 担当形態：単独
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 人間関係		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・人と関わる力を養う領域「人間関係」の基礎的知識や技能の習得を確認する。 ・保育における人間関係にかかわる指導のあり方について理解することができる。 			
授業の概要			
<p>子どもの人と関わる力を養う領域「人間関係」の指導の基盤となる専門的事項についての基礎的知識と技能を習得することを目的とし、子どもは、他者や集団との関係の中で人と関わる力が育つことを、演習を通じて保育所や幼稚園での遊びや生活場面の具体的な事例等から学ぶ。</p>			
授業計画			
<p>第1回：「オリエンテーション」本科目の目的と内容を理解する。</p> <p>第2回：「現代社会と人間関係」子どもを取り巻く今日の状況や課題を踏まえ、子どもと人間関係の現状を学ぶ。</p> <p>第3回：「領域「人間関係」とは」領域「人間関係」のねらいと内容について学ぶ。</p> <p>第4回：「子どもの発達と人間関係①3歳未満児」3歳未満児の育ちと人間関係のあり方について学ぶ。</p> <p>第5回：「子どもの発達と人間関係②3歳以上児」3歳以上児の育ちと人間関係のあり方について学ぶ。</p> <p>第6回：「遊びの中で育つ人間関係①遊びの意義」乳幼児期における遊びの意義を理解する。</p> <p>第7回：「遊びの中で育つ人間関係②遊びを通した人間関係」乳幼児期における遊びを通した人間関係の育ちを理解する。</p> <p>第8回：「環境と人間関係」人間関係を育む環境のあり方を理解する。</p> <p>第9回：「自立心や協同性の育ち」子どもの自立心や協同性はどのような体験を通して育つのかを理解する。</p> <p>第10回：「特別な配慮を必要とする子どもと人間関係」障がいのある子ども等を含む保育における人間関係の育ちを理解する。</p> <p>第11回：「さまざまな人との関わりによる人間関係の育ち」異年齢や地域の人々との関わり等における人間関係の育ちを理解する。</p> <p>第12回：「子どもの道徳性・規範意識の育ち」子どもの道徳性や規範意識はどのような体験を通して育つのかを理解する。</p> <p>第13回：「保育者と保護者の人間関係」保護者との人間関係の構築について考える。</p> <p>第14回：「子育て支援活動から見る人間関係」地域子育て支援ルームの概要とその役割について理解し、そこでの個と集団の育ちとの関連性について学ぶ。</p>			

第15回：「まとめ」子どもの人と関わる力の育ちについてディスカッションを交えながら考察する。
定期試験 実施しない

テキスト

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領』、厚生労働省（2018）『保育所保育指針』、内閣府・
文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

レポート（20%） 発表・実技（30%） 授業内課題（50%）

授業科目名： こどもと環境	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 森田 麗子 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 環境		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「環境」のねらいと内容を理解することができる。 ・乳幼児の発達に即した環境とかがわる過程を理解することができる。 ・具体的な保育の場面を想定し、保育を構想する力を身につける。 			
<p>授業の概要</p> <p>幼稚園教育要領に示された基本を踏まえ、領域「環境」のねらいと内容を通して、乳幼児の身近な環境の基本的な捉え方を理解し、子どもの育ちと環境との関連性において、心を動かす活動とは何かを、環境とかがわる力を育てるという視点から、演習を通じて環境の意味や特性、保育者の役割について考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション」本授業の概要と目標を理解し、授業方法や進め方について確認する。</p> <p>第2回：「領域「環境」のねらいと内容」5領域の全体構成と領域「環境」の理解、保育内容とのつながりについて知る。</p> <p>第3回：「身近な環境とのかかわりと感性の育ち①」幼稚園教育要領における「身近な環境」と一般の「環境」との違いを知り、子ども理解について考える。</p> <p>第4回：「身近な環境とのかかわりと感性の育ち②」実際に身近なものを使って、心が動く実践を体験し、子どもの育ちを理解する。</p> <p>第5回：「自然とのかかわり①」自然の特性や種類を知り、子どもが自然とかがわりを深めるための視点を持つ。</p> <p>第6回：「自然とのかかわり②」グループワークを行い、自然物を活用した遊びについて、発表する。</p> <p>第7回：「自然とのかかわり③」グループワークを行い、保育における飼育について検討し、発表する。</p> <p>第8回：「モノとのかかわり①」身の回りのモノ（園内環境）を通した子どもの育ちと、年齢発達を理解する。</p> <p>第9回：「モノとのかかわり②」廃材等を使ったモノの特質を生かす製作活動の検討。（ICTを使った調べ学習）</p> <p>第10回：「社会とのかかわり①」地域の施設や人々とのかかわりについて考える。（ICTを使った調べ学習）</p> <p>第11回：「社会とのかかわり②」様々な文化や保育における行事とのかかわりについて考える。</p>			

第12回：「自然とのかかわりを支える保育の展開」活動が広がる植物とのかかわり方やそれをもとにした多様な遊びについて考える。

第13回：「モノとのかかわりを支える保育の展開」モノを通じた環境づくりと様々な素材を活かした遊びの展開を考える。

第14回：「社会とのかかわりを支える保育の展開」子どもの姿をもとに、地域資源や様々な文化を保育に活用する方法を探る。

第15回：「現代保育の課題と領域「環境」」多文化共生保育やインクルーシブ教育なども含め、今までの学びの確認をする。

定期試験

テキスト

適宜資料を配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領』、厚生労働省（2018）『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

学生に対する評価

試験（50%） レポート（30%） 発表・実技（20%）

授業科目名： こどもと言葉	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 石川 恵美 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 言葉		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の言葉の発達過程について、言葉の機能への気付きも含めて説明できる。 ・言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、子どもの発達の姿と合わせて説明できる。 ・子どもの発達における児童文化財の意義について理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>領域「言葉」の指導の基礎となる、子どもが豊かな言葉や表現を身に付け、想像する楽しさを広げるために必要な基礎的知識及び技能を学ぶ。子どもが年齢に応じた「言葉」を獲得する意義と機能について理解し、保育者として子どもの言葉を引き出すため、視聴覚教材等ICTを活用し、言葉に対する感覚を豊かにする教材や実践について、演習を通じて授業を展開する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション」</p> <p>領域「言葉」のねらいと内容とは。絵本の読み聞かせの意義について。</p> <p>第2回：「保育の基本と言葉の獲得に関する領域「言葉」」</p> <p>保育内容「言葉」のねらいと内容を理解し、保育者の役割を知る。</p> <p>第3回：「乳児期の言葉の発達」</p> <p>乳児期の「言葉」の発達段階と他者との関わりを知る。乳児向けの絵本について学ぶ。</p> <p>第4回：「幼児期の言葉の発達①」</p> <p>幼児期の「言葉」の発達段階を知り、生活や遊びの中の「言葉」を理解する。幼児向けの絵本について学ぶ。</p> <p>第5回：「幼児期の言葉の発達②」</p> <p>話し言葉から書き言葉の獲得のプロセスについて学ぶ。</p> <p>第6回：「手段・道具としての言葉」</p> <p>言語的コミュニケーションとしての「言葉」を理解し実践する。オノマトペや動きを誘発する言葉の具体例について学ぶ。</p> <p>第7回：「言葉の獲得に関する領域「言葉」と多領域との関係①」</p> <p>身体機能の発達と「言葉」について学ぶ。知覚・認知機能の発達と「言葉」について学ぶ。</p> <p>第8回：「言葉の獲得に関する領域「言葉」と多領域との関係②」</p> <p>人間関係の発達と「言葉」について学ぶ。世界環境の発達と「言葉」について学ぶ。</p>			

第9回：「言葉の獲得に関する領域「言葉」の指導計画と評価①」

指導計画の種類や内容について理解し、指導計画を立案する。

第10回：「言葉の獲得に関する領域「言葉」の指導計画と評価②」

指導計画についてディスカッションし、保育の展開の仕方について学ぶ。

第11回：「言葉の遅れのある子ども等に対する「言葉」の支援①」

言葉の遅れについて考える。発達障害について学ぶ。

第12回：「言葉の遅れのある子ども等に対する「言葉」の支援②」

発達障害のある子どもに対する特別支援教育について学ぶ。

第13回：「「言葉」の世界を広げる児童文化財①」

絵本・物語・紙芝居等の児童文化財の意義について学ぶ。

第14回：「「言葉」の世界を広げる児童文化財②」

絵本・物語・紙芝居等の児童文化財を子どもに伝える際の留意点について知る。

第15回：「学習のまとめと振り返り」

授業の内容を振り返り、到達目標の達成度を確認する。

定期試験

テキスト

『新・保育と言葉』石上浩美編 嵯峨野書院 2022年

参考書・参考資料等

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』 他適宜、授業内で紹介する。

学生に対する評価

試験（50%） レポート（20%） 発表・実技（10%） 授業内課題（20%）

授業科目名： こどもと表現	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 半田結・立本千寿子 ・永井夕起子 担当形態：複数・オムニバス
科目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域に関する専門的事項 表現		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの表現の姿やその発達を理解する。 子どもの遊びや生活にみられる「表現」をとらえることができる。 子どもの表現を受け止め、共感することができる。 ・音楽・造形・身体表現などの様々な表現の知識・技能を身につける。 様々な表現を感じる・見る・聴く・楽しむといったことを通して、イメージを膨らませることができる。協働して表現することを通して、他者の表現を受け止め、より豊かな表現につなげていくことができる。様々な表現の知識・技能を活かして、子どもの表現活動を展開させることができる 			
<p>授業の概要</p> <p>子どもの表現は、他の領域と相互に関連しあい総合的に発達していくことをふまえながら、音楽・造形・身体などの表現領域を中心に、子どもの表現の姿やその発達の様子、感性や創造性を豊かにする様々な遊びや環境の構成などについて、演習を通じて実践的に学びます。子どもが表現することの喜びを感じ感性を磨いていけるように、授業では、諸感覚を通した様々な表現活動を通して、知識や技能、表現力を身につけます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション～表現に出会う」（担当：半田・永井・立本） 領域「表現」と子どもの表現</p> <p>第2回：「自分を感じる」（担当：半田・永井・立本） 身体感覚を豊かにする</p> <p>第3回：「感性を磨く」（担当：半田・永井・立本） 感覚の畑を耕す</p> <p>第4回：「心をひらく」（担当：半田・永井・立本） 色で遊ぶ</p> <p>第5回：「受け入れる」（担当：半田・永井・立本） 自己理解と他者理解</p> <p>第6回：「子どもの身体表現と発達①」（担当：永井） 子どもの身体の発達と、表現の特徴について学ぶ</p>			

第7回：「子どもの身体表現と発達②」（担当：永井）

ステップ、ボディパーカッション、言葉などを用いたいろいろなリズム遊び

第8回：「子どもの身体表現と発達③」（担当：永井）

他の領域と組み合わせた表現遊び

第9回：「子どもの音楽表現と発達①」（担当：立本）

子どもの音や音楽に関わる発達と、表現の特徴について学ぶ

第10回：「子どもの音楽表現と発達②」（担当：立本）

自然の音、リズム楽器、歌などを用いたいろいろな遊び

第11回：「子どもの音楽表現と発達③」（担当：立本）

他の領域と組み合わせた表現遊び

第12回：「子どもの造形表現と発達①」（担当：半田）

子どもの造形表現の発達と、表現特徴について学ぶ

第13回：「子どもの造形表現と発達②」（担当：半田）

クレヨンなどの描画材や色紙などを用いた遊び

第14回：「子どもの造形表現と発達③」（担当：半田）

他の領域と組み合わせた表現遊び

第15回：「振り返りとまとめ」（担当：半田・永井・立本）

これまでの内容を振り返り、自分の表現の特徴や課題についてまとめる

定期試験は実施しない

テキスト

適宜、プリントを配布する

参考書・参考資料等

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』

学生に対する評価

発表・実技（50%）、授業内課題（50%）

授業科目名： こどもとサイエンス (こどもと科学遊び)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 安部 洋一郎 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	領域及び保育内容の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた 内容に係る科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 協働 仲間と協働して実践の準備ができる。 ・ 説明能力 参加者が遊びを楽しめるように、十分な説明をすることができる。 ・ 振り返り 参加者の振り返りを促し学びにつなげることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では学生による20程度のグループを組織し、学生の協働により科学遊びの模擬実践を行う。模擬実践は理科クラブ等での指導を想定し、準備や片付けから、活動後の振り返りまでを学生が企画、準備する。受け身として触れた教材はそのほとんどをすぐに忘却してしまうが、このように自らの力で準備、実践した教材は、教員となった際に自分の得意教材として日々の指導に役立つものである。教員となる前に少しでも多くの自分の持ち味を増やして欲しいと考えている。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「科学遊びとこどもの学び」 オリエンテーション 科学遊びの意味を学ぶ科学遊びを安全に実施するための計画を立てる。</p> <p>第2回：「科学遊びの打ち合わせと準備」 グループごとに担当する科学遊びを選ぶために、インターネットや書籍等から科学遊びを調べる。</p> <p>第3回：「科学遊びの打ち合わせと準備」 科学遊びの予備実験を行い、想定される失敗を検討するとともに、児童から出るであろう意見を予想する。</p> <p>第4回：「科学遊びの打ち合わせと準備」 科学遊びの予備実験を行うとともに、その指導のためのワークシート等を作成する。</p> <p>第5回：「科学遊びの実践1・2」 担当学生がスライムづくりを中心とした30分程度の科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。</p> <p>第6回：「科学遊びの実践3・4」 担当学生が化石発掘調査を中心とした30分程度の科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。</p>			

。

第7回：「科学遊びの実践5・6」

担当学生がどんぐりなどの自然物採集を中心とした30分程度の科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。

第8回：「科学遊びの実践7・8」

担当学生が葉脈標本づくりを中心とした30分程度の科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。

第9回：「科学遊びの実践9・10」

担当学生がペットボトルロケットを中心とした30分程度の科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。

第10回：「科学遊びの実践11・12」

担当学生が昆虫採集を中心とした30分程度の科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。

第11回：「科学遊びの実践13・14」

担当学生が泥団子づくりを中心とした30分程度の科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。

。

第12回：「科学遊びの実践15・16」

担当学生がザリガニ採集を中心とした30分程度の科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。

。

第13回：「科学遊びの実践17・18」

担当学生がビュンビュンゴマづくりを中心とした30分程度の科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。

第14回：「科学遊びの実践19・20」

担当学生が磁石おもちゃ作りを中心とした30分程度の科学遊びの模擬実践を行い、遊びの振り返りを行う。

第15回：「授業の振り返り」

模擬実践を通じて各自が得た学びを交流し、こどもにとっての科学遊びの価値を再考する。

定期試験 実施しない

テキスト

特になし

参考書・参考資料等

でんじろう先生の超ウケる実験ルーム

学生に対する評価

発表・実技 (80%) 授業内課題 (20%)

授業科目名： 保育内容総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 日坂 歩都恵 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育の方法を身につける。 保育の基本と保育内容、今日の保育の課題について理解し、具体的な保育実践につながる基盤を培う。 ・ 子どもの発達を理解する力 子ども理解をもとに、保育のねらいを立てて保育展開が行われる過程を理解することができる。 ・ 保育技術を身につける。 保育実践に必要な様々な技術や保育の方法を理解することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>幼稚園や保育所、幼保連携型認定こども園の教育・保育は、園生活全体を通して総合的に指導する考え方を理解する。保育実践を行う上で基盤となる知識や技能の習得を目指す。幼児の興味や関心や発達の実情などに応じた具体的な指導の在り方を理解する。今日の保育の課題を整理し、保育を実践する力につながる素地を培う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「保育内容とは何か①（保育内容の基本的な考え方）」（ICT機器を活用する） 教育・保育の基本的な考え方と保育内容を理解する。</p> <p>第2回：「保育内容とは何か②（子どもの発達と保育内容）」 子ども理解と保育内容の関連や子どもの発達について学ぶ。</p> <p>第3回：「保育内容の実践的理解①（ねらい・内容）」 こいのぼりの制作を通し「ねらい」及び「内容」について考える。</p> <p>第4回：「保育内容とは何か③（ねらい・内容）」 実践をもとに「ねらい」及び「内容」について学び、理解する。</p> <p>第5回：「保育内容の実践的理解②（遊びと保育内容）」 泥団子作りを体験し、保育における「遊び」について考える。</p> <p>第6回：「保育内容とは何か④（遊びと保育内容）」 実践をもとに保育における「遊び」と保育内容の関連について学び、理解する。</p> <p>第7回：「保育内容とは何か⑤（0歳児の保育内容）」 0歳児の発達の特徴と生活や遊びの展開と保育者の援助について学び、理解する。</p>			

第8回：「保育内容とは何か⑥（1・2歳児の保育内容）」

1・2歳児の発達の特徴と生活や遊びの展開と保育者の援助について学び、理解する。

第9回：「保育内容とは何か⑦（3・4・5歳児の保育内容）」

3・4・5歳児の発達の特徴と生活や遊びの展開と保育者の援助について学び、理解する。

第10回：「保育内容の実践的理解③（指導計画の基本的理解）」（ICT機器を活用する）

指導計画の作成について基本的な事柄を学ぶ。

第11回：「保育内容の実践的理解④（部分保育案の作成）」（ICT機器を活用する）

模擬保育の保育指導案を作成する。

第12回：「保育内容の実践的理解⑤（模擬保育Ⅰ）」

模擬保育を行い、保育の振り返りと評価について学び、理解する。

第13回：「保育内容の実践的理解⑥（模擬保育Ⅱ）」

模擬保育を行い、保育の振り返りと評価について学び、理解する。

第14回：「保育内容とは何か⑧（保育の現状と課題）」

保育の課題と求められる保育者の役割について保育内容の視点から学ぶ。

第15回：「学習のまとめと振り返り」

定期試験

テキスト

『保育実践につなぐ 保育内容総論』 小川圭子・日坂歩都恵・小林みどり編 みらい 2021年

参考書・参考資料等

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領』、厚生労働省（2018）『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び解説書

学生に対する評価

試験（50%） 発表・実技（20%） 授業内課題（30%）

授業科目名： 保育内容「健康」の指 導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 日坂 歩都恵 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達を理解する 領域「健康」のねらい及び内容、乳幼児期の心身の発達を理解することができる。 ・幼児教育の方法を身につける。 領域「健康」のねらい及び内容をふまえた保育指導案作成や保育の展開の方法を理解することができる。 ・保育技術を身につける。 乳幼児の言葉に対する豊かな感性を育むための知識を基盤とした保育実践力を獲得する。 			
<p>授業の概要</p> <p>領域「健康」は、乳幼児期の心身の発達過程や健康を育む保育について学ぶ。子どもの心身の発達は、乳幼児期の生活と深く関連していることを踏まえ、今日の子どもを取り巻く環境の変化から子どもに関わる健康課題や、子どもの心身が育つ環境について考える。「健康」のねらい及び内容について背景にある専門領域と関連させ、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「領域「健康」のねらい及び内容」 保育内容における領域「健康」のねらい及び内容の理解</p> <p>第2回：「基本的生活習慣の形成を支える援助1」 基本的生活習慣の形成を支える援助（食事・排泄）形成を支える環境構成と援助</p> <p>第3回：「基本的生活習慣の形成を支える援助2」 基本的生活習慣の形成を支える援助（着脱衣・清潔）の習慣形成を支える環境構成と援助</p> <p>第4回：「健康管理と安全能力を育む援助」 健康指導、安全指導を中心とした具体的な保育場面を想定した援助</p> <p>第5回：「運動遊びの実践」 運動遊びの実践と計画の基本</p> <p>第6回：「多様な動きの経験を促す援助」 遊びや生活の中の動きの経験を促す環境構成と援助</p> <p>第7回：「環境構成と援助」 領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助</p>			

第8回：「教材研究」

健康指導、安全指導の実際

第9回：「指導計画作成」（ICT機器を活用する）

子どもの健康に関する指導計画の作成（グループでテーマを決める）

第10回：「部分保育案作成」（ICT機器を活用する）

子どもの健康に関する指導計画の作成（グループで発表資料を作る）

第11回：「模擬保育」（ICT機器を活用する）

グループ発表（模擬保育）と振り返り

第12回：「健康な心身を育む保育の実践」

幼児の動機付けや意欲などを配慮した遊びとしての運動指導の在り方

第13回：「健康な心身を育む保育の評価と改善」

幼児理解と保育の視点を基礎にした評価

第14回：「小学校以降の生活や学び」

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を軸に幼少接続を考える

第15回：「学習のまとめと振り返り」

現在の子どもの健康課題と展望

定期試験

テキスト

『保育者をめざすあなたへー子どもと健康ー 第2版』 勝木洋子・日坂歩都恵・大和晴行編
みらい 2019年

参考書・参考資料等

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領』、厚生労働省（2018）『保育所保育指針』、内閣府・
文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び解説書

学生に対する評価

試験（50%） 発表・実技（20%） 授業内課題（30%）

授業科目名： 保育内容「人間関係」 の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤原 照美 担当形態：クラス分け・単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「人間関係」とは—乳幼児期の発達と理解— 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』及び解説書等を熟読し、ねらい及び内容、内容の取扱いを理解することができる。 ・乳幼児の姿に沿った指導の在り方 様々な乳幼児の姿、事例から保育者としての指導の在り方を学び、実践につなげることができる。 ・これからの地域子育て支援を考える 乳幼児に影響を与える地域の人々、高齢者等自分の生活に関係の深い様々な人を知り理解し、課題を見出し向き合う。 			
<p>授業の概要</p> <p>乳幼児は子どもの人間関係の基礎を作る重要な時期であり、その多くは人との関わりの中で培われていく。「生きる力」の基礎は、子ども自身の「人間関係」の中で自分からつかみとったり、教えられたりすることによって身に付いていくものである。乳幼児の様々な姿、活動から行動を分析し心を読み取り、より良い援助ができる力をつけ、保育者が重要な役割を担うことへの理解を深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション」 授業概要、授業の目標、授業方法、評価方法を確認する。</p> <p>第2回：「現代社会と子どもの「人間関係」」 現代社会と子どもの「人間関係」について理解する。社会環境の変化について調べ、子どもの人間関係にどのような影響を及ぼすか考える。（ICT機器の活用）</p> <p>第3回：「領域「人間関係」の考え方」 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』等の変遷から何が大きく変化したのかを捉え、乳幼児教育の不易流行の流れの中で不易の要点を学ぶ。</p> <p>第4回：「「人間関係」の新しい展開」 保育において取り組むべき新しい課題を考える。課題解決の向け、どのような実践が求められるのかを学ぶ。（ICT機器の活用）</p> <p>第5回：「「人間関係」の発達とその問題」</p>			

乳児期から幼児期までの社会性の発達について学ぶ。乳幼児期の人間関係の特徴や発達における問題について事例を通して、具体的に考える。

第6回：「遊びのなかで育つ「人間関係」」

遊びに焦点を当てて、乳幼児の育ちを考える。実践事例の中からテーマを決め、グループワークをする。（フォトカンファレンス）

第7回：「保育者と子どもの「人間関係」」

乳幼児の心理的安定の基盤としての保育者のかかわりについて理解する。保育者の役割について学ぶ。

第8回：「幼児の仲間づくり」

幼児の仲間づくりと保育者のかかわりについて考える。4つの事例を通して保育者の具体的な援助を学ぶ。（ICT機器の活用）

第9回：「「人間関係」でちょっと気になる子ども」

「人間関係」でちょっと気になる子どもを取り上げる。具体的な場面をもとにそのような子どもたちへの対応の基本的な考え方を学ぶ。

第10回：「地域子育て支援にかかわる人間関係」

乳幼児をめぐる家庭環境や生活の変化に目を向け、課題を見い出す。地域の子育て支援に関心を持ち、その果たす役割を理解する。

第11回：「人間関係の育ちを図る地域子育て支援」

人間関係の育ちを図る地域子育て支援の実際を知り、乳幼児の成長にどのようにつながっているか考える。（ICT機器の活用）

第12回：「テーマに沿った指導計画の作成」

指導計画の書き方を学ぶ。具体的な保育場面を想定して、保育者の援助や配慮事項が具体的に書けるようにする。

第13回：「ロールプレイ・模擬保育」

教材研究・立案をもとにした模擬実践を通して、教材研究・立案・評価について学ぶ。

第14回：「これからの地域子育て支援」

地域子育て支援の国の動向、県内の市や町の情報を調べる。グループ毎に情報や意見交換をする。

第15回：「学習の振り返り、質疑応答」 学習の振り返りをして、自己評価と理解度を確認する。

定期試験

テキスト

『保育内容 人間関係』小田豊・奥野正義編著 北大路書房、文部科学省（2018）『幼稚園教育要領』、厚生労働省（2018）『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び解説書

参考書・参考資料等

保育内容 人間関係【第2版】濱名浩編著 みらい社

学生に対する評価

試験 (60%) レポート (10%) 発表・実技 (10%) 授業内課題 (10%) 授業態度 (10%)

授業科目名： 保育内容「人間関係」の指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高畑芳美 担当形態：クラス分け・単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>・ 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「人間関係」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を踏まえた教材研究や環境の重要性を理解し、保育構想に活用することができる。</p> <p>2) 領域「人間関係」のねらい及び内容を踏まえ、自立心を育て、人と関わる力を養うために必要な幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3) 具体的な保育を想定した指導案を作成し、模擬保育を通して保育を改善する視点を身に付ける。</p> <p>4) 幼児期の集団生活を通して様々な人と関わる経験と、小学校以降の生活や教科等とのつながりについて理解している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>領域「人間関係」は、「他の人々と親しみ、支え合って生活するために自立心を育て人と関わる力」を養うことを目指すものである。幼稚園教育において育みたい資質能力について理解し、幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させながら理解を深める。幼児の発達に即した主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえ、具体的な指導場面を想定して保育を構想し実践する方法を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション・幼児教育の基本と社会情動的スキル」 授業概要、授業の目標、授業方法、評価方法を確認する。乳幼児期における社会情動的スキル・認知スキルがその後の発達に与える影響についてのエビデンスを理解する。</p> <p>第2回：「幼児期を取り巻く人間関係の現代的特徴」 親子やきょうだい関係、地域における子ども同士の関わり等、幼児を取り巻く人間関係について、1950年代頃からの年代毎に異なる特徴的な事例を挙げ、領域「人間関係」を学ぶ重要性について理解する。</p> <p>第3回：「幼稚園教育要領に示された領域『人間関係』のねらいと内容」 「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のうち、領域「人間関係」と関連の深い「自立心」「共同性」「道徳性・規範意識の芽生え」「社会生活との関わり」を取り上げ、幼児の発達を理解するために必要な教師の視点について、具体的な事例を基に考える。</p> <p>第4回：「身近な人とのかかわりと自己の育ち」 乳児期に育つ愛着関係の形成や自己の育ちに関する発達について、自身の乳幼児期の写真を基に、エピソード</p>			

ド記録を作成し振り返りをする中で、具体的な乳児期の子どもの姿を理解する。

第5回：「家庭生活から幼稚園生活への移行」

入園期の映像資料を活用し、幼児の不安な気持ちや戸惑いを受け止めながら、自ら意欲的にやろうとする自立心の育ちを支える指導の在り方や、友達と関わり集団の中で遊びを楽しむための援助についてグループで討議する。

第6回：「学級の中での人間関係における個と集団の育ち」

幼児の心情や遊びの発達を踏まえ、幼児同士の関係が取りにくい事例を基に、どのように幼児同士の関係を築きクラス集団の中で位置づけていくのか、また、教師の個別の援助だけでなく幼児同士の関わり合いを活かした間接的な指導の在り方について考える。

第7回：「自己調整力を育む保育」

幼児のいざこざの事例を基に、ロールプレイをすることで、自己と他者の気持ちに気づき、それぞれが受け止められ、向き合えるような教師の指導の在り方を考える。

第8回：「規範意識の芽生えや道徳性を育む保育」

園の決まりやルールに関する事例を基に、幼児自身が折り合いをつけようとしたり、集団での決まりやルールの必要性を感じたり、考え合ったりしていくことの重要性について考える。

第9回：「協同性を育む遊び①」

幼児同士が目的を共有し、考え合ったり工夫し合ったりすることが必要な内容を含めた協同性を育む活動や遊びの展開について話し合い、ポスター形式にまとめる。

第10回：「協同性を育む遊び②」

各グループで構想した遊びの展開について、ポスターセッションを行い、子どもが夢中になって取り組む協同性を育む遊びにとって重要なポイントをまとめる。

第11回：「特別な配慮が必要な子どもと他の子どもが育ち合う保育」

一人一人のニーズに合わせた適切な保育、子ども同士が育ち合いのできる豊かな集団作りとは、事例を通して保育者のあるべき姿を話し合う。

第12回：「互恵的な幼小連携①事例検討」

幼児と小学生が相互主体的に関わり合う交流活動の展開について、グループに分かれてICTを活用して調べる。

第13回：「互恵的な幼小連携②指導案の発表」

幼小連携の事例を元に、指導案を立案協議する。幼児が経験し身に付けていく内容と小学校の生活や教科等とのつながりを理解できるようにする。

第14回：「社会生活との関わり」

地域の多様な人との具体的な関わり事例をICTを活用して調べ、グループ協議や意見交換をする。

第15回：「子どもの人間関係の評価と援助における自己の評価」

幼児を取り巻く人間関係の現代的特徴を踏まえ、保護者や地域の人々と共に幼児の人間関係を育む教師の役割について、幼稚園教諭となる自己の課題を明確化する。

テキスト

「事例で学ぶ保育内容 領域人間関係」無藤隆・岩立京子編著 萌文書林、「幼稚園教育要領」文部科学省（2018）、『保育所保育指針』厚生労働省（2018）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）及び 解説書

参考書・参考資料等

「社会情動的スキルを育む『保育内容人間関係』－乳幼児期から小学校へつなぐ非認知能力とは」無藤隆・古賀松香編著 北王路書房

「ワークで学ぶ保育内容『人間関係』」菊池篤子著 みらい

学生に対する評価

試験（40%） レポート（15%） 発表・実技（30%） 課題（15%）

授業科目名： 保育内容「環境」の指 導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤原 照美 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の身近な環境とは 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』等の解説書を熟読し、各領域のねらい及び内容を理解することができる。 ・乳幼児に及ぼす「環境」の影響や意義 領域「環境」が乳幼児の発達、成長に及ぼす影響や意義を理解し、具体的な保育の構想に活用することができる。 ・保育を構想する力を身に付ける－指導計画の作成－ 実践事例を通して幼児理解を深め、様々な実態、環境に応じた指導計画、指導案を作成することができる。 ・保育者の資質－実践に求められること－ 身近な環境に積極的にかかわり日常的に感性を磨く。また保育者となる意識を高め、自己の力を高める。 			
<p>授業の概要</p> <p>現代の乳幼児期を取り巻く環境やその関わりについて専門的事項を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容について理解を深める。環境を通して乳幼児の発達に即した深い学びが実現する過程を保育所、幼稚園、こども園等の実践事例から学ぶ。もの・人・自然・社会などの環境や環境の構成について興味関心を深め、領域「環境」に関わる指導場面を想定し、保育内容を構想する力や指導方法を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション」 授業概要、授業目標、評価方法などを確認する。</p> <p>第2回：「「環境」の意義」 領域「環境」の理解を深める。「環境を通して行う教育」の意義について学ぶ。（ICT機器の活用）</p> <p>第3回：「乳幼児の発達と理解」 乳幼児の発達と環境の関りを発達の特性から読み取り、「環境にかかわる力」を育てるために必要な保育者の援助を考える。</p> <p>第4回：「好奇心・探求心」 好奇心・探求心を育む保育の特性を知り、環境構成・援助の在り方を学ぶ。（ICT機器の活用）</p> <p>第5回：「思考力の芽生え」 乳幼児の思考力の芽生え、広がりや深まりについて、「環境」との関係性や保育者の援助の在り方を学ぶ。</p>			

<p>第6回：「人的環境とは」 人的環境の保育的特性を知り、発達段階に応じた環境の在り方を学ぶ。</p> <p>第7回：「物的環境とは」 物的環境とは何かを知り、乳幼児の育ちにつながるふさわしい環境について学ぶ。（ICT機器の活用）</p> <p>第8回：「自然環境とは」 自然環境が及ぼす乳幼児の育ちを考える。自然環境を活用した実践事例を通してその意義を理解する。（ICT機器の活用）</p> <p>第9回：「日常生活の中での興味や関心」 乳幼児の生活の中で物事の法則性に気付く場面やその他興味・関心をもつ場面について知り、指導の在り方を学ぶ。（ICT機器の活用）</p> <p>第10回：「日常生活における暮らし・文化」 日本の伝統文化・異文化について調べる。グループワークを通して学びを深める。</p> <p>第11回：「ロールプレイ・模擬保育」 教材研究・立案をもとにした模擬実践を通して、教材研究・立案・評価について学ぶ。</p> <p>第12回：「地域・行事との関わり」 行事は子どもにとって「発達」の節目となるもの、その在り方や参加の仕方を考える。（ICT機器の活用）</p> <p>第13回：「道徳性の芽生え」 道徳の概念、道徳性を育む保育や保育者に必要な倫理観について考える。</p> <p>第14回：「乳幼児の安全環境」 実践事例から見た安全環境、安全教育、防災教育を学ぶ。危機管理能力を身に付けるための意識を高める。（ICT機器の活用）</p> <p>第15回：「学習の振り返りと確認」 学習の振り返りをして、自己評価と理解度を確認する。全体講評（質疑応答）</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>『保育内容 環境』共著 北大路書房、文部科学省（2018）『幼稚園教育要領』、厚生労働省（2018）『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』及び解説書</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>『保育内容 環境』柴崎正行・若月芳浩編 ミネルヴァ書房、『事例で学ぶ保育内容 環境』無藤隆監修 萌文書林</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>試験（60%）、レポート（10%）、発表・実技（20%）、授業内課題（10%）</p>

授業科目名： 保育内容「言葉」の指 導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 石川 恵美 担当形態：単独
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「保育内容・言葉」のねらい及び内容 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、「保育内容・言葉」のねらい及び内容並びに全体構造を理解することができる。 ・「保育内容・言葉」の内容と指導上の留意点 「保育内容・言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解することができる。 ・幼稚園教育における評価 幼稚園教育における評価の考え方を理解することができる。 ・小学校との接続・連携 幼児期に経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>子どもの言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域を関連させて理解を深める。その上で、子どもの発達に即して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて、具体的な指導計画を想定して保育を構想する方法を身に付ける。PC等ICT機器を使用した指導案づくりや、パワーポイントを活用した視聴覚教材等ICTを活用した授業を展開する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション」 領域「言葉」のねらいと内容とは。絵本の読み聞かせの意義について。</p> <p>第2回：「言葉の獲得に関する領域「言葉」と保育実践①」 0.1.2歳の「保育内容・言葉」のねらい及び内容を理解し、保育実践について学ぶ。</p> <p>第3回：「言葉の獲得に関する領域「言葉」と保育実践②」 3.4.5歳の「保育内容・言葉」のねらい及び内容を理解し、保育実践について学ぶ。</p> <p>第4回：「言葉の獲得に関する領域「言葉」と保育実践③」 保育実践上の留意点と保育者の援助及び配慮について学ぶ。</p> <p>第5回：「気になる子どもに対する「言葉」の支援」 幼稚園・保育所における「言葉」の指導・実践事例について学ぶ。</p>			

第6回：「言葉の獲得に関する領域「言葉」の記録と指導案づくり①PC等ICT機器使用」
指導案作成上の留意点について学び立案する。

第7回：「言葉の獲得に関する領域「言葉」の記録と指導案づくり②PC等ICT機器使用」
模擬保育を通して実践する。

第8回：「言葉の獲得に関する領域「言葉」の記録と指導案づくり③PC等ICT機器使用」
模擬保育を通して実践し、評価・振り返りを行う。

第9回：「保育内容「言葉」と保育実践（1）」
紙芝居の特徴や演じ方を学び、実践する。

第10回：「保育内容「言葉」と保育実践（2）」
パネルシアターの特徴や演じ方を学び、実践する。

第11回：「言葉遊びの体験」
しりとりやなぞなぞ等、言葉に対する感覚を豊かにする言葉遊びを体験する。

第12回：「これからの幼児教育の課題と保育内容領域「言葉」」
小学校の教科等とのつながりを理解し、保育・教育環境を取り巻く現状と今後の課題について考える。

第13回：「創作絵本発表会（1）」
パワーポイントで作成した資料を提出した後、自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせる。

第14回：「創作絵本発表会（2）」
パワーポイントで作成した資料を提出した後、自作の創作絵本を学友の前で読み聞かせる。

第15回：「学習のまとめと振り返り」
授業の内容を振り返り、到達目標の達成度を確認する。

定期試験

テキスト

『新・保育と言葉』石上浩美編 嵯峨野書院 2022年

参考書・参考資料等

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』 他
適宜、授業内で紹介する。

学生に対する評価

試験（50%）、レポート（20%）、発表・実技（10%）、授業内課題（20%）

授業科目名： 保育内容「表現」の指 導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 半田結・井上朋子・永井夕起 子 担当形態：複数・オムニバス
科 目	領域及び保育内容の指導法に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・領域「表現」のねらいや内容を理解する。 領域「表現」のねらいや内容をふまえ、子どもが身につけていく内容と指導上の留意点を理解することができる。 ・子どもの発達を理解し、「表現」に関わる具体的な指導を計画する。 <ul style="list-style-type: none"> ①子どもの心情、認識、思考、動き等の発達と特性を理解することができる。 ②領域「表現」のねらいや内容をふまえつつ、子どもに応じた保育を構想・計画することができる。 ③ICTを活用して領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を学び、保育の向上に取り組むことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>保育内容の各領域が相互に関連し合っていることをふまえながら、身体・造形・音楽などの表現活動を中心に、子どもの実態に応じた保育内容の展開や指導法について学びます。身体の動きや五感、音、リズム、ものの色や形、質感など、身の回りにある表現のきっかけとなる様々なものや方法を通して表現活動の特徴や面白さを確認しながら、ICTを活用して実践場面での応用や展開、発展を考えていきます。授業を通して、子どもが主体的に取り組めるような総合的な表現活動を構想、計画、実践できる力を身につけます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション領域「表現」のねらいと内容」（担当：半田・井上・永井） 領域「表現」のねらいと内容について、子どもの表現をとって理解する</p> <p>第2回：「子どもの表現とその指導法①」（担当：半田・井上・永井） 子どもが遊ぶ（表現する）具体的な場面から、その表現の背景や要因を考える</p> <p>第3回：「子どもの表現とその指導法②」（担当：半田・井上・永井） ICTを活用し情報を収集して子どもの遊びを整理・分析し、子どもの遊びにおける表現的行為を抽出し、さらなる遊びの展開を構想する</p> <p>第4回：「子どもの表現とその指導法③」（担当：半田・井上・永井） 様々なニーズのある子どもやインクルーシブ保育における表現活動や遊びの実践について、ICTを活用して情報収集を行い具体的な実践方法について討議する</p>			

第5回：「五感や身体を使った表現活動①」（担当：永井）

五感や身体を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さを整理する

第6回：「五感や身体を使った表現活動②」（担当：永井）

総合的な表現活動の留意点や展開を考えると共に、インターネットで発信されている実践例から自らの保育構想の向上に取り組む

第7回：「音や声、楽器を使った表現活動①」（担当：井上）

声や音、楽器を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さを整理する

第8回：「音や声、楽器を使った表現活動②」（担当：井上）

総合的な表現活動の留意点や展開を考えると共に、インターネットで発信されている実践例から自らの保育構想の向上に取り組む

第9回：「身近にあるものを使った表現活動①」（担当：半田）

身近にあるものやリサイクル材を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さを整理する

第10回：「身近にあるものを使った表現活動②」（担当：半田）

総合的な表現活動の留意点や展開を考えると共に、インターネットで発信されている実践例から自らの保育構想の向上に取り組む

第11回：「総合的な表現活動を考える①」（担当：半田・井上・永井）

総合的な表現活動を実践するために、指導案を作成する

第12回：「総合的な表現活動を考える②」（担当：半田・井上・永井）

指導案に沿って、教材研究を深める

第13回：「総合的な表現活動を考える③」（担当：半田・井上・永井）

総合的な表現活動を指導案に沿って実践すると共に、ICTを活用して受講者全員がそれぞれの実践を共有することで振り返りを行う

第14回：「総合的な表現活動を考える④」（担当：半田・井上・永井）

総合的な表現活動の振り返りを通して、指導案の改善や展開を考える

第15回：「振り返りとまとめ」（担当：半田・井上・永井）

これまでに学んだことの振り返りを通して、保育の場における表現活動についてまとめる

定期試験 実施しない

テキスト

適宜、プリントを配布する

参考書・参考資料等

岡・金澤『演習・保育内容表現—基礎的事項の理解と指導法』建帛社（2019）、文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』

学生に対する評価

発表・実技（50%）、授業内課題（50%）

授業科目名： 初等国語科内容論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：大江 実代子 担当形態：単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 国語（書写を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国語科が育てる力：学習指導要領について全体の構成や国語科の目標を理解し、授業イメージをもつことができる。</p> <p>知識及び技能：言葉の働きに関する指導について理解することができる。</p> <p>思考力・判断力・表現力：具体的な言語活動を通して思考力・判断力・表現力の指導内容や指導方法を理解することができる。</p> <p>言語文化：小学校で扱う古文や漢文や、敬語、共通語方言、漢字の由来など言語に関する指導内容及び方法を理解することができる。</p> <p>書写：書写に関する指導内容及び方法を理解することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>小学校指導要領「国語科」に示されている目標や内容を踏まえ、具体的な言語活動の映像を視聴したり、体験したりしながら「知識及び技能」と「思考力、判断力、表現力等」について理解し、小学校における国語科の授業を行う教員として必要となる基礎的な知識と技能を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：授業の流れについて・国語科の授業づくりのポイントを知る。 学習指導要領 構成・内容：小学校指導要領の構成を知り、全体の内容を概観する。</p> <p>第2回：言語の働き：日常的な言語活動、仮名・漢字指導について理解する。 言語文化（1）：古文や漢文、文語調の文章教材の特徴や指導内容を理解する。</p> <p>第3回：言語文化（2）：敬語、共通語方言、ローマ字の指導内容を理解する。 読むこと 文学的文章（1）：文学的文章の教材の特徴や指導内容を理解する。（1～6年生）</p> <p>第4回：読むこと 説明的文章：説明的文章の教材の特徴や指導内容を理解する。（1～6年生）</p> <p>第5回：読むこと 読書指導：読書指導について、具体的な指導方法を理解する。（1～6年生）</p> <p>第6回：書くこと：書くことの教材の指導内容や方法を理解する。（1～6年）</p> <p>第7回：話すこと・聞くこと：話すこと・聞くこと教材の指導内容や方法を理解する。（1～6年）</p> <p>第8回：書写：硬筆、毛筆など書写の指導内容や方法を理解する。</p>			
<p>定期試験</p>			
<p>テキスト</p> <p>文部科学省「学習指導要領解説 国語編」東洋館出版(2018・2)</p> <p>必要に応じ、資料を配布する。</p>			

参考書・参考資料等

授業時に適宜紹介する。

学生に対する評価

試験（60％）、レポート（20％）、発表・実技（20％）

授業科目名： 初等社会科内容論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 關 浩和 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 社会		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>社会科の基本的性格：学習指導要領における社会科の目標，内容，カリキュラムの基本原理について理解している。</p> <p>社会科の学習内容：各学年における社会科の学習内容を理解するとともに，学習内容が設定されている理由を説明することができる。</p> <p>社会科の教材研究：社会科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係性を意識しながら，教材研究に活用している。</p> <p>社会科の授業設計：社会科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係性を意識しながら，社会科授業設計に活用している。</p> <p>社会科における情報機器の活用：社会科授業づくりにおいて積極的に情報機器を活用して授業設計ができるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では，社会科の教科理念を把握し，社会科の性格や目標，内容，授業構成の仕方，学習計画の立案，評価の方法など初等社会科の授業づくりに関する基本を理解することができる。</p> <p>本講義は，2年次履修の「初等社会科教育法」の前提の科目です。社会科に関する基礎的知識を身に付けることが求められます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：社会科の基本的性格：社会科の目標，内容について学習指導要領における学力観の変遷，社会認識形成や公民的資質の育成の視点から理解する。</p> <p>第2回：中学年社会科の学習内容：中学年社会科地域学習及び都市基盤学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。</p> <p>第3回：第5学年社会科の学習内容①：第5学年社会科産業学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。</p> <p>第4回：第5学年社会科の学習内容②：第5学年社会科国土・防災学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。</p> <p>第5回：第6学年社会科の学習内容①：第6学年社会科歴史学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。</p> <p>第6回：第6学年社会科の学習内容②：第6学年社会科政治学習に関わる目標・内容・指導法について</p>			

理解する。

第7回：第6学年社会科の学習内容③：第6学年社会科国際交流学習に関わる目標・内容・指導法について理解する。

第8回：社会科の授業設計の理論と方法：社会科の教科理念を把握し、社会科の授業設計に関する基本を理解することができる。

定期試験は実施しない

テキスト

文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説社会編』

参考書・参考資料等

- ・全国社会科教育学会編（2011）『社会科教育実践ハンドブック』明治図書
- ・全国社会科教育学会編（2015）『新社会科授業づくりハンドブック小学校編』明治図書

学生に対する評価

小テスト（40%）、レポート（20%）、発表・実技（20%）、授業内容課題（20%）

授業科目名： 初等算数科内容論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 赤井 利行 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 算数		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学習指導要領のねらい：学習指導要領の目指す目標及び考え方を理解する。</p> <p>数理運用力：小学校で学習する数学的内容の位置づけを確認し、教材間の関連性を理解する。</p> <p>身の回りの数学の事象の問題解決：具体的な生活や学習の場面を基にし、問題発見をする楽しさを理解し、問題解決をする過程を獲得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>受講者には、小学校における算数科の授業を担当するために必要な(数と計算、図形、測定、変化と関係、データの活用)の実践的な数理運用力を、授業場面を意識しながら身に付ける。また、幼稚園、小学校、中学校の関連性を踏まえながら、小学校における算数科を担当するための必要な背景となる知識を身に付けてほしい。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：算数の価値を理解し、算数教育の歴史を学ぶ</p> <p>第2回：(1) 算数科のねらい：学習指導要領に基づいて、今日求められる算数の位置づけを理解し、目指すべき方向を確認する</p> <p>(2) 数学的な見方・考え方：学習指導要領に基づいて、数学的な見方・考え方を確認し、帰納的・演繹的な考え方の事例を基に理解する。</p> <p>第3回：数と計算に関する基本的な数理運用力下学年上学年：整数・小数・分数の意味を理解する。整数の四則計算の意味とその計算方法について考え、理解する。</p> <p>第4回：(1) 図形に関する基本的な数理運用力低学年：数学的活動を基に図形を構成する活動を理解する。構成要素を基に三角形と四角形を分類する視点を養う。</p> <p>(2) 図形に関する基本的な数理運用力中学年：定義に基づく作図の方法を理解する。四角形を集合の考え方に基づいて分類できることを理解する。</p> <p>第5回：(1) 図形に関する基本的な数理運用力高学年：図形の性質を理解する。四角形の面積の求め方を発展的に考える方法を理解する。</p> <p>(2) 変化と対応に関する基本的な数理運用力上学年：身の回りの事象を比例・反比例の観点から考察する。割合について理解し、身の回りの問題を解決する。</p> <p>第6回：(1) データの活用に関する基本的な数理運用力下学年：データを整理する観点に着目して、表やグラフに表して解決していくことを理解する。</p>			

(2) データの活用に関する基本的な数理運用力上学年：目的に応じてデータの収集や適切な手法の選択など統計的な問題解決の方法を理解する。

第7回：(1) 現実の世界の数学的探求：子供の身の回り起こる事象を数学の観点から問題として捉え、解決していく方法を分析・考察する

(2) 数学の世界の数学的探求：子供の身の回りにおける事象を数学の問題として捉え問題化し、解決を図ることを理解する

第8回：(1) 問題発見・解決・発展の過程としての数学：数学の学習を問題発見から、どのように解決していくか解決の過程を学び、その学びをいかに発展させていくか一連の過程を理解する。

(2) 総括：学んできた数学が、子供たちの生活や学習にどう関わっているか、再確認する。

定期試験

テキスト

- ・文部科学省「学習指導要領解説算数科編」
- ・赤井利行編「わかる算数科指導法 改訂版」東洋館出版社

参考書・参考資料等

指定なし

学生に対する評価

試験（50％）、小テスト（30％）、発表・実技（10％）、授業内課題（10％）

授業科目名： 初等理科内容論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 安部 洋一郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 理科		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>知識理解：小学校理科授業を行うに足る科学的理解をしている。</p> <p>技能：小学校理科授業で行う観察・実験を安全、正確に行うことができる。</p> <p>思考力：自然事象に対して、問題を見出し、仮説を形成し、解決の計画を立案し、考察を行う、問題解決ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教科の指導にあたっては、教師自身に指導内容に関する深い理解が求められる。本授業では、小学校理科教科書を参考に実際の実験や観察を交えて体験的に学ぶことで、教員として理科授業を行うために十分な、小学校理科における指導内容の習得を目指す。小学校理科における指導内容としては、科学的知識や実験器具の使い方等の技能だけでなく、思考力としての問題解決の力を取り扱うものとする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：小学校理科で扱う内容：オリエンテーション（講義の進め方）小学校理科の指導内容の概観</p> <p>第2回：小学校第3学年の観察実験：「電気の通り道」等の物理教材の観察実験のポイント 「太陽と地面の様子」等の地学教材や生物教材の観察実験のポイント</p> <p>第3回：小学校第4学年の観察実験：「金属、水、空気と温度」等の物理教材の観察実験のポイント 「季節と生物」等の生物教材の観察実験のポイント</p> <p>第4回：小学校第4学年の観察実験：「雨水の行方と地面の様子」等の地学教材の観察実験のポイント 小学校第5学年の観察実験：「植物の発芽、成長、結実」等の生物教材の観察実験のポイント 学習内容を児童がまとめる際の見本の作成</p> <p>第5回：小学校第5学年の観察実験：「振り子の運動」等の物理教材の観察実験のポイント 「物の溶け方」等の化学教材の観察実験のポイント</p> <p>第6回：小学校第5学年の観察実験：「気象現象の規則性」等の地学教材の観察実験のポイント 小学校第6学年の観察実験：「燃焼の仕組み」等の化学教材の観察実験のポイント</p> <p>第7回：小学校第6学年の観察実験：「電気の利用」等の物理教材の観察実験のポイント 小学校第6学年の観察実験：「人の体のつくりと働き」等の生物教材の観察実験のポイント</p> <p>第8回：小学校第6学年の観察実験：「土地のつくりと変化」等の地学教材の観察実験のポイント まとめ：小学校理科の指導内容の概観と問題解決の系統性</p>			

定期試験は実施しない
テキスト 初等理科教育内容論（現在執筆中） 小学校理科教科書『わくわく理科3～6年』新興出版社啓林館
参考書・参考資料等 小学校学習指導要領解説理科編
学生に対する評価 レポート（100%）

授業科目名： 初等生活科内容論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 關 浩和 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 生活		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生活科の基本的性格：学習指導要領における生活科の目標、内容、カリキュラムの基本原理について理解している。</p> <p>生活科の学習内容：生活科の学習内容を理解するとともに、学習内容が設定されている理由を説明することができる。</p> <p>生活科の教材研究：生活科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係を理解し、教材研究に活用している。</p> <p>生活科の授業設計：生活科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係を理解し、授業設計に活用している。</p> <p>生活科におけるICTの活用：生活科授業づくりにおいて積極的にICTを活用して授業設計ができるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、生活科の教科理念を把握し、生活科の性格や目標、内容、授業構成の仕方、学習計画の立案、評価の方法など生活科の授業づくりに関する基本を理解することができる。本講義は、2年次履修の「初等生活科教育法」の前提の科目です。生活科に関する基礎的素養を身に付けることが求められます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生活科誕生の経緯：学習指導要領の経験主義から系統主義に至る経緯を理解し、どのような経緯で平成元年に生活科誕生したのかを理解する。</p> <p>第2回：生活科カリキュラムの編成原理：生活科カリキュラムは、4つの出会い（社会、自然、人間、自己）と3つの間（時間・空間・人間）で構成されていることを理解する。</p> <p>第3回：生活科の意義①：自立し生活を豊かにすることや4つの出会いを大切にする生活科の意義を理解する。</p> <p>第4回：生活科の意義②：スクリプトを引き出すことやネットワークのハブ的役割を果たす生活科の意義を理解する。</p> <p>第5回：生活科の理論的背景①：生活科において方法的能力や自己意識、社会性を育てるための生活科の理論的背景を理解する。</p> <p>第6回：生活科の理論的背景②：生活科において空間的認識能力や自己表現力を育てるための生活科の</p>			

理論的背景を理解する。

第7回：比較・分類思考による生活科授業デザイン：比較・分類思考を中核に据え，子どもの知的好奇心を喚起して，生活科授業設計を行うためのノウハウを学ぶ。

第8回：生活科における評価：生活科授業においてPDCAサイクルを実践するための評価のあり方を学ぶとともに，教師の役割について理解する。

定期試験は実施しない

テキスト

- ・ 關浩和（2019）『生活科カリキュラム・マネジメント』ふくろう出版

参考書・参考資料等

- ・ 文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説生活編』

学生に対する評価

小テスト（40%）、レポート（20%）、発表・実技（20%）、授業内課題（20%）

授業科目名： 初等音楽科内容論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 井上 朋子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 音楽		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小学校音楽科の授業内容を理解している 2 小学校音楽科の授業実践に必要な基礎的知識や技能を身につけている 3 生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わるための姿勢や態度を身につけている 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、小学校音楽科の授業内容を理解するとともに、授業実践に必要な知識や技能を修得することを目的とします。音楽科授業において、児童に音楽活動の楽しさを伝えるには、教師自身の多様で豊かな音楽体験が大切です。この授業では、教科書教材を用い、実際の授業場面を意識しながら体験的に学びます。その中で、表現活動（歌唱、器楽、音楽づくり）、鑑賞活動を指導する際に必要となる音楽的な知識と技能を身に付けます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、小学校音楽科の目標と内容</p> <p>第2回：歌唱①低学年の教科書教材を使って一曲想と音楽の構造や歌詞の関わり 歌唱②中学年の教科書教材を使って一思いや意図に合った表現の工夫</p> <p>第3回：歌唱③高学年の教科書教材を使って一合唱と指揮法 器楽①低学年の教科書教材を使って一鍵盤ハーモニカ</p> <p>第4回：器楽②中学年の教科書教材を使って一リコーダー 器楽③高学年の教科書教材を使って一器楽合奏</p> <p>第5回：器楽④高学年の教科書教材を使って一器楽合奏と指揮法 音楽づくり①音あそび・即興的な表現</p> <p>第6回：音楽づくり②音楽の仕組みを活かして 音楽づくり③音の重ね方や組み合わせを活かして</p> <p>第7回：鑑賞①西洋の音楽 鑑賞②アジア・アフリカの音楽</p> <p>第8回：鑑賞③日本の音楽、まとめ</p> <p>定期試験</p> <p>テキスト</p> <p>初等科音楽教育研究会編『初等科音楽教育法』音楽之友社、2020</p>			

『音楽のおくりもの1～6』教育出版

参考書・参考資料等

・文部科学省 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編』 東洋館出版社

学生に対する評価

筆記試験（40％）、実技試験（40％）、課題への取り組み（20％）

授業科目名： 初等図画工作科内容論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 半田 結 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 図画工作		
授業のテーマ及び到達目標 図画工作で必要とされる造形的な技能や能力を身につける 図画工作における鑑賞の基礎やその方法を見につける			
授業の概要 本授業では、小学校学習指導要領の「図画工作」の目標を理解した上で、図画工作に関する基礎的な力を身につけることを目指します。図画工作の授業を構想・計画・実践するために必要な造形的な力を育成するために、平面や立体の表現制作を体験し、鑑賞活動の方法と展開などについて学びます。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：受講方法と、小学校図画工作科学習指導要領や図画工作科教科書等について 第2回：芸術・美術と図画工作：芸術における美術という名称や領域・範囲と、図画工作の位置づけについて学ぶ 第3回：表現領域：造形遊び①：造形遊びの歴史や、ICTを活用した実践例について学ぶ 第4回：表現領域：造形遊び②：造形遊びを体験しながら学ぶ 第5回：表現領域：絵画表現①：幼児期から児童期に至るまでに絵画表現の特徴について学ぶ 第6回：表現領域：絵画表現②：描画材や絵具等を用いた絵画表現を体験しながら学ぶ 第7回：表現領域：立体表現①：幼児期から児童期に至るまでの立体表現（粘土）の傾向について、ICTを活用し実践例等を学ぶ 第8回：表現領域：立体表現②：粘土を用いた立体表現を体験しながら学ぶ 第9回：表現領域：工作表現①：幼児期から児童期に至るまでの工作的な試み・表現について、ICTを活用し実践例等を学ぶ 第10回：表現領域：工作表現②：身近にあるものを活用し、動くおもちゃを作る 第11回：鑑賞領域：鑑賞の発達：幼児期から児童期にいたる、鑑賞の発達、および鑑賞の意味や意義について学ぶ 第12回：鑑賞領域：鑑賞の方法：幼児期から児童期にいたる、鑑賞の方法について学ぶ 第13回：鑑賞領域：鑑賞支援ツール：ICTを活用した鑑賞支援ツールについて学び、体験する 第14回：鑑賞領域：対話型鑑賞：対話型鑑賞法について学び、体験する			

第15回：振り返りとまとめ：これまで学んだことを振り返り、今後の課題を整理する
定期試験

テキスト

磯部錦司編『造形表現・図画工作』建帛社、2018年

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（2017年文部科学省告示）

学生に対する評価

授業内で行う課題やワークへの参加（25%）、リフレクションペーパー提出（25%）、
テーマに関する課題提出（25%）、試験（25%）

授業科目名： 初等家庭科内容論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 相川 美和子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 家庭		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>家庭科教育は教科横断的に取り扱われる要素が多く、他教科とのつながりを確認しながら、その目的や内容について講義を行うと同時に、指導に必要な基礎的知識と技術について理解を図る。また、家庭科の内容は、教科から離れて、小学校生活全般に関わる指導の要領（給食・清掃・学級活動・特別活動・保護者会等）と重複しており、小学校教員としての資質向上にもつながることを確認する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>小学校家庭科教育の構成と内容：小学校学習指導要領解説（家庭編）の目標と構成・内容を理解している。</p> <p>内容A・B・Cに共通：教科書の項目ごとの内容の要点を理解し、基礎的な知識と技術を身に着けている。</p> <p>他教科との関連と総括：内容間の関連と他教科との関連を理解し、新しい課題設定と解決に向けて教材研究することができる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：小学校家庭科教育の構成と内容：小学校家庭科の内容と中・高で扱われる内容の系統性について理解し、今後の学習方法について確認する。</p> <p>第2回：A 家族・家庭生活：自分の成長と家族、家庭生活の内容を中心に、少子高齢社会に対応した諸問題と、異年齢交流の要点を理解する。</p> <p>第3回：B 衣食住の生活（食生活）：日常の食事の大切さについて確認し、栄養・調理に関する基礎的な知識と技術について理解する。</p> <p>第4回：B 衣食住の生活（衣生活）：衣服の働きや快適な着装について理解すると同時に、基礎的な技能を確認するため、授業内課題に取り組む。</p> <p>第5回：B 衣食住の生活（住生活）：安全に住まうの内容を中心に、災害教育と関連付けた内容の取扱いについて確認し、災害教育のレポート課題を理解する。</p> <p>第6回：C 消費生活・環境（消費生活）：身近な物の選び方、キャッシュレス時代に対応したお金の使い方について、新しい教材開発の重要性を理解する。</p> <p>第7回：C 消費生活・環境（環境）：環境に配慮した生活とは、上記A～Cすべてに関連しており、多角的な視点で扱わなければならない内容であることを理解する。</p>			

第8回：他教科との関連と総括：家庭科の内容が、教科横断的に取り扱われることの重要性を理解し、授業内課題に取り組み、総括とする。

定期試験は実施しない

テキスト

- ・文部科学省 小学校学習指導要領解説（家庭編）
- ・教科書 小学校わたしたちの家庭科（5・6）開隆堂

参考書・参考資料等

随時関連資料を配布

学生に対する評価

レポート（60%）、発表・実技（20%）、授業内課題（20%）

授業科目名： 初等体育科内容論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 筒井 茂喜 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 体育		
授業のテーマ及び到達目標 小学校における体育科の目的・内容に関わる専門的知識を習得し、理解する。また、教育現場で起こる問題の本質を見極めようとする姿勢を身につける。			
授業の概要 小学校における体育科の目的・内容に関わる専門的知識を小学校学習指導要領解説体育編及びスポーツ諸科学（運動生理学、スポーツ心理学、スポーツバイオメカニクスなど）の知見をもとにした講義・演習を通して理解します。また、演習では、小学校体育授業で散見される問題を取り上げ、議論することを通して、その問題の根本的原因について考究します。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：本講義の概要と目標を理解し、これからの学習内容と方法を確認する。また、体育科の存在意義についての「問い」を持つ。 第2回：（1）小学校体育科の目標と内容及び存在意義について：「小学校学習指導要領解説保健体育編」をもとに、小学校体育科の目標と内容について理解する。また、スポーツ心理学の知見をもとに小学校体育科の存在意義について考究する。 （2）運動経験と非認知能力の関連について：運動経験と非認知能力の関連から、運動有能感と自己概念の形成及び非認知能力の関係について考究する。 第3回：（1）運動有能感と自己概念の関連について：運動有能感と自己概念の形成及び非認知能力との関連についての理解を深める （2）運動有能感について①：運動有能感及びその下位因子（身体の有能さの認知、統制感、受容感）についての理解を深める。 第4回：（1）運動有能感について②：運動有能感の発達傾向から、その背景に存在する教師の指導について考究する。 （2）小学校体育科の領域編成について：「小学校学習指導要領解説体育編」をもとに、小学校体育科の領域編成について理解する。 第5回：（1）陸上運動の教育内容①：「小学校学習指導要領解説体育編」及びスポーツバイオメカニクスの知見をもとに「短距離走」の教育内容を考究する。 （2）陸上運動の教育内容②：「小学校学習指導要領解説体育編」及びスポーツバイオメカニクス、スポーツ史の知見をもとに「走り高跳び」の教育内容を考究する。			

第6回：(1) 体づくり運動の教育内容：「小学校学習指導要領解説体育編」及び現代の子どもの心身の問題から体づくり運動が導入された背景及びの教育内容を考究する。

(2) 器械運動の教育内容：「小学校学習指導要領解説体育編」及びスポーツバイオメカニクスの知見をもとに「マット運動」の教育内容を考究する。

第7回：(1) 水泳運動の教育内容：「小学校学習指導要領解説体育編」及びスポーツ史の知見をもとに「水泳運動」の教育内容を考究する。

(2) 表現運動の教育内容：「小学校学習指導要領解説体育編」及びスポーツ史の知見をもとに「表現運動」の教育内容を考究する。

第8回：(1) ボール運動の教育内容①：「小学校学習指導要領解説体育編」及び体育科教育学の知見をもとに「ゴール型ゲーム」の教育内容を考究する。

(2) ボール運動の教育内容②：「小学校学習指導要領解説体育編」及び体育科教育学の知見をもとに「ベースボール型ゲーム」の教育内容を考究する。

定期試験

テキスト

『小学校学習指導要領解説体育編』、文部科学省、東山書房

参考書・参考資料等

『内容学と架橋する保健体育科教育論』、後藤幸弘・上原禎弘編、晃洋書房，『3ステップで変わる 実技教科指導ガイドブック』小竹光夫編、明治図書

学生に対する評価

定期試験（70%）、レポート（20%）、発表・実技（10%）

授業科目名： 初等英語科内容論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名：大牛英則 担当形態：単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項 外国語		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 授業実践に必要な「英語を聞きとる力」「英語を話す力」「英語を読む力」「英語を書く力」を身につけている。 ・ 英語授業実践に必要な「英語に関する基本的な知識」について理解している。 ・ 第二言語習得に関する基本的な事柄について理解している。 ・ 授業実践に必要な児童文学や異文化理解に関する事柄を理解している。 			
<p>授業の概要</p> <p>小学校における外国語活動や外国語科（英語）の授業の実践に必要な英語の基礎知識を学ぶだけでなく、授業で実際に用いる英語を使いながら身につけていく。授業では、それまでに自分が受けた英語の授業との比較をしながら、実際の授業を想定した発表も行っていく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：小学校外国語活動・外国語科の役割とフォニックスの基礎</p> <p>第2回：聞くこと、話すことの指導フォニックス①：授業で使うクラスルームイングリッシュを学び、実際の授業でどのようなタイミングや場面で用いるべきかについて考えたり、どのような内容を児童に対して話すべきかについて、体験を通して学ぶ。</p> <p>第3回：外国語学習と第二言語習得理論フォニックス②：第2言語学習環境と外国語学習環境の違いについて気づき、Krashenが唱えた「モニターモデル」をはじめとする第二言語習得理論と小学校外国語活動や外国語科で行う授業との関係について学ぶ。</p> <p>第4回：英語に関する基本的な知識①フォニックス③：英語の音声や文字、単語、文の書き方について、日本語と関連させながらそれらの基礎知識となるものを学び、指導についても考える。</p> <p>第5回：読むこと、書くことの指導フォニックス④：小学校外国語活動・外国語科における「読むこと」と「書くこと」の考え方を学び、実際に使われている教科書を題材にして、授業を通して児童にどのような力をつけ、そのためにはどのようなアプローチが必要不可欠であるかを考える。</p> <p>第6回：英語に関する基本的な知識②フォニックス⑤：英語の語彙や語彙指導とそれに関わる課題から英語の文構造や文法指導など日本語の文法と関連させながら、実際の指導についても学ぶ。</p> <p>第7回：ライム・歌・絵本・児童文学フォニックス⑥：小学校の授業で頻繁に用いられるチャンツや歌、絵本などの文学を紹介し、実際の授業でどのように取り入れることができるかについて考える。</p> <p>第8回：外国語における国際理解教育フォニックス⑦：外国語活動や外国語科の授業において重要となる国際理解（異文化理解）という視点について考え、授業においてどのように取り入れることができる</p>			

か実例を上げながら考える。

定期試験

テキスト

『小学校英語内容論入門』樋口・泉・加賀田 編 研究社

必要に応じて資料を配布する。

参考書・参考資料等

『小学校英語 はじめる教科書』 MPI

その他必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

試験 (50%)、小テスト (30%)、発表・実技 (20%)

授業科目名： 初等国語科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大江 実代子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>国語科の授業づくり：国語科の授業を行う上で必要な単元構成、教材研究、授業構想について理解し、模擬授業を行い、自己評価、考察ができる。</p> <p>指導案の作成：学習指導案について理解し、選択した教材を用いて学習指導案を作成することができる。</p> <p>思考力・判断力・表現力の育成：国語科における思考力・判断力・表現力の育成について具体的な指導方法を理解する。</p> <p>対話的な学習：対話の目的と形態を知り、授業計画時に適切な形態を選択できるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>国語科の授業を行う上で必要な単元構成、教材研究、授業構想についての具体的に指導方法に触れる。まず、学習指導案、発問構成、板書計画等、基本的な要件を理解する。また、これからの授業展開に欠かせないタブレット端末等ICTの効果的な活用や対話的な学習を成立させるポイント等、演習的な形態を取り入れ、理解と実践力を養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：授業の流れについて・国語科の授業づくりの全体を理解する。</p> <p>第2回：授業づくりの基本1 単元構成：学習指導要領の指導目標や指導事項を確認し、国語科単元学習の構成のポイント（ICT機器の活用を含む）について理解する。</p> <p>第3回：授業づくりの基本2 教材研究：教材研究の方法を知り、実際に教材分析を進めながら理解を深める。</p> <p>第4回：授業づくりの基本3 思考力育成：国語科で育成する思考力やその指導方法を理解する。</p> <p>第5回：授業づくりの基本4 発問と評価：授業の流れ、発問と評価、板書計画について理解する。</p> <p>第6回：授業づくりの基本5 対話活動：一斉学習での話し合いやグループワークの方法、話すこと・聞くことの基本となるスピーチ指導など演習を交えて理解を深める。</p> <p>第7回：授業づくりの基本6 読むこと①：文学的文章の指導事項と教材研究、指導計画の立て方を理解する。</p> <p>第8回：授業づくりの基本7 読むこと②：説明的文章の指導事項と教材研究、指導計画の立て方を理解する。</p>			

第9回：授業づくりの基本8 話すこと聞くこと：話すこと聞くことの指導事項と教材研究、指導計画の立て方を理解する。

第10回：授業づくりの基本9 書くこと①：書くことの指導事項と教材研究、指導計画の立て方を理解する。(低学年)

第11回：授業づくりの基本10 書くこと②：書くことの指導事項と教材研究、指導計画の立て方を理解する。(高学年)

第12回：学習指導案作成(1)：教材を選択し、実際に学習指導案を作成する。

第13回：学習指導案検討(2)：グループワークで学習指導案の検討を行う。

第14回：模擬授業と授業検討(1)：模擬授業を行い、板書、発問、授業の流れ等を具体的に検討する。

第15回：模擬授業と授業検討(2)：模擬授業を行い、板書、発問、授業の流れ等を具体的に検討する。

定期試験

テキスト

授業毎に必要なハンドアウトを配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説国語編』

『国語教師の力量を高める-発問・評価・文章分析の基礎-』井上尚美著 明治図書(2005)

光村図書 令和2年度小学校教科書 国語1～6年

学生に対する評価

試験(20%)、レポート(20%)、発表・実技(50%)、授業内課題(10%)

授業科目名： 初等社会科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 關 浩和 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>社会科の基本的性格：学習指導要領における社会科の目標、内容、カリキュラムの基本原理について理解している。</p> <p>社会科の教材研究：社会科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係を理解し、教材研究に活用している。</p> <p>社会科の授業設計：社会科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係を理解し、授業設計に活用している。</p> <p>社会科の模擬授業：社会科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係を理解し、社会科模擬授業に活用している。</p> <p>社会科におけるICTの活用：社会科授業づくりにおいて積極的にICTを活用して授業設計ができるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、社会科の教科理念を把握し、社会科の性格や目標、内容、授業構成の仕方、学習計画の立案、評価の方法など社会科の授業づくりに関する基本を理解することができる。また、本授業により、社会科の教師として1単元、1時間の授業を行うためには、「何をどのようにすればよいのか」を体得し、その学修成果を教育実習やその後の教育実践に活かせるようになることが求められます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：社会科の基本的性格：社会科授業における社会認識形成や公民的資質の育成の視点から理解するとともに、研究対象とする単元を選定する。</p> <p>第2回：第3学年社会科授業事例研究：社会科地域学習に関わる師範授業の動画を視聴し、何に着目して授業づくりをすればいいのかを理解する。</p> <p>第3回：第4学年社会科授業事例研究：社会科都市基盤学習に関わる師範授業の動画を視聴し、何に着目して授業づくりをすればいいのかを理解する。</p> <p>第4回：第5学年社会科授業事例研究：社会科産業学習に関わる師範授業の動画を視聴し、何に着目して授業づくりをすればいいのかを理解する。</p> <p>第5回：第6学年社会科授業事例研究：社会科歴史学習に関わる師範授業の動画を視聴し、何に着目して授業づくりをすればいいのかを理解する。</p>			

第6回：社会科授業設計の理論：社会科授業における発問・指示・説明の教師の教授行為に着目をして、子どもの知的好奇心を喚起できる社会科授業設計について考える。

第7回：社会科授業における教育技術：社会科授業における板書構成に着目をして、機能的な板書とともに、子どもの意見で構成する板書の活用について理解する。

第8回：社会科におけるICT活用：社会科授業において重要な役割である資料をICTを積極的に活用して、教師は提示したり、子どもも積極的に活用できる方法について考える。

第9回：社会科学習指導案の作成：単元目標や評価規準の設定、単元設定の理由、本時の学習過程など学習指導案作成のための基本的事項を理解する。

第10回：社会科授業実践—模擬授業①—：第3学年を選択したグループの代表者が、1時間の社会科授業をICT活用をして実践して、全体で社会科授業のあり方について討議する。

第11回：社会科授業実践—模擬授業②—：第4学年を選択したグループの代表者が、1時間の社会科授業をICT活用をして実践して、全体で社会科授業のあり方について討議する。

第12回：社会科授業実践—模擬授業③—：第5学年を選択したグループの代表者が、1時間の社会科授業をICT活用をして実践して、全体で社会科授業のあり方について討議する。

第13回：社会科授業実践—模擬授業④—：第6学年を選択したグループの代表者が、1時間の社会科授業をICT活用をして実践して、全体で社会科授業のあり方について討議する。

第14回：社会科授業実践—模擬授業⑤—：模擬授業を実践したグループで、全体での討議を受けて、改善モデルを提案できるようにする。

第15回：社会科の授業設計の理論と方法：社会科の教科理念を把握し、社会科の授業設計に関する基本を理解することができる。

定期試験は実施しない

テキスト

- ・文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説生活編』

参考書・参考資料等

- ・単元に合わせて、適宜参考文献を指示します。

学生に対する評価

レポート（30％）、発表・実技（20％）、授業内課題（50％）

授業科目名： 初等算数科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 赤井 利行
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>算数科授業のねらい：学習指導要領を基に、算数科授業の目標や授業に向けた学習環境の構成及び教材研究の取り組み方を理解できる。</p> <p>算数科授業構成の基礎：自力解決や集団解決の場で児童への対応など教師の役割を理解することができる。</p> <p>算数科授業の展開：グループで作成した学習指導案を基に授業を展開し、よりよい授業に修正し、作り上げることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>受講者が学習指導要領に示された小学校算数科の教育目標や指導内容を理解する。また、小学校算数科における児童の学習の実際や特徴について理解するとともに、学習評価の在り方について理解する。そして、小学校算数科の実践に必要な基本的な指導技術を身に付ける。さらに、小学校算数科における基本的な指導方法を理解し、授業づくりの方法を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：小学校算数科指導のねらいとその方法を理解する</p> <p>第2回：学習指導要領の分析：小学校算数科指導の目標と、授業構成の関係を理解する</p> <p>第3回：教材研究の視点：教材を学習経験と今後の展開の関係から分析し、児童が理解しやすいように授業構成をどう組み立てていくか理解する。</p> <p>第4回：授業における数学的活動：授業ビデオを基に、児童の理解を促す数学的活動を理解し、その数学的活動を体験する。</p> <p>第5回：授業における個への対応：授業ビデオを基に、自力解決や集団解決の場で児童の理解の差にどのように対応し、理解を促すか、その手立てを理解する。</p> <p>第6回：学習評価：机間指導、集団解決の場など様々な学習場面での評価の方法を理解する。</p> <p>第7回：ICTを含む数学的表現の育成：児童の表現活動が既習事項の活用、ICTを含む視覚的表現の活用、論理的な表現で構成されていることを理解する。</p> <p>第8回：ICTの活用：ICTの活用について、先進校で取り入れられている方法を理解し、これからの方向性について考察する。</p> <p>第9回：教材研究：小学校2年生の教材について、模擬授業を行うにあたり、どのように指導するのかその教材を分析し、検討する。</p>			

第10回：学習指導案の作成：教育実習及び小学校現場で行われている授業研究に際し、用いられる学習指導案を作成することができるようにする。

第11回：数と計算の模擬授業：学生自身が作成した数と計算の学習指導案に基づいて、授業を担当し、学生相互で授業の成果について評価しあう。

第12回：図形の模擬授業：学生自身が作成した図形の学習指導案に基づいて、授業を担当し、学生相互で授業の成果について評価しあう。

第13回：測定の模擬授業：学生自身が作成した測定の学習指導案に基づいて、授業を担当し、学生相互で授業の成果について評価しあう。

第14回：データの活用の模擬授業：学生自身が作成したデータの活用の学習指導案に基づいて、授業を担当し、学生相互で授業の成果について評価しあう。

第15回：総括：授業ビデオを観察し、受講者が作成した学習指導案と比較し、よりよい学習指導案を作るように修正し、学習指導案の作成の理解を深める。

定期試験は実施しない

テキスト

- ・文部科学省「学習指導要領解説算数科編」
- ・赤井利行編「表現力を育成する新算数科教材開発第2学年」明治図書

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

レポート（20%）、発表・実技（70%）、授業内課題（10%）

授業科目名： 初等理科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 安部 洋一郎
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学習指導要領に示された当該教科の目標や内容を理解する。：学習指導要領における理科の目標を理解し、それぞれの単元の学習指導を行う十分な知識のもとに、問題解決を通じた理科授業を構想することができる。</p> <p>基礎的な学習指導理論を理解し、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身に付ける。：理科教育研究の知見をもとに、理科授業に関わる児童の認知的特徴について理解し児童の主体性を活かした理科授業を構想することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業で扱う本質的理解は、指導要領における理科の目標の理解とし、各授業時間の学習における学びを、指導要領における目標の文言に結び付けて理解を深めるものとする。</p> <p>理科の好きな児童は多いが、教師にとって理科は指導の難しい教科であることとらえられることも多い。児童の主体的な問題解決を通して、資質・能力の育成を行うためにも、理科の面白さを教師が再認識することが大切だと考える。本授業では、理科授業を指導する方法だけでなく、理科教育研究の知見から学ぶ理科教育の在り方への理解とともに、理科を学ぶことの面白さと理科を指導することの喜びを伝えたい。そのためにも授業全体の構成は総論から各論への流れではなく、各論から総論への具体例を通じた帰納的な流れを中心とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：問題解決の過程：具体的な問題解決場面での活動と指導要領の参照を通して、小学校理科授業を概観的に理解する。</p> <p>第2回：理科教育のねらい：教科書をもとに、各授業で習得を図る資質・能力とは何かを考え、教育基本法の記述や、PISA等の国際調査からそれを深める。</p> <p>第3回：理科教育の特徴：「見方・考え方」や「科学的」など、他の教科と異なる理科教育の特徴を学び、その視点から授業を見つめなおす。</p> <p>第4回：知識・理解の構造：小学校で扱う科学的内容に関する素朴概念や確証バイアスなどの理解に関わる認知的構造を学び、概念を再構成する授業の在り方を検討する。</p> <p>第5回：観察による仮説検証、発見：具体的な観察活動を通して、理論負荷性による観察の困難を学び、児童による観察を深めるための方法を考える。</p> <p>第6回：評価について：理科授業で行う評価の在り方についてその方法論を学び、実際の評価活動を通</p>			

して具体を理解する。

第7回：問題作り場面の指導：第3学年の学習を材料に、児童が主体的に問題作りを行うための指導方法を考える。

第8回：予想・仮説形成場面の指導：第4学年の学習を材料に、児童が主体的に予想・仮説形成を行うための指導方法を考える。

第9回：解決の方法の立案場面の指導：第5学年の学習を材料に、児童が主体的に解決の方法の立案を行うための指導方法を考える。

第10回：より妥当な考えの形成場面の指導：第6学年の学習を材料に、児童が主体的に解決の方法の立案を行うための指導方法を考える。

第11回：理科教育研究総論：理科教育研究の歴史的経緯を踏まえつつ、今日の理科教育の在り方を概観する。

第12回：指導案の理解と作成：指導案の役割と書き方を知り、必要に応じて実際の実験器具を参照しながら本時案について記述する。

第13回：指導案の理解と作成：他の学生の記述した指導案を参照し自分の指導案を振り返るとともに、単元計画について記述する。また、評価の具体的な方法を検討する。

第14回：指導案の理解と作成：指導案における文章記述について知り、趣旨を記述する。

第15回：模擬授業の実施とふり返し：模擬授業と事後検討会の実施を通して、授業研究の在り方を知り、自分たちの力で授業研究会を進める力を身に付ける。

定期試験は実施しない

テキスト

文部科学省『小学校学習指導要領解説理科編』東洋館出版社

小学校理科教科書『わくわく理科3～6年』新興出版社啓林館

参考書・参考資料等

山下芳樹・平田豊誠（編著）『初等理科教育（新しい教職教育講座 教科教育編 4）』ミネルヴァ書房

学生に対する評価

授業内課題（100%）

授業科目名： 初等生活科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 關 浩和 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>生活科の基本的性格：学習指導要領における生活科の目標、内容、カリキュラムの基本原理について理解している。</p> <p>生活科の教材研究：生活科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係を理解し、教材研究に活用している。</p> <p>生活科の授業設計：生活科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係を理解し、授業設計に活用している。</p> <p>生活科の模擬授業：生活科の学習目標や内容とその背景にある学問との関係を理解し、生活科模擬授業に活用している。</p> <p>生活科におけるICTの活用：生活科授業づくりにおいて積極的にICTを活用して授業設計ができるようにする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本講義は、生活科の教科理念を把握し、生活科の性格や目標、内容、授業構成の仕方、学習計画の立案、評価の方法など社会科の授業づくりに関する基本を理解することができる。また、本講義は、生活科教師として1単元、1時間の授業を行うためには、「何をどのようにすればよいのか」を体得し、その学修成果を教育実習やその後の教育実践に活かせるようになることが求められます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生活科の基本的性格：生活科授業における社会認識や自然認識、自己認識の形成の視点から理解するとともに、研究対象とする単元を選定する。</p> <p>第2回：生活科授業事例研究①：第1学年生活科の師範授業の動画を視聴し、何に着目して授業づくりをすればいいのかを理解する。</p> <p>第3回：生活科授業事例研究②：第2学年生活科の師範授業の動画を視聴し、何に着目して授業づくりをすればいいのかを理解する。</p> <p>第4回：生活科授業設計の理論：生活科における主発問のあり方に着目をして、子どもの知的好奇心を喚起できる生活科授業設計について考える。</p> <p>第5回：生活科授業における 教育技術・活動構成：生活科授業における板書構成に着目をして、子どもの意見で構成する板書の活用と子どもの活動構成のあり方について理解する。</p>			

第6回：生活科におけるICT活用：生活科授業において重要な役割である資料提示をICTを積極的に活用する方法について考える。

第7回：生活科における体験的活動：生活科授業において重要な役割である体験的活動のあり方や「遊び」を授業に取り入れる意義を考える。

第8回：生活科学習指導案の作成：単元目標や評価規準の設定，単元設定の理由，本時の学習過程など学習指導案作成のための基本的事項を理解する。

第9回：生活科授業実践－模擬授業①－：学校の生活に関する内容を選択したグループの代表者が，1時間の生活科授業をICT活用をして実践して，全体で生活科授業のあり方について討議する。

第10回：生活科授業実践－模擬授業②－：家庭の生活に関する内容を選択したグループの代表者が，1時間の生活科授業をICT活用をして実践して，全体で生活科授業のあり方について討議する。

第11回：生活科授業実践－模擬授業③－：地域の生活に関する内容を選択したグループの代表者が，1時間の生活科授業をICT活用をして実践して，全体で生活科授業のあり方について討議する。

第12回：生活科授業実践－模擬授業④－：身近な自然と関わる活動を選択したグループの代表者が，1時間の生活科授業をICT活用をして実践して，全体で生活科授業のあり方について討議する。

第13回：生活科授業実践－模擬授業⑤－：身近な社会と関わる活動を選択したグループの代表者が，1時間の生活科授業をICT活用をして実践して，全体で生活科授業のあり方について討議する。

第14回：生活科授業実践－模擬授業⑥－：自分自身の生活や成長に関する内容を選択したグループの代表者が，1時間の生活科授業をICT活用をして実践して，全体で生活科授業のあり方について討議する。

第15回：生活科の授業設計の理論と方法：生活科の教科理念を把握し，生活科の授業設計に関する基本を理解することができる。

定期試験は実施しない

テキスト

關浩和（2019）『生活科カリキュラム・マネジメント』ふくろう出版

参考書・参考資料等

文部科学省（2017）『小学校学習指導要領解説生活編』

学生に対する評価

レポート（30%）、発表・実技（20%）、授業内課題（50%）

授業科目名： 初等音楽科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 井上 朋子
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 小学校学習指導要領等音楽科の目標や内容、指導内容を理解している 2 教材研究を行い、学習指導案を作成することができる 3 模擬授業を通して、授業改善の視点を身に付けている 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業は、小学校音楽科における目標と指導内容を理解するとともに、授業実践に必要な知識と指導技術、また授業づくりの方法を身に付けることを目的とします。具体的に、まずは小学校音楽科学習指導要領に示されている各学年の目標及び指導内容、また児童期における音楽学習の実際と学習評価の在り方について学びます。最終的には、模擬授業の実施と振り返りを通して、自ら授業改善に取り組める実践的指導力を身に付けます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、音楽教育の意義</p> <p>第2回：小学校音楽科の目標の変遷、各学年の目標や共通事項について</p> <p>第3回：歌唱教材研究と指導法</p> <p>第4回：器楽教材研究と指導法</p> <p>第5回：音楽づくりの教材研究と指導法</p> <p>第6回：鑑賞教材研究と指導法—情報機器の活用</p> <p>第7回：音楽科と他教科等との関連、校種間の連携</p> <p>第8回：指導計画の作成と学習指導案の立案</p> <p>第9回：音楽学習の評価</p> <p>第10回：模擬授業の実施と振り返り①（低学年・表現）</p> <p>第11回：模擬授業の実施と振り返り②（中学年・表現）</p> <p>第12回：模擬授業の実施と振り返り③（低中学年・鑑賞）</p> <p>第13回：模擬授業の実施と振り返り④（高学年・表現）</p> <p>第14回：模擬授業の実施と振り返り⑤（高学年・鑑賞）</p> <p>第15回：まとめ</p> <p>定期試験</p>			

テキスト
初等科音楽教育研究会編『初等科音楽教育法』音楽之友社, 2020 『音楽のおくりもの1～6』教育出版
参考書・参考資料等
文部科学省 『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 音楽編』 東洋館出版社
学生に対する評価
筆記試験（60%）、課題への取り組み（40%）

授業科目名： 初等図画工作科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 半田 結 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 図画工作科の理念や背景について理解する 図画工作科の各学年における学習指導について理解する			
授業の概要 小学校の図画工作科の内容と指導法について、ICTを活用して各自が具体的な事例を取り上げながら体験的に学びます。小学校図画工作科学習指導要領をもとに、図画工作科の理念や背景、学習指導、小学校図画工作科の目標や内容等をふまえ、現代的な課題の理解を深めます。まとめとして、図画工作科の授業計画の一部を構想、計画して模擬授業を行い、研究討議を行います。なお授業は、次回のテーマについて各自がICTを活用して情報を収集・整理した予習を踏まえてグループでの実践や討議を中心に行い、まとめとなる学習指導計画と教材研究の内容は受講者間で共有し、各自の振り返りと実践力の向上に役立てます。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：受講方法と学びの方針、現代の子どもと図画工作科の重要性について 第2回：図画工作科の意義と内容：学習指導要領における図画工作科の目標と内容について 第3回：造形遊び①材料をもとに：いろいろな材料をもとにした造形遊びに関する学習指導を行う 第4回：造形遊び②様々な造形方法をもとに：様々な造形方法をもとにした造形遊びに関する学習指導を行う 第5回：絵に表すを主とした指導①：絵に表すを主とした学習指導について、目標と内容を中心に行う 第6回：絵に表すを主とした指導②：絵に表すを主とした学習指導について、指導方法、用具・材料の扱いを中心に行う 第7回：子どもの心身の発達と児童画：子どもの心身の発達と児童画の見方について 第8回：立体に表すを主とした指導①：立体に表すを主とした学習指導について、目標と内容を中心に行う 第9回：立体に表すを主とした指導②：立体に表すを主とした学習指導について、指導方法、用具・材料の扱いを中心に行う 第10回：鑑賞に関する学習指導①：鑑賞に関する学習指導を、目標と内容を中心に行う 第11回：鑑賞に関する学習指導②：鑑賞に関する学習指導を、指導方法を中心に行う 第12回：図画工作科の評価：図画工作科における評価の理論と実際について学ぶ			

第13回：学習指導計画の立案と教材研究①：学習指導案を作成する

第14回：学習指導計画の立案と教材研究②：模擬授業を実施し、振り返りを行う

第15回：学習指導計画の立案と教材研究③：学習指導案の再検討と修正を行う

定期試験

テキスト

山口喜雄・佐藤昌彦・奥村高明『小学校図画工作教育法』建帛社、2018年

参考書・参考資料等

小学校学習指導要領（2017年文部科学省告示）

学生に対する評価

授業内で行う課題への参加（25%）、リフレクションペーパー提出（25%）、学習指導案や課題提出（25%）、試験（25%）

授業科目名： 初等家庭科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 相川 美和子 担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>小学校学習指導要領（家庭編）の内容を踏まえて、単元ごとの学習目標を明確にした指導案作成を行うことによって、指導の方法・形態は多様にあることを理解する。更に模擬授業を通して実践力を高めると同時に、指導と評価の一体化について考察しながら授業技術の向上を目指すことを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>小学校家庭科教育の理念と意義：小学校学習指導要領解説（家庭編）の目標及び主な内容を理解し、重点を説明することができる。</p> <p>内容A・B・Cに共通：小学校家庭科指導に必要な基本的知識及び技術を身に着けるとともに、教材研究をすることができる。</p> <p>学習指導案と模擬授業：小学生を取り巻く生活実態を視野に入れた指導案作成を行い、模擬授業を行うことができる。</p> <p>総括 授業力向上に向けて：新しい生活課題を見出し、児童の主体的な学びを深める授業設計の向上に取り組むことができる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：小学校家庭科教育の理念と意義：小学校学習指導要領解説（家庭編）の目標及び内容・構成について理解し、今後の学習方法について確認する。</p> <p>第2回：A 家族・家庭生活（1）：家族・家庭生活の内容に関する指導上の留意点と教科の特性を踏まえた評価基準について理解する。</p> <p>第3回：A 家族・家庭生活（2）：「わたしの生活時間」を中心に、教材研究を行い、授業設計の要点を整理し、授業内課題に取り組む。</p> <p>第4回：B 衣食住の生活食生活（1）：「食生活」の内容に関する指導の留意点について、「食育」を背景とした広い視野から理解する。</p> <p>第5回：B 衣食住の生活食生活（2）：「食事の役割」「調理の基礎」「栄養を考えた食事」に関する教材研究を行い、授業内課題に取り組む。</p> <p>第6回：B 衣食住の生活衣生活（1）：「衣生活」の内容に関する指導の留意点について「衣服の着用と手入れ」を題材に要点を理解する。</p> <p>第7回：B 衣食住の生活衣生活（2）：「生活を豊かにするために布を用いた物の製作」を題材に、</p>			

実習を伴う授業設計の要点について理解し、授業内課題に取り組む。

第8回：B 衣食住の生活住生活（1）：「住生活」の内容に関する指導の留意点について理解し、災害教育と関連付けて教材研究することの重要性を理解する。

第9回：C 消費生活・環境：環境に配慮した消費生活と持続可能な社会の関連を確認し、指導の留意点について理解すると共に、授業内課題に取り組む。

第10回：授業設計と学習指導案：ICTを効率的に取り入れた授業設計と学習指導案の構成要素について理解する。

第11回：模擬授業指導案作成（1）：具体的な授業を想定した授業設計をし、学習指導案を作成する。

第12回：模擬授業指導案作成（2）：子どもの実態を踏まえ、指導者独自の視点で授業設計がされているかグループで相互評価しながら、指導案を完成させる。

第13回：模擬授業実施：模擬授業を行い、自己評価と相互評価を行う。

第14回：模擬授業事後指導：模擬授業についての自己評価と相互評価を基に、授業改善に向けたグループ討議を行う。

第15回：総括 授業力向上に向けて：指導と評価の一体化について確認し、授業力向上に向けた授業内課題に取り組み、総括とする。

定期試験は実施しない

テキスト

- ・文部科学省 小学校学習指導要領解説（家庭編）
- ・教科書 小学校わたしたちの家庭科（5・6）開隆堂

参考書・参考資料等

随時関連資料を配布

学生に対する評価

発表・実技（50%）、授業内課題（50%）

授業科目名： 初等体育科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 筒井 茂喜 担当形態： 単独
科目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標 小学校体育授業における実践的指導力の習得：運動有能感を高める体育授業を実践するための指導力を身につける。			
授業の概要 1年次で学修したことを踏まえ、実践的指導力の習得をめざす。 具体的には、「できない子ども」に対する具体的指導法（例えば、跳び箱が跳べない子どもへの指導、長縄跳びができない子どもへの指導など）で実技を通して学ぶとともに、体育科学習指導案の作成によって実践力の向上を図る。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：本講義の概要を理解し、これからの学習内容と方法を確認する。 第2回：体育科の目標・領域編成及び各領域の内容について、その概要を理解する。また、よい体育授業を具現化する高田四原則及びよい体育授業の内容条件、基底条件について理解する。 第3回：動機づけ雰囲気について：動機づけ理論の理解と熟達雰囲気の授業をめざす指導について考究する。 第4回：体づくり運動の指導①－短縄跳びを例に－：短縄跳びが苦手な子どもへの指導法の実際について学ぶ。具体的には、短縄跳び運動の技の系統性及び運動構造を踏まえたスモールステップによる指導法を身につける。 第5回：体づくり運動の指導②－長縄跳びを例に－：長縄跳びが苦手な子どもへの指導法の実際について学ぶ。具体的には、長縄跳び運動の技の系統性及び運動構造を踏まえたスモールステップによる指導法を身につける。 第6回：器械運動の指導①－開脚跳びを例に－：開脚跳びが苦手な子どもへの指導法の実際について学ぶ。具体的には、開脚跳びを例にして跳び運動の技の系統性及び運動構造を踏まえたスモールステップによる指導法を身につける。 第7回：器械運動の指導②－前転・後転を例に－：マット運動（前転・後転）が苦手な子どもへの指導法の実際について学ぶ。具体的には、前転・後転を例にしてマット運動の技の系統性及び運動構造を踏まえたスモールステップによる指導法を身につける。 なお、第4回から第7回の講義においては、対象とする運動の構造理解を促すために、ICTを活用した動作分析を用いる。また、ICTを活用した指導法についても言及する。			

第8回：陸上運動の指導－折り返しリレーを例に－：リレーの教材価値を踏まえた指導法の実際について学ぶ。具体的には、低学年折り返しリレーを例にして、子どもがリレーに熱中する教材をつくる方法、指導法を身につける。

第9回：ボール運動の指導①－ならびっこベースボールを例に－：ベースボール型ゲームの教材価値を踏まえた指導法の実際について学ぶ。具体的には、低学年用ベースボール型ゲーム教材「ならびっこベースボール」を例にして、ボール運動が苦手な子どもも積極的に参加できるベースボール型ゲームの教材をつくる方法、指導法を身につける。

第10回：ボール運動の指導②－フットビーを例に－：ゴール型ゲームの教材価値を踏まえた指導法の実際について学ぶ。具体的には、中・高学年用ゴール型ゲーム教材「フットビー」を例にして、ボール運動が苦手な子どもも積極的に参加できるゴール型ゲームの教材をつくる方法、指導法を身につける。

第11回：小学校体育科学習指導案の作成について：小学校体育科指導案を批判的に検討することで、小学校体育科学習指導案の内容について学ぶ。

第12回：指導案作成①（単元目標、児童観、教材観、指導観）：子供の認識・思考の発達及び既習事項を考慮した単元目標、児童観、教材観、指導観を考え、作成する。

第13回：指導案作成②（指導計画、本時目標、本時展開）：指導計画、本時目標、本時展開を作成する。

第14回：指導案作成③（修正点を改善し、指導案を仕上げる）：作成した指導案を修正・改善することで、指導案を仕上げる。

第15回：模擬授業：作成した指導案をもとに模擬授業を実施し、その振り返りを通して、授業改善の視点と方法を理解する。

定期試験

テキスト

『小学校学習指導要領解説保健体育編』、文部科学省、東山書房

参考書・参考資料等

『内容学と架橋する保健体育科教育論』、後藤幸弘・上原禎弘編、晃洋書房『3ステップで変わる 実技教科指導ガイドブック』小竹光夫編、明治図書

学生に対する評価

試験（30%）、レポート（20%）、発表・模擬授業（50%）

授業科目名： 初等英語科教育法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大牛 英則
			担当形態： 単独
科 目	教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>小学校における外国語活動（中学年）・外国語科（高学年）の学習・指導・評価に関する基本的な知識を理解し、それぞれの活動の意図を説明できる。</p> <p>小学校における外国語活動（中学年）・外国語科（高学年）の学習・指導・評価に関する基本的な指導技術を身に付け、効果的な指導を実施することができる。</p>			
授業の概要			
<p>小学校における外国語教育に係る背景知識・主教材、小・中・高等学校の外国語教育における小学校の役割、児童期の第二言語習得の特徴、多様な指導環境について理解し、授業実践に必要な基本的な指導技術や実際の授業づくりに必要な知識・技術を身に付けることを目指す。</p>			
授業計画			
<p>第1回：小学校教育の理念、学習指導要領に見る外国語活動・外国語科：授業計画、成績評価の方法と評価の割合、小学校学習指導要領に記載されている小学校教育の理念や外国語活動・外国語科設置の趣旨（講義）</p> <p>第2回：中高学年の接続、小中の連携と小学校の役割：外国語活動と外国語科の接続の在り方および小学校・中学校の連携における小学校外国語教育の役割（講義）</p> <p>第3回：発達心理学の基礎、児童や学校の多様性への対応：児童の心理学的発達を踏まえた指導の在り方や様々な特性を持つ児童への対応の仕方（講義）</p> <p>第4回：外国語活動・外国語科の目標、言語使用を通じた言語習得・音声によるインプット：学習指導要領に示された目標および言語習得を目的とする活動の在り方（講義、授業観察）</p> <p>第5回：コミュニケーションの目的や場面、状況等を明確にした言語活動：言語活動を設定する際に必要となる考え方（講義）</p> <p>第6回：言葉への気づき・文字言語との出会い、音声から文字へ：領域「聞くこと」「話すこと」から領域「読むこと」「書くこと」への移行（授業体験：授業担当者による実演）</p> <p>第7回：読む活動から書く活動への導き方：読む活動から書く活動への導き方（授業体験：授業担当者による実演）</p> <p>第8回：Classroom English, Small Talk, Teacher Talk：授業中における教師の発話の種類とその特徴、および児童の発話を誘う方法（授業体験、模擬授業）</p> <p>第9回：題材の選定と中学年・高学年に適した教材：各学年における目標を踏まえた教材選定の視点と</p>			

教材例（講義）

第10回：学習到達目標、指導計画：年間指導計画に基づいた単元における到達目標設定の仕方およびその指導計画作成の在り方（講義）

第11回：学習指導案の作り方：単元指導計画および学習指導案作成の方法（講義）

第12回：ALT等とのチーム・ティーチングによる指導：チーム・ティーチングを実施するためのALT等との打合せ、授業中におけるそれぞれの役割（講義、授業観察）

第13回：読み聞かせ・発表活動の指導：絵本の読み聞かせ、領域「話すこと（発表）」における発表活動の指導の方法（模擬授業）

第14回：ICT等の活用の仕方：各領域の目標を達成するために効果的なICT機器活用の在り方と活用方法（講義、授業観察）

第15回：学習状況の評価（パフォーマンス評価）：パフォーマンステスト実施に向けた課題設定の仕方およびルーブリックによる評価の在り方（講義）

定期試験

テキスト

小川隆夫、東仁美『小学校英語 はじめる教科書 改訂版』mpi松香フォニックス、2022

参考書・参考資料等

文部科学省『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語活動・外国語編』

文部科学省『Let's Try!1』『Let's Try!2』東京書籍、2019

学生に対する評価

試験（20%）、小テスト（20%）、レポート（20%）、発表・実践（20%）、授業内課題（20%）

授業科目名： 音楽Ⅰ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 井上 朋子・立本 千寿子
			担当形態： 複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 読譜に必要な知識を身に付けている。 ・ 保育・教育現場で必要となる基礎的なピアノ技能を身に付けている。 ・ 表現豊かなピアノ演奏や歌唱表現ができるよう、自分なりに工夫することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、個人レッスンと集団授業を組み合わせながら、幼児教育及び小学校教育の現場で必要となる音楽の基礎的な知識と技能を身に付けます。個人レッスンでは、個々のレベルに合った楽曲に取り組み、ピアノと弾き歌いの技能の修得を目指します。また、集団授業では、読譜に必要な知識を身に付けるとともに、独唱や合唱などの演習を通じて歌唱表現に関する知識と技能を修得します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン／【集団授業】楽典の理解度の確認</p> <p>第2回：【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン／【集団授業】譜表と音名</p> <p>第3回：【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン／【集団授業】音符と休符</p> <p>第4回：【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン／【集団授業】拍子とリズム</p> <p>第5回：【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン／【集団授業】音程</p> <p>第6回：【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン／【集団授業】長調と短調</p> <p>第7回：【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン／【集団授業】反復記号、強弱記号</p> <p>第8回：【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン／【集団授業】その他の音楽記号、音楽用語</p> <p>第9回：【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン／【集団授業】楽典のテスト</p> <p>第10回：【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン／【集団授業】声の出し方</p> <p>第11回：【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン／【集団授業】歌の表現方法について①</p> <p>第12回：【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン／【集団授業】歌の表現方法について②</p> <p>第13回：【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン／【集団授業】合唱と指揮法①</p> <p>第14回：【個人レッスン】個別のレベルに応じたレッスン／【集団授業】合唱と指揮法②</p> <p>第15回：ピアノ、弾き歌い、歌の成果発表</p>			

テキスト

『標準バイエル教則本』全音楽譜出版社
初等科音楽教育研究会編『初等科音楽教育法』音楽之友社, 2020

参考書・参考資料等

『ブルグミュラー25練習曲』全音楽譜出版社、『ソナチネアルバム1』全音楽譜出版社

学生に対する評価

実技試験75%、小テスト25%

授業科目名： 総合表現教育 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 半田結・井上朋子・永井夕起子 担当形態：複数
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分自身や他者の感覚や感性の特徴を理解・受容する。 自分の感覚に気付くとともに、感じたことや思いを表現したり、伝えたりする力を身に付けている。 ・総合的な表現の学びを通して、表現を支える感性を豊かにする。 音楽・造形・身体表現に関する総合的な芸術表現を知り、多様な表現の可能性を探究することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>子どもたちの豊かな感性を育むには、保育者や教師自身の感性や表現力が重要です。「総合表現教育 I」では、音楽・造形・身体表現の領域や科目の枠組みに捉われない、感覚的な表現や総合的な表現を体験的に学ぶ中で、まずは諸感覚をひらき、学生自身の感覚や感性に気付くことを目指します。また、他者に自分の思いを表現したり、他者と共に表現したりすることを通して、自らの感性をさらに磨くとともに、コミュニケーション力や表現力の向上につなげます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション」 総合表現教育 I の授業目的と内容を理解するとともに、現段階の自分の感覚や表現力を確認する</p> <p>第2回：「感覚をひらく①」音を介して</p> <p>第3回：「感覚をひらく②」人やものに触れて</p> <p>第4回：「感覚をひらく③」ものを見て</p> <p>第5回：「感覚をひらく④」匂いや味を表して</p> <p>第6回：「身体をひらく①」触れてつくる</p> <p>第7回：「身体をひらく②」音を出してつくる</p> <p>第8回：「身体をひらく③」動きをつくる</p> <p>第9回：「身体をひらく④」グループ作品をつくる</p> <p>第10回：「領域を横断して」音楽・造形・身体表現の共通要素を見つける</p> <p>第11回：「自分をひらく①」動く・動かされる</p> <p>第12回：「自分をひらく②」身体で描写する</p>			

第13回：「自分をひらく③」 絵楽譜を音と動きで表す

第14回：「自分をひらく④」 グループ発表

第15回：「学習のまとめ」 全15回を振り返り、今の自分の感覚や表現力を確認する

定期試験は実施しない

テキスト

適宜、プリントを配布する

参考書・参考資料等

マリー・シェーファー・今田匡彦『音さがしの本 リトル・サウンド・エデュケーション』

春秋社（1996年）

学生に対する評価

発表・実技（50%）、授業内課題（50%）

授業科目名： 総合表現教育Ⅱ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 半田結・井上朋子・永井夕起子 担当形態：複数
科目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分や他者の動きや感覚の特徴を活かした表現ができる。 自分の感覚を磨くとともに、感じたことや思いを豊かに表現できる力を身に付けている。 ・総合的な芸術表現を理解し、豊かに表現することができる。 芸術を広義に捉えるとともに、総合芸術教育のあり方を理解し、多様な表現の可能性を探究することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>「総合表現教育Ⅱ」では、「総合表現教育Ⅰ」での諸感覚を用いた感覚的な表現を基に、言語、自然、社会などを含めた他分野との領域横断的な表現を体験的に学びます。多様な表現活動を通して、学生自身の感受性、コミュニケーション力、表現力をより一層高めるとともに、子どもの未分化な表現を体験しながら、幼小連携を意識した新しい表現方法や指導法を探求します。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション」</p> <p>総合表現教育Ⅱの授業目的と内容を理解するとともに、現段階の自分の感覚や表現力を確認する</p> <p>第2回：「感情とつながる①」 出会いを楽しむ</p> <p>第3回：「感情とつながる②」 互いに感情を表現する</p> <p>第4回：「言葉とつながる①」 オノマトペを感じる</p> <p>第5回：「言葉とつながる②」 オノマトペを表現する</p> <p>第6回：「言葉とつながる③」 オノマトペを表現する（発表）</p> <p>第7回：「世界とつながる①」 世界の文字・あそび等を知る・体験する</p> <p>第8回：「世界とつながる②」 世界のアートを知る・体験する（アジア・アメリカ）</p> <p>第9回：「世界とつながる③」 世界のアートを知る・体験する（ヨーロッパ・アフリカ）</p> <p>第10回：「領域を横断して」 音楽・造形・身体表現・他の領域の共通要素を見つける</p> <p>第11回：「自然・科学とつながる①」 身の回りの自然・科学について知る・調べる</p> <p>第12回：「自然・科学とつながる②」 身の回りの自然・科学を表現する（グループ練習①）</p> <p>第13回：「自然・科学とつながる③」 身の回りの自然・科学を表現する（グループ練習②）</p> <p>第14回：「自然・科学とつながる④」 身の回りの自然・科学を表現する（グループ発表）</p>			

第15回：「学習のまとめ」全15回を振り返り、今の自分の感覚や表現力を確認する

定期試験 実施しない

テキスト

適宜、プリントを配布する

参考書・参考資料等

佐藤有紀『「感じ」が伝わるふしぎな言葉 擬音語・擬態語ってなんだろう』、少年写真新聞社（2018）、清水満・小松和彦・松本健義『表現芸術の世界』萌文書林（2010）

学生に対する評価

発表・実技（50%）、授業内課題（50%）

授業科目名： 個別教育計画作成演習	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 松田 信樹
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>個別教育計画を作成する意義について理解できる。</p> <p>個別教育計画を作成できる。</p> <p>個別教育計画に基づいた指導（支援）ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>個別教育計画（Individualized Education Plan；IEP）は、学習者一人一人のニーズを正確に把握し、個別最適化された教育的を行うことを目的とした教育計画である。本授業では、学習者個々の特性を正確に把握した上で教育計画を作成し、個別教育計画に基づいた教育の実践方法を体験的に学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：個別教育計画とは：個別教育計画（IEP）とは何か、「個別教育計画概論」の授業で学んだことを復習し、IEPを用いた教育の意義を再確認する。</p> <p>第2回：アセスメント①：事例に基づき、学習者の特性を把握する方法を実践的に学ぶ。</p> <p>第3回：アセスメント②：保護者の子どもへの願いを面接を通して把握する方法を、ロールプレイを通じて体験的に学ぶ。</p> <p>第4回：目標設定①：教育目標と個別教育計画の目標設定の方法を、事例を通じて実践的に学ぶ。</p> <p>第5回：目標設定②：アセスメントの結果に基づいて目標を設定する方法を、事例を通じて実践的に学ぶ。</p> <p>第6回：指導（支援）計画の作成①：具体的かつ観察可能な目標を設定し、指導（支援）の実践に結び付ける方法を、事例を通じて実践的に学ぶ。</p> <p>第7回：指導（支援）計画の作成②：目標を達成するためにどのような手段を用いるかを、事例を通じて実践的に学ぶ。</p> <p>第8回：指導（支援）の展開①：指導（支援）を実際に行う際に考慮すべきことについて、事例研究を通じて学ぶ。</p> <p>第9回：指導（支援）の展開②：指導（支援）を行った後の記録の取り方について、ロールプレイを通じて実践的に学ぶ。</p> <p>第10回：個別教育計画の評価：個別教育計画に基づいた指導（支援）結果を、次の個別教育計画に反映させる方法を、事例を通じて実践的に学ぶ。</p>			

第11回：ロールプレイによる実践①：個別教育計画に基づいた教育実践を、ロールプレイにより模擬的に体験する。

第12回：ロールプレイによる実践②：個別教育計画に基づいた教育実践を、ロールプレイにより模擬的に体験する。

第13回：ロールプレイによる実践③：個別教育計画に基づいた教育実践を、ロールプレイにより模擬的に体験する。

第14回：ロールプレイによる実践④：個別教育計画に基づいた教育実践を、ロールプレイにより模擬的に体験する。

第15回：まとめ：個別教育計画に基づいた教育は、これまでの教育をどのように変えていくかについて考える。

定期試験は実施しない

テキスト

テキストは使用しない。授業資料を配布する。

参考書・参考資料等

『幼稚園・小中高等学校における特別支援教育の進め方⑤ 「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の作成と活用』 全国特別支援教育推進連盟（編） 2019 ジアース教育新社

学生に対する評価

レポート（50%）、授業内課題（50%）

授業科目名： ふれあい体験活動	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 大江 実代子
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども理解 言葉や行動に着目し、子ども理解について考えることができる。 ・子どもへの働きかけ 教師は子どもに、指示や促し、評価など、状況や場面により、様々な働きかけることを理解することができる。 ・学級経営 学級経営に関心を持ち教師や子どもの動きを観察することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、幼稚園、小学校及び特別支援学校において、現職教員の指導の下、子どもたちとのふれあいを中心とし、見学・観察・参加の体験を通して児童理解を深め、教員となる意欲と構えを養う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「実習の目的」 ふれあい体験活動の意義と目的を確認する。</p> <p>第2回：「実習の内容・流れ」 ふれあい体験活動の内容や全体の流れを知り心構えを確認する。</p> <p>第3回：「子どもとのふれあい 1」 子どもとのふれあい方についてグループワークの形式で検討する。</p> <p>第4回：「子どもとのふれあい 2」 子どもとのふれあい方や挨拶をプレゼンテーションする。</p> <p>第5回：「ふれあい体験活動 1」 幼稚園・小学校および特別支援学校において、主として、遊びを通して子どもたちの言動を観察する。</p> <p>第6回：「ふれあい体験活動 2」 幼稚園・小学校および特別支援学校において、主として、遊びを通して子どもの友だち関係などを観察する。</p> <p>第7回：「ふれあい体験活動 3」 幼稚園・小学校および特別支援学校において、主として朝の会や終わりの会、給食などの学校生活の流れを観察する。</p>			

第8回：「ふれあい体験活動 4」

幼稚園・小学校および特別支援学校において、主として特別活動の時間や特別の教科道徳の時間の学習の流れを観察する。

第9回：「ふれあい体験活動 5」

幼稚園・小学校および特別支援学校において、主として授業を参観し、指導者（教師）の発問や板書を観察する。

第10回：「ふれあい体験活動 6」

幼稚園・小学校および特別支援学校において、主として授業を参観し、指導者（教師）の個々への配慮等を観察する。

第11回：「ふれあい体験活動 7」

幼稚園・小学校および特別支援学校において、主として授業を参観し、発問、指示を受けた子どもたちの反応を観察する。

第12回：「ふれあい体験活動 8」

幼稚園・小学校および特別支援学校において、主として授業を参観し、発問、指示を受けた子どもたちの様子を記録する。

第13回：「ふれあい体験活動 9」

幼稚園・小学校および特別支援学校において、自分なりの視点を決めて観察を深める。

第14回：「ふれあい体験活動 10」

幼稚園・小学校および特別支援学校において、視点を变えて観察したことを記録し、多角的な視点について考察する。

第15回：「実習の振り返り」

実習記録をもとにふれあい体験活動を振り返る。

定期試験 実施しない

テキスト

授業時にハンドアウトを配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領』、文部科学省（2017）『学習指導要領』

学生に対する評価

レポート（50%）、発表・実技（50%）

授業科目名： インターンシップI	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 關浩和・赤井利行・大江実代 子・林敦司・井上朋子・河野 稔
			担当形態：複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップの意義 インターンシップ生として、何を学ぶか、何を学んだか説明することができる。 ・小学校教員の仕事を知る 教師の役割や仕事について観察し、記録として確認することができる。 ・子ども理解 一年間を通して、子どもの学びの変化や成長の過程を日誌等で表現できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>受講者が、一年間の前期半日、後期1日の曜日を定め、一年間インターンシップ実習に参加できる体制です。このインターンシップ実習を通して、「子ども理解」を学び続けます。そして、夢であった「先生という仕事」を実践的、実感的に学んでいきます。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：インターンシップの意義：学校現場でインターンシップを実施することの意義を理解する。</p> <p>第2回：学校説明：加古川市教育委員会からインターンシップ生に求めることと、各小学校の説明をしていただく。</p> <p>第3回：学校での観察（半日（4時間））：「実習」先生方の役割や仕事を学ぶ。子供の成長を学ぶ。遊びなどを通して児童理解を図る。自分自身の教師としての適性を学ぶ。</p> <p>第4回：学校での観察（半日（4時間））：「実習」先生方の役割や仕事を学ぶ。子供の成長を学ぶ。遊びなどを通して児童理解を図る。自分自身の教師としての適性を学ぶ。</p> <p>第5回：学校での観察（半日（4時間））：「実習」先生方の役割や仕事を学ぶ。子供の成長を学ぶ。遊びなどを通して児童理解を図る。自分自身の教師としての適性を学ぶ。</p> <p>第6回：学校での観察（半日（4時間））：「実習」先生方の役割や仕事を学ぶ。子供の成長を学ぶ。遊びなどを通して児童理解を図る。自分自身の教師としての適性を学ぶ。</p> <p>第7回：学校での観察（半日（4時間））：「実習」先生方の役割や仕事を学ぶ。子供の成長を学ぶ。遊びなどを通して児童理解を図る。自分自身の教師としての適性を学ぶ。</p> <p>第8回：学校での観察（1日（6時間））：1日を通した教師の仕事を学ぶ。子供の集団としての活動や成長を学ぶ。行事に向けた取り組みや教育課程等について学ぶ。自分自身の教師としての適性に</p>			

自信が持てる。

第9回：学校での観察（1日（6時間））：1日を通した教師の仕事を学ぶ。子供の集団としての活動や成長を学ぶ。行事に向けた取り組みや教育課程等について学ぶ。自分自身の教師としての適性に自信が持てる。

第10回：情報交換：インターンシップ先の違う学生同士で、当該小学校の状況を話し合い、小学校への理解を深める。

第11回：総括：インターンシップのお礼と、自らの子ども理解の成長を確認する。

定期試験 実施しない

テキスト

文部科学省（2017）「学習指導要領総則編」、文部科学省（2018）「幼稚園指導要領」

参考書・参考資料等

特になし

学生に対する評価

発表・実技（20%）、実習日誌（80%）

授業科目名： インターンシップⅡ	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 松田信樹・半田結 立本千寿 子・藤野正和・古田薫
			担当形態： 複数
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校教育現場の環境に身を置き、教諭として働くことの意義を確認する。 子どもと関わることを通じて、子ども理解を深める。 学校教育現場で働く教諭の仕事を観察することで、教諭としての勤務内容に対する理解を深める。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>小学校・幼稚園の現場で、現職教諭や児童・園児たちと同じ環境の下で共に活動することを通して、小学校・幼稚園での仕事を体験する。インターンシップを通じて、小学校・幼稚園現場で働くことのやりがいと意義を確認する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：インターンシップとは：インターンシップの理念や目的を理解し、学校現場から求められるインターンシップ生の役割と、学び取る内容の確認をする。</p> <p>第2回：事前ガイダンス1：インターンシップ生として学校教育現場に入る際の注意点や心構えを理解する。</p> <p>第3回：事前ガイダンス2：インターンシップ生としての服務や対園児、児童に対する対応など、教師としての自覚と、対応を確認する。</p> <p>第4回：事前ガイダンス3：加古川市教育委員会から、教育振興基本計画の説明やインターンシップ生に求めること等の説明をいただく。</p> <p>第4回：事前ガイダンス3：インターンシップを行うに際しての必要書類を作成する。</p> <p>第5回：インターンシップ 1：学校教育現場での職業体験（4時間） 1回目</p> <p>第6回：インターンシップ 2：学校教育現場での職業体験（4時間） 2回目</p> <p>第7回：インターンシップ 3：学校教育現場での職業体験（4時間） 3回目</p> <p>第8回：インターンシップ 4：学校教育現場での職業体験（4時間） 4回目</p> <p>第9回：インターンシップ 5：学校教育現場での職業体験（4時間） 5回目</p> <p>第10回：インターンシップ 6：学校教育現場での職業体験（4時間） 6回目</p> <p>第11回：インターンシップ 7：学校教育現場での職業体験（4時間） 7回目</p> <p>第12回：インターンシップの振り返り1：インターンシップを通して学んだことをレポートとしてま</p>			

とめる。

第13回：インターンシップの振り返り2：学生同士で体験について共有し、学校現場について理解を深める。

テキスト

テキストは使用しない。授業資料を配布する。

参考書・参考資料等

授業の進行に応じて適宜紹介する。

学生に対する評価：

発表・実技（20%）、その他（実習日誌）（80%）

授業科目名： 子育て支援地域活動I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 澤田 真弓
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の子育て支援に貢献する力を培う。 地域子育て支援活動の観察や環境構成などの実践を通して、子育て支援の実践力を身につける。 ・ 子どもと環境の関係を理解する力を培う。 地域子育て支援の様々な課題や地域子育て支援拠点の取り組みについて理解することができる。 ・ 保護者の心情を理解し、支援する方法を知る。 個々の保護者への個別対応を経験し、保護者のニーズを踏まえた子育て支援について理解することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>地域子育て支援活動での実践を中心に経験を深め、実践的知識や技術につながる素地を培うことを目的とする。子育て支援の理念や制度、歴史的経緯、子育て支援の現状を学び、子育て支援活動での実践と併せて地域や保護者のニーズに合わせた支援のあり方を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「子育て支援が求められる社会的背景」 子育て支援が求められるようになった社会的背景や子育ての歴史について学ぶ</p> <p>第2回：「子育て支援に関する制度・施策の展開」 日本の子育て支援制度の変遷と現状について学ぶ</p> <p>第3回：「保育者の専門性と子育て支援」 子育て支援における子どもの最善の利益と保育者の倫理について学ぶ</p> <p>第4回：「子育て支援活動への参加と学び」 子育て支援活動への参加の仕方について学ぶ</p> <p>第5回：「実践演習（1日の流れの観察）」 1日の活動の流れを中心とした観察を通して、子育て支援活動の実際を学ぶ</p> <p>第6回：「実践演習（1日の流れの観察）の振り返り」 子育て支援活動に参加して得た気づきや学びを整理し、次への課題を抽出する</p> <p>第7回：「実践演習（遊びの様子観察）」 子どもの遊びの様子を中心とした観察を通して、子育て支援活動の実際を学ぶ</p>			

第8回：「実践演習（遊びの様子を観察）の振り返り」

子育て支援活動に参加して得た気づきや学びを整理し、次への課題を抽出する

第9回：「子育て支援の教材研究」

子どもの発達段階を考慮しながら、子育て支援活動で活用できる教材を考案する

第10回：「子育て支援の教材制作」

子どもの発達段階を考慮しながら、子育て支援活動で活用できる教材を作成する

第11回：「子育て支援の環境構成（室内環境）」

子どもの発達段階や保護者参加の様子を考慮した室内の環境構成について学ぶ

第12回：「子育て支援の環境構成（戸外環境）」

子どもの発達段階や保護者参加の様子を考慮した戸外の環境構成について学ぶ

第13回：「実践演習（保育者の関わり）」

作成した教材や考案した環境構成を活用し、子育て支援活動に参加する

第14回：「実践演習（保育者の関わり）の振り返り」

子育て支援活動に参加して得た気づきや学びを整理し、次への課題を抽出する

第15回：「授業全体のまとめ」 授業全体の振り返りを行う

定期試験 実施しない

テキスト

適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

入江礼子他編著『子ども・保護者・学生が共に育つ 保育・子育て支援演習』萌文書林 2017

学生に対する評価

レポート（25%）、発表・実技（50%）、授業内課題（25%）

授業科目名： 子育て支援地域活動II	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 澤田 真弓
			担当形態：単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の子育て支援に貢献する力を培う。 子育て支援活動への参加を通してその意義や方法を具体的に学び、実践力を身につける。 ・ 子どもと環境の関係を理解する力を培う。 身近な地域資源や連携先との関わりを通して、地域の子育て支援拠点の取り組みについて具体的に学ぶ。 ・ 保護者の心情を理解し、支援する方法を知る。 個々の保護者への個別対応を経験し、保護者のニーズを踏まえた子育て支援について理解することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>地域子育て支援活動への参加を中心とし、実践的知識や技術を培うことを目的とする。保護者支援の意味や方法、子ども理解の方法、地域資源の活用や地域連携についても学び、子育て支援活動での実践と併せて地域や保護者のニーズに応じた子育て支援のあり方を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「子育て支援活動への参加と学び」 授業の内容と地域子育て支援活動への参加の方法を理解する</p> <p>第2回：「子育て支援活動と子ども理解」 子育て支援活動における子ども理解の意味と方法について学ぶ</p> <p>第3回：「子育て支援活動と保護者理解」 子育て支援活動における保護者支援の意味と方法について学ぶ</p> <p>第4回：「子育て支援活動と地域連携」 子育て支援活動における地域資源の活用や地域連携について学ぶ</p> <p>第5回：「実践演習の準備(春の室内活動)」 子育て支援活動での季節に合わせた実践の準備を行う</p> <p>第6回：「実践演習と振り返り（春の室内活動）」 子育て支援活動に参加して活動の実際を学んだ後、その振り返りを行う</p> <p>第7回：「実践演習の準備（春の戸外活動）」 子育て支援活動での季節に合わせた実践の準備を行う</p> <p>第8回：「実践演習と振り返り（春の戸外活動）」</p>			

子育て支援活動に参加して活動の実際を学んだ後、その振り返りを行う

第9回：「実践演習の準備（夏の室内活動）」

子育て支援活動での季節に合わせた実践の準備を行う

第10回：「実践演習と振り返り（夏の室内活動）」

子育て支援活動に参加して活動の実際を学んだ後、その振り返りを行う

第11回：「実践演習の準備（夏の戸外活動）」

子育て支援活動での季節に合わせた実践の準備を行う

第12回：「実践演習と振り返り（夏の戸外活動）」

子育て支援活動に参加して活動の実際を学んだ後、その振り返りを行う

第13回：「実践演習の準備（水遊び）」

子育て支援活動での季節に合わせた実践の準備を行う

第14回：「実践演習と振り返り（水遊び）」

子育て支援活動に参加して活動の実際を学んだ後、その振り返りを行う

第15回：「授業全体のまとめ」 授業全体の振り返りを行う

定期試験 実施しない

テキスト

適宜、資料を配布する。

参考書・参考資料等

入江礼子他編著『子ども・保護者・学生が共に育つ 保育・子育て支援演習』萌文書林 2017

学生に対する評価

レポート（25%）、発表・実技（50%）、授業内課題（25%）

授業科目名： 学校教育におけるICT活用	教員の免許状取得のため の選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 森下 博
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>○校務や授業の文書作成： ワープロソフトの機能や役割を理解し、校務や授業教材などの文書作成が行える。</p> <p>○集計処理シートの制作： 表計算ソフトの機能や役割を理解し、正確で効率的な集計処理が行える。</p> <p>○スライドの教材の開発： プレゼンソフトの機能や役割を理解し、視覚的に見せる教材資料の開発が行える。</p> <p>○遠隔授業の設計と実践： 遠隔授業のための環境を整えて、授業の設計ならびにその実践が行える。</p> <p>○探究学習のためのICT： 探究学習における課題解決のアプローチの方法を身につけ、適切なICT活用ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>学校教育においてGIGAスクール構想が進み、児童生徒1人1台のPCやタブレット端末を用いた教育環境が整ってきました。ICT環境の充実とともに、校務および授業の教材開発に関わる上でのICTスキルの向上が求められます。学校教育のあらゆる場面を想定しながら、各種アプリケーションソフトを用いたICT活用により、知識と技術を身につけます。各教科の指導においても効果的なICT活用ができることを目指し、深い学びにつながる可能性を探ります。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業概要と展開方法 授業の概要や展開の方法を説明する。学校教育における具体的なICT活用の事例について紹介する。</p> <p>第2回：文書作成のためのICT活用 文書作成のためのワープロソフト活用の基礎を身につける。文書完成までのICTリテラシーについて学ぶ。</p> <p>第3回：校務文書の作成と編集 校務文書作成の演習を通じてその書式や型を理解する。そのための正しい編集や美しい装飾の仕方について学ぶ。</p> <p>第4回：教材資料の作成と表現</p>			

教材資料作成の演習を通じて効果的な伝え方を理解する。そのための表や図を含む視覚的な表現について学ぶ。

第5回：集計処理のためのICT活用

集計処理のための表計算ソフトの活用の基礎を身につける。シート上で正しいデータの入力と整理の仕方について学ぶ。

第6回：データの処理と視覚化

集計処理シート制作の演習を通じて表の効率的な計算方法を理解する。各種グラフの特徴に基づく視覚化について学ぶ。

第7回：アプリ間連携と効率化

報告文書制作の演習を通じて表計算ソフトとワープロソフトとの連携を理解する。これによる処理の効率化について学ぶ。

第8回：教材開発のためのICT活用

教材開発のためのプレゼンソフトの活用の基礎を身につける。スライドに取り込む各種メディアとコンテンツについて学ぶ。

第9回：視覚的なスライド制作

教材スライド開発の演習を通じてスライドの見せ方を理解する。効果的なアニメーションの設定や使い方について学ぶ。

第10回：動画による教材の開発

動画教材の開発の演習を通じて音声を含む動画の制作過程を理解する。動画を用いた学習効果について学ぶ。

第11回：遠隔授業のためのICT活用

遠隔授業のための双方向通信ツールの活用の基礎を身につける。音声と映像のスムーズなやりとりの仕方について学ぶ。

第12回：オンライン授業の設計

遠隔授業で使用できるメディアコンテンツを理解する。オンライン授業のための設計について学ぶ。

第13回：オンライン授業の実践

遠隔授業の実践を通じて効果的な機能を理解する。オンラインにおけるチャットの活用やグループ学習の展開について学ぶ。

第14回：探究学習のためのICT活用

探究学習における課題解決のアプローチの方法を身につける。プログラミング的思考と適切なICT活用の方法について学ぶ。

第15回：授業総括と振り返り

学校教育におけるICT活用を振り返る。ICTを活用できる場面を想定した各教科への適用について考える。

定期試験は実施しない

テキスト

授業では、eラーニングサーバを活用し、作成した資料を提示します。さまざまなメディアによるコンテンツにもふれてもらいます。

参考書・参考資料等

高橋参吉編著, 高橋朋子・下倉雅行・小野淳・田中規久雄著, 2021, 『教職・情報機器の操作 - ICTを活用した教材開発・授業設計-』 コロナ社.

学生に対する評価

レポート (40%)、発表・実技 (30%)、授業内課題 (30%)

授業科目名： 情報活用の実践 I	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河野稔、大江実代子、關浩和 、赤井利行、安部洋一郎、 高野敦子
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の指導においてICTを活用する際に求められる観点や教科等の特性に応じた活用法を説明できる。 ・各教科等の学習過程や指導内容に応じたICTを活用した授業設計と学習指導案を作成できる。 ・プログラミング言語を用いてプログラムを作成でき、プログラミング教育で育成する資質・能力を説明できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>ICTを活用した授業や活動を実践できることを目指し、各教科等での事例から、教科の特性や学習過程等を踏まえたICT活用場面を理解し、各教科におけるICT活動指導力を身につける。教科としては、国語科、算数科、理科、社会科を扱う。</p> <p>また、学校現場で使用されているビジュアル型のプログラミング言語を用いて、演習形式でプログラミングの基礎を体験し、プログラミング的思考等とプログラミング教育を行う際に必要となる基本的な操作および方法論を体験的に学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>学校教育におけるICTを活用した学習場面について学習形態と関連づけて理解する。（担当：河野稔）</p> <p>第2回：国語科におけるICT活用(1)</p> <p>国語科でのICTの活用において、国語科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。（担当：大江実代子、河野稔）</p> <p>第3回：国語科におけるICT活用(2)</p> <p>ICTを活用した授業事例を学び、国語科でのICT活用の特性について考察する。（担当：大江実代子、河野稔）</p> <p>第4回：算数科におけるICT活用(1)</p> <p>算数科でのICTの活用において、算数科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。（担当：赤井利行、河野稔）</p> <p>第5回：算数科におけるICT活用(2)</p> <p>ICTを活用した授業事例を学び、算数科でのICT活用の特性について考察する。（担当：赤井利行、河</p>			

野稔)

第6回：理科におけるICT活用(1)

理科でのICTの活用において、理科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。(担当：安部洋一郎、河野稔)

第7回：理科におけるICT活用(2)

ICTを活用した授業事例を学び、理科でのICT活用の特性について考察する。(担当：安部洋一郎、河野稔)

第8回：社会科におけるICT活用(1)

社会科でのICT活用において、社会科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。(担当：關浩和、河野稔)

第9回：社会科におけるICT活用(2)

ICTを活用した授業事例を学び、社会科でのICT活用の特性について考察する。(担当：關浩和、河野稔)

第10回：プログラミング教育とプログラミング的思考

プログラミングがもたらす可能性、およびプログラミング教育の基本的な考え方とプログラミング的思考について理解する。(担当：高野敦子、河野稔)

第11回：プログラミングの体験(1)

ビジュアル型プログラミング言語の基本的な操作を体験的に学ぶ。(担当：高野敦子、河野稔)

第12回：プログラミングの体験(2)

ビジュアル型プログラミング言語を用いて、簡単なプログラミングを体験的に学ぶ。(担当：高野敦子、河野稔)

第13回：プログラミングの体験(3)

ビジュアル型プログラミング言語を用いて、各教科等で実施されたプログラミングを体験的に学ぶ。(担当：高野敦子、河野稔)

第14回：プログラミングの体験(4)

ビジュアル型プログラミング言語で作成したプログラミングを発表し、その改善に取り組む。(担当：高野敦子、河野稔)

第15回：全体のまとめとICT活用能力の育成

授業で取り組んだ各教科等でのICT活用等をまとめ、学習場面の分類に応じたICT活用の留意点について考察する。(担当：高野敦子、河野稔)

定期試験は実施しない

テキスト

授業においてプリントを適宜配布する。

また、文部科学省『各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画』の動画も適宜使用する。

参考書・参考資料等

文部科学省『学習指導要領「生きる力」』

文部科学省『教育の情報化の推進』

上記以外の参考資料と参考Webページは適宜配付・紹介する

学生に対する評価

各教科等でのICT活用のレポート（40%）、毎回の授業のテーマに沿った授業内課題（60%）

授業科目名： 情報活用の実践Ⅱ（デジタル教科書の活用含む）	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 半田結、井上朋子、河野稔、 高野敦子、大牛英則
			担当形態：複数・オムニバス
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各教科等の指導においてICTを活用する際に求められる観点や教科等の特性に応じた活用法を説明できる。 ・各教科等の学習過程や指導内容に応じたICTを活用した授業設計と学習指導案を作成できる。 ・デジタル教材等との一体的な使用を含めた、デジタル教科書を効果的に活用した学習方法と留意点を説明できる。 ・プログラミング教育で育成する資質・能力を踏まえて、学習活動に応じたプログラミング教育の指導を設計できる。 			
<p>授業の概要</p> <p>ICTを活用した授業や活動を実践できることを目指し、各教科等での事例から、教科の特性や学習過程等を踏まえたICT活用場面を理解し、各教科におけるICT活動指導力を身につける。教科としては、音楽科、図画工作科を扱う。デジタル教科書を活用した授業デザインやデジタル教材との連携も学ぶ。</p> <p>さらに、学校現場で使用された指導事例や教材等を分析し、模擬指導を実践することで、プログラミング教育に関する基礎的な知識と取り組み方を実践的に身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション</p> <p>情報活用の実践Ⅰでの、各教科等でのICTを活用した学習場面とプログラミング教育の基本的な考え方を振り返る。（担当：河野稔）</p> <p>第2回：外国語科におけるICT活用(1)</p> <p>外国語科でのICT活用において、外国語科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。（担当：河野稔、大牛英則）</p> <p>第3回：外国語科におけるICT活用(2)</p> <p>ICTを活用した授業事例を学び、外国語科でのICT活用の特性について考察する。（担当：河野稔、大牛英則）</p> <p>第4回：音楽科におけるICT活用(1)</p> <p>音楽科でのICTの活用において、音楽科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。（担当：井上朋子、河野稔）</p>			

第5回：音楽科におけるICT活用(2)

ICTを活用した授業事例を学び、音楽科でのICT活用の特性について考察する。(担当：井上朋子、河野稔)

第6回：図画工作科におけるICT活用(1)

図画工作科でのICTの活用において、図画工作科の学習過程とICT活用場面について理解し、学習場面に応じた活用をイメージする。(担当：半田結、河野稔)

第7回：図画工作科におけるICT活用(2)

ICTを活用した授業事例を学び、図画工作科でのICT活用の特性について考察する。(担当：半田結、河野稔)

第8回：デジタル教科書の活用(1)

指導者用デジタル教科書の特長や活用方法を理解し、デジタル教材等との連携やICT活用指導力との関連について考察する。(担当：河野稔)

第9回：デジタル教科書の活用(2)

学習者用デジタル教科書の特長や活用方法を理解し、デジタル教材等との連携や情報活用能力との関連について考察する。(担当：河野稔)

第10回：各教科等におけるプログラミング教育の実践

プログラミング教育で育成する資質・能力と情報活用能力との関係、および各教科等での指導や評価について理解する。(担当：高野敦子、河野稔)

第11回：プログラミング教育の実践(1)

プログラミング教育の実践を分析し、指導案や教材等を参考に、プログラミング教育の模擬授業をグループで設計する。(担当：高野敦子、河野稔)

第12回：プログラミング教育の実践(2)

グループで設計した指導案をもとに、教材やプログラムを作成する。(担当：高野敦子、河野稔)

第13回：プログラミング教育の実践(3)

グループで作成した指導案と教材等を用いて模擬指導を実施し、相互に評価して、改善策を検討する。(担当：高野敦子、河野稔)

第14回：プログラミング教育の実践(4)

グループで作成した指導案と教材等を用いて模擬指導を実施し、相互に評価して、改善策を検討する。(担当：高野敦子、河野稔)

第15回：全体のまとめとICT活用指導力

授業で取り組んだ各教科等でのICT活用とプログラミング教育をまとめ、ICT活用の指導上の留意点について考察する。(担当：河野稔)

テキスト

授業においてプリントを適宜配布する。

また、文部科学省『各教科等の指導におけるICTの効果的な活用に関する解説動画』の動画も適

宜使用する。

参考書・参考資料等

文部科学省『教育の情報化の推進』

文部科学省『小学校プログラミング教育の手引き』

上記以外の参考資料と参考Webページは適宜配付・紹介する。

学生に対する評価

各教科等でのICT活用のレポート（40%）、プログラミング教育の模擬授業（10%）、毎回の授業のテーマに沿った授業内課題（50%）

授業科目名： 学校組織マネジメント	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 福島 真治
			担当形態： 単独
科 目	大学が独自に設定する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等			
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本講義で提示され情報を基に、自身が選択した事例についてレポートにまとめることができる。 ・学校組織の特性や組織マネジメントにおける必要な要素・条件を説明することができる。 ・最近の教育問題に関して、講義で得た情報を基に、自身の考えや必要な施策等を説明することができる。 ・教師の視点から学校経営を捉え、授業だけではない学校運営要素に必要な活動を考えることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>本講義では、学校組織の活動を俯瞰的に捉えるために、「ヒト・モノ・カネ・情報」という視点を採用する。「ヒト＝教員」が組織の中でどのような役割を担って教育活動を行っているのか、それを「ヒト＝リーダー」がどのように支えているのか、組織の特徴や文化、組織活動の基盤となる「カネ＝資源」、そして学校組織内外に影響を及ぼす「情報」、それぞれについて互いに議論をしながら、理解を深め合うことを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：イントロダクション（現代社会と学校改革）：現在の社会全体が抱える課題と、それに向き合っている学校制度の変遷を紹介し、講義の概要説明を行う。</p> <p>第2回：学校組織の特徴：「組織」とは何か、一般的な組織と学校組織の違いについて説明を行う。</p> <p>第3回：学校が直面している課題：いじめ問題、子どもの貧困、ICT教育の推進など、学校組織が直面する課題について説明・議論を行う。</p> <p>第4回：学校組織の法としくみ：学校組織に関する法制度を学ぶことで、実際の現場における学校づくりの実態について考える。</p> <p>第5回：学級経営：児童・生徒への指導等を通じて教員が取り組む学級経営について、その態様や教員の役割について説明を行う。</p> <p>第6回：授業を「マネジメント」する：学習指導要領の性質や内容と、カリキュラムマネジメントの定義や実践について学び、議論を行う。</p> <p>第7回：学校と教員の評価：学校・教員評価制度の意義や内容を概観し、様々なアクターの学校参加や社会に対しての学校の役割を考える。</p>			

第8回：教員の成長と同僚性：教員の職能成長に関わる制度について解説を行い、教員が学校組織全体として活動していくための条件を検討する。

第9回：学校の組織文化・リーダーシップ：組織文化・リーダーシップの類型やそれぞれの特徴について学習し、実際の事例について議論を行う。

第10回：学校のモノとカネ：教育財政の仕組み、教員の給与、学校の資源管理に関する諸制度や事例について情報を提示し、議論を行う。

第11回：子どもの人権と学校：懲戒・体罰、いじめ等の問題のような子どもの人権に関する議論やその保障のあり方を学び、具現化の方途を探る。

第12回：学校の危機管理と安全対策：学校で発生する事件や災害等に対する備えや対策について、危機管理やレジリエンスの観点から解説する。

第13回：チームとしての学校：学校業務の多様化と、教員の多忙化という現状を踏まえ、学校内外のアクターによる分業と協働を考える。

第14回：地域・家庭・多様な専門家に開かれた学校づくり：「開かれた学校」について概観した上で、「様々なアクターとの協働による学校づくり」について考える。

第15回：本講義のまとめ：これまでの講義について振り返った上で、「自身が教員としてそれらの課題にどう対応するか」を議論する。

定期試験は実施しない

テキスト

文献、資料などは、該当授業ごとに指定または配布する。

参考書・参考資料等

『教育行政と学校経営』小川 正人・勝野 正章編 放送大学教育振興会

授業の中で適宜紹介する。

学生に対する評価

レポート70%、授業内課題30%

授業科目名：日本国憲法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 豊福 一
			担当形態： 単独
科 目	第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	日本国憲法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。 ・日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。 ・裁判例の研究などを通じて、日本国憲法をめぐる諸問題につき、多様な考え方があることを理解する。 ・日本国憲法をめぐる諸問題につき、主体的に考究する力を養う。 			
<p>授業の概要</p> <p>日本国憲法の基本項目（人権の内容、統治機構など）について講義する。 大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意する。 憲法改正論議が進められている今日、「憲法の保障と改正」についても、検討を深めたいと考えている。 憲法の知識の定着を目的に、時間の余裕があれば、公務員試験の過去問の演習を行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：①異文化としての憲法、②憲法の誕生、③明治憲法の成立、④民主的日本国憲法の成立 第2回：①国民主権、②基本的人権の性質、③自由権、④社会権、⑤個人の人権と公共性 第3回：①個人の尊重と幸福の追求、②新しい人権 第4回：①平等権の法的性格、②平等権の内容、③代表的な判例 第5回：①思想・良心の自由、②信教の自由、③表現の自由、④学問の自由 第6回：①奴隷的拘束、苦役からの自由、②法定手続きの保障、③被疑者の権利、④被告人の権利 第7回：①経済的自由・財産権の保障、②経済的自由・財産権の保障についての歴史的変遷、③職業選択の自由等 第8回：①自由権と社会権、②生存権、③教育を受ける権利、④労働者の権利 第9回：①参政権、②選挙制度と選挙権、③基本的義務 第10回：①国会と立法権、②国会・議院の権能、議員の特権 第11回：①行政権と内閣、②内閣の権能、③議院内閣制 第12回：①司法権、②地方自治 第13回：①平和主義憲法の形成、②自衛戦争の否定、③自衛のための武力行使の肯定、④個別的自衛権と集団的自衛権</p>			

第14回：①天皇の地位、②国事行為、③皇位の承継

第15回：これまでの学習の整理と各種試験の過去問検討

定期試験

テキスト

『新時代の法学と憲法』（2019） 建帛社

参考書・参考資料等

授業中に、適宜紹介する。

学生に対する評価

定期試験（100%）

授業科目名：健康・スポーツ科学 I (講義)	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 矢野 琢也
			担当形態： 単独
科 目	第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門知識の習得ならびにその応用と実践のための基礎知識の獲得を行う。 ・ 多様な情報から必要な情報を取捨選択する力を養う。 ・ 専門知識の習得のための基礎作りを行う。 			
<p>授業の概要</p> <p>健康で生き生きとした生活を送るためやスポーツにおける競技力向上には科学的な事実に基づく知識が必要不可欠です。健康・スポーツ科学の入門にあたって、1) 運動、2) 栄養、3) 休養 の3つに関して科学的根拠に基づいた適切な知識を身につけることが大切です。そしてそれらを適切に組み合わせることでより効果的な健康・スポーツ活動が行えます。本授業ではそれらの基礎知識の習得と健康に関する関心の向上を目的とします。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の進め方、評価方法、概要、到達目標などを説明します。健康・スポーツにおける科学的知識の重要性などについて学びます。</p> <p>第2回：授業に関する履修の説明と健康科学の現在の状況を最近のニュースを中心に理解する。</p> <p>第3回：健康づくりにおける運動の重要性について、トピックスを中心に解説し、それらの知識の習得を行う。</p> <p>第4回：健康づくりにおける運動の重要性について、トピックスを中心に解説する。テーマを筋肉とし、筋肉に関する知識の習得を行う。</p> <p>第5回：健康づくりにおける運動の重要性について、トピックスを中心に解説する。引き続きテーマを筋肉とし、筋肉に関する知識の習得を行う。</p> <p>第6回：健康づくりにおける運動の重要性について、トピックスを中心に解説する。テーマを脂肪とし、筋肉に関する知識の習得を行う。</p> <p>第7回：健康づくりにおける運動の重要性について、トピックスを中心に解説する。引き続きテーマを脂肪とし、筋肉に関する知識の習得を行う。</p> <p>第8回：健康づくりにおける運動の重要性について、トピックスを中心に解説する。テーマを中性脂肪とし、筋肉に関する知識の習得を行う。</p> <p>第9回：健康づくりにおける運動の重要性について、トピックスを中心に解説する。テーマを無月経とし、女性アスリートに関する知識の習得を行う。</p>			

第10回：健康づくりにおける運動の重要性について、トピックスを中心に解説する。テーマを骨とし、骨の形成に関する知識の習得を行う。

第11回：健康づくりにおける運動の重要性について、トピックスを中心に解説する。テーマを心拍数とし、運動強度とその効果に関する知識の習得を行う。

第12回：健康づくりにおける運動の重要性について、トピックスを中心に解説する。テーマを血糖値とし、血糖値に関する知識の習得を行う。

第13回：健康づくりにおける運動の重要性について、トピックスを中心に解説する。テーマを脳とし、脳と母性に関する知識の習得を行う。

第14回：健康づくりにおける運動の重要性について、トピックスを中心に解説する。テーマを睡眠とし、睡眠と休養に関する知識の習得を行う。

第15回：発表と評価健康づくりにおける運動の重要性について、トピックスを中心に解説する。テーマを睡眠とし、睡眠と休養、学習に関する知識の習得を行う。

テキスト

特になし。

参考書・参考資料等

「入門運動生理学第4版」(2017) 杏林書院、「エクササイズ科学」(2012) 分光堂

学生に対する評価

授業内課題 (100%)

授業科目名：健康・スポーツ科学Ⅱ(実技)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 樽本 つぐみ
			担当形態： 単独
科 目	第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ活動を生活の中に取り入れ、ライフスタイルを形成する能力を身に着ける。 ・スポーツ実践を通して、ルールを理解し技能習得に努める力を身につける。 			
<p>授業の概要</p> <p>自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しみながら正しく安全に実践する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の概要と到達目標、評価の方法を理解する。</p> <p>第2回：文部科学省の新体力テストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。</p> <p>第3回：文部科学省の新体力テストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。</p> <p>第4回：バレーボール／バスケットボールを実施</p> <p>第5回：バレーボール／バスケットボールを実施</p> <p>第6回：テニス／ウォーキングを実施</p> <p>第7回：バドミントン／卓球・インディアカを実施</p> <p>第8回：バドミントン／卓球・インディアカを実施</p> <p>第9回：サッカーを実施</p> <p>第10回：ドッチビーを実施</p> <p>第11回：スポーツアラクルトを実施</p> <p>第12回：ソフトボールを実施</p> <p>第13回：バレーボール／バスケットボールを実施</p> <p>第14回：バレーボール／バスケットボールを実施</p> <p>第15回：まとめと振り返り</p>			
<p>テキスト</p> <p>テキストは使用しません。必要に応じてプリントを配布します。</p>			
<p>参考書・参考資料等</p> <p>特になし</p>			

学生に対する評価

授業内課題（80%）、その他（受講姿勢等）（20%）

授業科目名：健康・スポーツ科学Ⅲ(実技)	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 1単位	担当教員名： 樽本 つぐみ 担当形態： 単独
科 目	第 6 6 条の 6 に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	体育		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の体力について理解し、日常的に運動に取り組むことの重要性について説明することができる。 ・個人の体力や技能に応じた運動の楽しみ方を身につける。 ・スポーツを通じて仲間を増やし、協力しながら活動に取り組むことができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深める。また、運動を介して他者と関わり合うことで協力・調和・協調する力を身につける。体力や運動技能における自己理解を深め、生涯継続可能な運動習慣を計画、実践する力を身につける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。</p> <p>第2回：文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。</p> <p>第3回：文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。</p> <p>第4回：バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。</p> <p>第5回：テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。</p> <p>第6回：ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施</p> <p>第7回：前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施</p> <p>第8回：前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）を実施</p> <p>第9回：前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）を実施</p> <p>第10回：前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施</p> <p>第11回：前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺）を実施</p> <p>第12回：前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド）を実施</p> <p>第13回：前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施</p> <p>第14回：体験した運動種目について振り返り、ルールや運動特性についてまとめる。</p> <p>第15回：自己の体力レベルを評価し、継続可能な運動習慣を計画する。</p>			

テキスト

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

参考書・参考資料等

『スポーツスキルの科学』（1985）宮下充正（大修館）、

『からだロジー入門』（1989）宮下充正（大修館）

学生に対する評価

レポート（20%）、発表・実技（50%）、授業内課題（30%）

授業科目名：英語	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： Michael.H.FOX、Cuomo,Osa ze Martin 担当形態： クラス分け・単独
科 目	第66条の6に定める科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	外国語コミュニケーション		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語のスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングに関する能力を身に着ける ・積極的かつ自主的に英語学習に取り組むことにより、課題を発見し解決に向けて思考する力を身につける ・他者理解や異文化理解に必要な知識と態度を身につける。多文化共生を理解する力を身につける。 			
<p>授業の概要</p> <p>平易な英語を用いてコミュニケーションを行うためのスキルの向上と積極的な態度の育成を目的とする。高等学校までに習得した文法、フレーズ、語彙を十分活用し、シンプルに考え、シンプルに表現することを重視する。動画を見て、聞く力、話す力を伸ばすとともに、短い読み物を読んだり、自分について書いたりする。また毎回英語の歌を聞き、楽しみながら英語の音に慣れる。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：授業方針の説明 クラスのルール クラスルームイングリッシュ 英語で自己紹介 be動詞 (英語学習に対する姿勢)</p> <p>第2回：キッチンでの会話 食料について 可算・不可算名詞 読む聞く話す書く (LRSW) の割合は違うが、毎回4技能とも使用する。</p> <p>第3回：自分の大学生活について述べる 一般動詞 (現在時制)</p> <p>第4回：カフェでの会話 代名詞の使い方</p> <p>第5回：過去のことについて尋ねたり、話したりする 一般動詞(過去時制)</p> <p>第6回：電話での会話 進行形</p> <p>第7回：これから行うこと、未来、将来についての会話を理解し、自分でも話す。 will と be going toを使えるようにする</p> <p>第8回：ショッピングで使える会話 助動詞 今日やるべきことについて話す、書く</p> <p>第9回：英文や会話の中の前置詞に注意を払い、適切な使い方を復習し、使えるようにする</p> <p>第10回：今までに行ったところなど、観光地について聞いたり話したりする。現在完了</p> <p>第11回：比較表現を使って、自分と友人について表現したり、その会話を聞き取る。</p>			

第12回：Who, Where, Howなど、WH疑問文を作って質問したり、答えたりできるようにする。

第13回：動名詞や不定詞の使い分けができるようになる。動名詞、不定詞、接続詞を使い、自分のことについて書く。

第14回：受動態を使えるようにする。最終回に各自が発表するプレゼンの準備

第15回：発表と評価 (Speaking & Listening)

定期試験 (アチーブメントテストを実施)

テキスト

『We Love L.A.！』 (2018) Robert Hickling, Misato Usukura著 金星堂

参考書・参考資料等

授業中、適宜紹介する。

学生に対する評価

筆記試験 (20%)、小テスト (30%)、レポート (20%)、発表・実技 (30%)

授業科目名：コンピュータ演習	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 高野 敦子 担当形態： クラス分け・単独
科 目	第66条の6に定める科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学の情報通信環境の基礎を知る。 ・大学のコンピューティング環境において、基礎的な作業を自力で行える。 			
<p>授業の概要</p> <p>コンピューティング環境は私たちの社会に不可欠なものとなっており、このことは大学での勉強においても同様である。</p> <p>授業では、「コンピュータでどのような作業ができるのか、こういった場面でコンピュータが有用であるか」を少しでも身につけることを目指しつつ、コンピュータの基本的な操作方法と様々なアプリケーションの基礎を演習する。なお、内容及び順序は大学の設備や講義の進捗状況等により、多少変更することもある。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：コンピュータ演習の授業形態と授業内容の説明、およびクラスについての説明（成績評価等、大切なので履修希望者は必ず出席のこと）</p> <p>第2回：演習教室の利用環境の設定 コンピュータの利用の準備</p> <p>第3回：本学の電子メール環境の設定を行う 電子メールの操作方法を知る</p> <p>第4回：ファイルとテキストファイルについて PDFや画像ファイルなどの基礎を知る</p> <p>第5回：インターネット上の個人情報の取り扱いと著作権について知る ワードプロソフトの基本を知る</p> <p>第6回：情報検索の基礎を知り、簡単な情報検索を行う 検索における論理演算について知る</p> <p>第7回：アプリケーションソフトの連携について知る 文書作成における表機能と作図機能の活用について知る</p> <p>第8回：応用課題</p> <p>第9回：表計算ソフトの基本操作を知る</p> <p>第10回：数式や関数についての基礎およびセル参照を知る</p> <p>第11回：表計算ソフトと他のアプリケーションソフトとの連携について知る</p> <p>第12回：プレゼンテーションソフトの基本操作を知る ワードプロソフトとの違いを知る</p> <p>第13回：発表用スライドにおける画面切り替えやアニメーションの活用について知る 他のアプリケーションソフトとの連携について知る</p> <p>第14回：実際のプレゼンテーションとその手順について知る</p>			

第15回：全体のまとめ

テキスト

必要に応じてオンラインでのファイル配付等を行う。詳細は初回授業時に説明する。
--

参考書・参考資料等

『情報リテラシー教科書』（2019） 矢野文彦監修 オーム社、 『30時間アカデミックExcel2016/2013』（2017） 飯田他著 実教出版、 『コンピュータリテラシー』（2017） 小野目著 実教出版

学生に対する評価

レポート（75%）、その他（受講姿勢等）（25%）

授業科目名： 教育の思想と原理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大関 達也
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>教育の理念や思想が生み出された歴史的・社会的な文脈を説明することができる。</p> <p>現代の教育課題に主体的に取り組むことができる。</p>			
授業の概要			
<p>教育は世代間の相互作用、学校・家庭・地域社会の間の相互作用として営まれている。その歴史はイニシエーションとしての教育から、学校教育制度の成立を経て、生涯学習の時代に至っている。このような歴史的変遷の中で、教育は何のために営まれ、学校は何のために存在してきたのか。本授業では、教育の理念や思想が生み出された歴史的・社会的な背景を学びつつ、現代の教育課題に主体的に取り組むための姿勢を身につけることが期待される。</p>			
授業計画			
<p>第1回：教育をめぐる現代的課題：一般的な教育言説を確認しながら、教育を根本的に問うための方法を学ぶ。</p> <p>第2回：学校をめぐる現代的課題：学校をめぐる問題が山積している点を確認しながら、学校の存在意義を問うための方法を学ぶ。</p> <p>第3回：教育の語義：すでに経験している日常の教育を振り返りつつ、教育の語義を確認する。</p> <p>第4回：教育の目的・目標：教育基本法に定められた教育目的、教育目標を確認しながら、その具体的な内容を事例に即して検討する。</p> <p>第5回：人間性とは何かという問いの歴史的・社会的文脈：人間性とは何かという問いの歴史的・社会的な意味を、古代ギリシア・ローマの時代にさかのぼって検討する。</p> <p>第6回：学校の起源：文字によって体系化・集約化された知識を教授・学習する場として、学校が成立した点を確認する。</p> <p>第7回：大学の成立と庶民のための学校の誕生：12世紀のヨーロッパで大学が成立し、16世紀のルターが庶民のための学校を構想した歴史的経緯を学ぶ。</p> <p>第8回：人間の教育必要性の意味：社会から隔離されて育ち、教育の機会を奪われた野生児の事例から、人間の教育必要性の意味を検討する。</p> <p>第9回：子どもへの教育的まなざしの成立：ルソーの教育思想やアリエスの歴史研究から、子どもに注がれる教育的まなざしの意味を検討する。</p> <p>第10回：家庭教育の意味：家庭教育の歴史的・社会的な意味を確認しながら、現代における家族や家</p>			

庭生活の問題を検討する。

第11回：近代公教育の理念と制度：学校が公の性質を持つようになった歴史的経緯を跡づけながら、啓蒙主義と学校教育制度の問題を検討する。

第12回：統一学校運動と新教育運動：19-20世紀転換期のヨーロッパで起こった統一学校運動と新教育運動の理念と課題を検討する。

第13回：学校化社会の限界：学校教育を自明視する学校化社会、学歴を社会におけるステータスシンボルとみなす学歴社会の限界を検討する。

第14回：生涯学習社会における学校の役割：教育は生涯にわたって継続するものであるという観点から、生涯学習社会における学校の役割を検討する。

第15回：情報・消費社会における教育と学校：情報メディアによって人々の欲望が刺激され、消費が促される社会で、教育と学校には何ができるのかを展望する。

定期試験は実施しない

テキスト

越後哲治・田中亨胤・中島千恵編『保育・教育を考える—保育者論から教育論へ—』あいり出版、2011年。

参考書・参考資料等

小笠原道雄編『教育の哲学』放送大学教育振興会、2003年。その他、授業で適宜紹介。

学生に対する評価

レポート（50%）、授業内課題（50%）

授業科目名： 教育史	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 岡本 洋之
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>必要な文献を自力で探索できる。</p> <p>自分で問いを適切に設定して考察できる。</p> <p>自分が考察した内容を他者が理解できるように、資料を提示しながら発表できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>「教育」の関わる範囲を学校教育や社会教育だけでなく、子どもの遊び、子育て、大人と子どもの関係、海外留学など、広くとらえるところに特徴がある。学生が日ごろ読んでいる本の中に教育史関係の題材があふれていることの、確認を目指す。授業では、受講生は日ごろ読んでいる本の中から、教育史的内容を含むものを1人あたり1冊以上選び（例は「参考図書」欄を参照）、その本の中の教育史的内容と考察を順次口頭で発表する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：授業の進め方を理解するとともに、細部について担当教員と協議する。</p> <p>第2回：発表文献選定のためのグループワーク(1)：発表文献選定のための「文献リスト」を作る。作成にあたってはグループ内で批評し合う。</p> <p>第3回：発表文献選定のためのグループワーク(2)：発表内容のポイントを決定する。決定にあたってはグループ内で批評し合う。</p> <p>第4回：発表文献選定のためのグループワーク(3)：発表の原稿を作成する。作成にあたってはグループ内で批評し合う。</p> <p>第5回：口頭発表(1)：受講生Aの発表（文献例：『少年H』）を聴き、質疑応答に参加した後、担当教員の補足説明を聞く。</p> <p>第6回：口頭発表(2)：受講生Bの発表（文献例：『まる子だった』）を聴き、質疑応答に参加した後、担当教員の補足説明を聞く。</p> <p>第7回：口頭発表(3)：受講生Cの発表（文献例：『窓ぎわのトットちゃん』）を聴き、質疑応答に参加した後、担当教員の補足説明を聞く。</p> <p>第8回：口頭発表(4)：受講生Dの発表（文献例：『竜馬がゆく』）を聴き、質疑応答に参加した後、担当教員の補足説明を聞く。</p> <p>第9回：口頭発表(5)：受講生Eの発表（文献例：『星の王子さま』）を聴き、質疑応答に参加した後、担当教員の補足説明を聞く。</p>			

第10回：口頭発表(6)：受講生Fの発表（文献例：『車輪の下』）を聴き、質疑応答に参加した後、担当教員の補足説明を聞く。

第11回：口頭発表(7)：受講生Gの発表（文献例：『上杉鷹山』）を聴き、質疑応答に参加した後、担当教員の補足説明を聞く。

第12回：口頭発表(8)：受講生Hの発表（文献例：『五体不満足』）を聴き、質疑応答に参加した後、担当教員の補足説明を聞く。

第13回：口頭発表(9)：受講生Iの発表（文献例：『エーミールと探偵たち』）を聴き、質疑応答に参加した後、担当教員の補足説明を聞く。

第14回：口頭発表(10)：受講生Jの発表（文献例：『ユンボギの日記』）を聴き、質疑応答に参加した後、担当教員の補足説明を聞く。

第15回：本授業の総括：今日の世界が無数の人々の生活と教育の積み重ねによりつくられたことが、身近な文献から知れることを確認する。

テキスト

とくに定めない。

参考書・参考資料等

（例）妹尾河童『少年H』、さくらももこ『まる子だった』、黒柳徹子『窓ぎわのトットちゃん』、司馬遼太郎『竜馬がゆく』、サンテグジュペリ『星の王子さま』、ほか。

学生に対する評価

発表・実技（70%）、その他（提出物）（30%）

授業科目名： 教育哲学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 大関 達也 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育の基本的概念：教育の基本的概念について理解し、説明できる。</p> <p>教育の歴史と思想：教育の歴史や教育の思想について理解し、説明できる。</p> <p>教育の構成要素とその相互関係：子ども、教師、過程、学校、社会といった教育の構成要素の間の相互関係について具体的に記述できる。</p> <p>現代の教育課題：現代の教育課題について理解するとともに、課題解決について自分なりの考えと対応策をもつことができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では現代における教育の諸現象について教育哲学の観点から考察を行う。その過程で、教育の基本的概念、教育の歴史や思想について理解するとともに、子ども・教師・家庭・学校・社会といった教育の構成要素の間の相互関係について考えを深めていく。そして、それらの考え方に基づいて現代の教育の諸課題について考察を行い、各自が実践していくための出発点を準備する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：教育哲学の観点から現代における教育について考察するという講義の目的を理解し、全体の構成と毎回の受講の仕方について理解する。</p> <p>第2回：教育とは何か？：教育が社会や時代の状況に応じて様々な現れ方をすることを学習し、それらに通底している本質的な契機について考察する。</p> <p>第3回：学校とは何か？：学校教育が社会や時代の状況を反映したものであることを理解するとともに、現代において学校教育が担う役割について考察する。</p> <p>第4回：学ぶとはどのような出来事か？：発達や学習の過程を具体的に記述していく中で、人間は環境との相互作用の中で発達／学習するという構造の重要性について考察する。</p> <p>第5回：子どもとはどのような存在か？：子ども像の歴史的な変遷をその都度の社会の教育観との関係の中で振り返り、現代における子ども像と教育観について考察する。</p> <p>第6回：学級とは何か？：現在の学校教育の核となっている「学級」について現象学的に記述を行い、その果たすべき役割と問題点について考察する。</p> <p>第7回：学力とは何か？：日常的に用いられる「学力」を人間の発達や社会的活動の観点から記述しなおし、それに基づいて学力観の変遷の意味について考察する。</p>			

第8回：教えることと学ぶこと：教育思想の大きな流れを振り返りつつ、それを手がかりとして教えることと学ぶこととの関係について考察する。

第9回：授業とは何か？：教育理論の流れを振り返ることで、授業の本質的な構成要素を理解し、現代において求められる授業のあり方について考察する。

第10回：道徳をなぜ学ぶのか？：道徳とは何かについて考察することによって、その本質を理解するとともに、道徳教育のあり方について考察する。

第11回：グローバル化時代の教育：グローバル化において発生している諸問題について分析を行い、そのような社会における教育のあり方とその課題について考察する。

第12回：異文化理解教育：国際化の進展の中で生じる文化間の軋轢の本質を記述することで、異文化を理解し、他者と共存するための教育について考察する。

第13回：ケアの教育：ケアについての思想を振り返ることで、子どもが不安なく成長できる環境を整えるためにケアという考え方が不可欠となることを学ぶ。

第14回：哲学対話：「主体的で対話的な深い学び」を実践するための一つの方法として「哲学対話」がある。その基本的なあり方を体験する。

第15回：リフレクション：講義全体を振り返り、相互の関連を確認するとともに、各自の理解と考えを全体で共有する。

テキスト

プリントを適宜配布する。

参考書・参考資料等

伊藤潔志編著『哲学する教育原理』（教育情報出版）2019.

学生に対する評価

レポート（100%）

授業科目名： 教師・保育者論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 磯野 久美子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門的知識や技能を習得し、活用しようとする力 社会を取り巻く今日的課題を踏まえ、保育者の専門性について理解することができる。 ・ 幼児教育の方法を身につける 保育実践で得られた経験を授業内容と結びつけ理解することができる。 			
授業の概要			
子どもを取り巻く今日的状況や課題について理解し、その変化に応じた保育のあり方を学ぶとともに、保育者の役割や専門性について理解する。幼稚園や保育所、子ども園等の施設で子どもとともに成長できる保育者のあり方を学ぶ。			
授業計画			
第1回：「オリエンテーション」 本科目の目的と内容を理解する。			
第2回：「保育者とは」 保育者の社会的位置づけや保育者に求められる資質について学ぶ。			
第3回：「保育における基礎知識①：保育の歴史」 日本における保育の歴史の変遷について学ぶ。			
第4回：「保育における基礎知識②：子どもの法律」 子どもにかかわる法律や条約について学ぶ。			
第5回：「保育における基礎知識③：保育者業務」 保育者の業務と一日の保育の流れについて学ぶ。			
第6回：「保育者の役割①：保育者の専門性」 子どもの育ちを支えるために必要な保育者の役割や専門性について学ぶ。			
第7回：「保育者の役割②：保育者の研修」 保育実践の振り返りや専門性の向上のための研修のあり方について学ぶ。			
第8回：「保育者の役割③；保護者支援」 保護者支援のあり方や子育て支援の現状について学ぶ。			
第9回：「保育者の役割④：専門機関との連携」 様々な保育ニーズに対応した専門機関との連携について学ぶ。			
第10回：「子どもの育ちと保育①：乳児期の発達」 乳児期の発達について学ぶ。			
第11回：「子どもの育ちと保育②：幼児期の発達」 幼児期の発達について学ぶ。			
第12回：「保育の展開と実践力①：遊び」 「遊び」を通じた保育の展開と実践力について学ぶ。			
第13回：「保育の展開と実践力②：絵本」 「絵本」から生まれた遊びと保育の展開について学ぶ。			
第14回：「保育の展開と実践力③：創造」 未来を見据えた取り組みについて学ぶ。			
第15回：「まとめ」 授業の振り返りを行う。			
定期試験 実施しない			

テキスト

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領』、厚生労働省（2018）『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

参考書・参考資料等

特になし。

学生に対する評価

レポート（50%）、授業内課題（30%）、授業態度（20%）

授業科目名： 教育制度論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古田 薫
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 教育法規の体系を理解し、主な教育関係法規名とその概要を説明できる。 ・ 教育の理念や目的・目標について理解し、義務教育の意義および特別支援教育の特質を説明できる。 ・ 教育行政の仕組みや学校制度について理解している。 ・ 学校運営について理解している。 <p>今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、自分自身の考えを述べることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育行政の組織と機能および学校教育に必要な法令や制度の基本、重要語句・概念についての理解を深め、教員となるために必要な教育制度や学校経営についての体系的な知識を獲得する。教育法規の体系や、教育の理念・目的・目標、教育の機会均等を実現するための教育行政の仕組みや学校制度、学校運営について学習するとともに、今日の教育の課題と教育改革の動向を理解し、学校制度・学校経営の視点から考察することにより自分自身の考えを深める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「教育行政と教育制度の基礎知識」 教育制度を学ぶ意義を理解する。教育行政、教育制度の基本概念を理解する。</p> <p>第2回：「法体系と教育関係法規の概要」 法規の体系と、日本の教育制度の法的・制度的枠組みを理解し、その課題について考察する。</p> <p>第3回：「憲法教育基本法制①教育に関する規定」 憲法における教育に関する規定、教育制度の法的基盤を理解する。教育基本法の性質と意義、内容を理解する。</p> <p>第4回：「憲法教育基本法制②教育基本法」 教育基本法改正の背景とポイントを理解する。教育基本法の意義と内容を理解する。</p> <p>第5回：「学校教育の基本」 学校教育の目的と目標、学校教育に関する様々な基本的法規を理解する。</p> <p>第6回：「教育行政のしくみ①文部科学省と教育委員会」 文部科学省と教育委員会の関係と役割分担を理解する。中央教育審議会やその他の諮問機関の役割と影響を理解する。</p> <p>第7回：「教育行政のしくみ②教育委員会」</p>			

教育委員会制度の成立と発展の歴史を理解する。教育委員会制度の概要と意義を理解する。

第8回：「教育を受ける権利の保障」

教育を受ける権利を保障するための義務教育制度、就学援助、教育扶助の概要を知る。

第9回：「学校の組織と運営①チーム学校」

学校運営の基本原則とチーム学校の意義を理解する。学校評価について理解する。

第10回：「学校の組織と運営②学校運営の管理」

学校運営におけるさまざまな管理を理解する。

第11回：「学校の組織と運営③保護者・地域に関する法規」

学校と保護者・地域に関する法規を理解する。

第12回：「教育課程・教育活動に関する法規、学校指導要領」

学校教育における学習指導要領教育学的・法的位置づけ、意義及び取り扱いについて理解する。

第13回：「学校運営と学校安全」

学校安全の目的と必要性を理解する。

第14回：「児童生徒に関する法規」

就学と在学、卒業、懲戒および出席停止に関する法規を理解する。

第15回：「児童生徒をめぐる様々な問題」

学校におけるさまざまな問題とそれらに対する対応等について理解する。

定期試験

テキスト

法規で学ぶ教育制度（古田薫、山下晃一編著 ミネルヴァ書房）必要に応じてプリントを配布する。

参考書・参考資料等

解説教育六法（三省堂）・図解・表解 教育法規“確かにわかる”法規・制度の総合テキスト（坂田 仰他 教育開発研究所）

学生に対する評価

試験（60%）、授業内課題（20%）、まとめノート提出分（20%）

授業科目名： 教育社会学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 吉原 恵子
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育に関心をもち、探求しようとする態度（関心・意欲）：現代の教育問題に関心を持ち、現状のみならず、その背景や原因について情報・知識をもとに説明できる。</p> <p>教育と社会の関係を理解できる（知識・理解）：教育社会学の理論における専門用語を習得して、教育問題の特徴や構造を説明できる。</p> <p>データを集約・分析し、まとめることができる(分析力・表現力)：教育問題について批判的に捉えるだけでなく、データ等を用いて多面的に分析し、解決に向けた考えをまとめて発表できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教育とは、人を望ましい方向へと変化させる営みである。一面では、教育は教育を行う者と教育を受ける者の間に起こる社会的相互作用である。他方、特定の社会のなかで、教育は一定の価値観に基づき法律や制度を介して行われる。すなわち、教育は社会的産物であり、社会現象としてさまざまな問題を生み出すものでもある。本講義では、教育を社会学的に捉える視点を養い、教育現場の諸課題について考察していく。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育社会学の視点：教育社会学の視点について理解する。教育社会学の成立の背景、社会移動、学歴社会などを中心として教育や学校の社会的機能を説明できる。</p> <p>第2回：学歴社会と学力(1)：学歴社会の基本構造、身分制社会から学歴社会への転換、日本社会のエリートなどについて説明できる。</p> <p>第3回：学歴社会と学力(2)：学歴社会は業績社会なのかについて考察し考えをまとめることができる。</p> <p>第4回：学校で起こる問題：いじめや不登校など学校やその周辺で起こる問題について、現状と背景・原因について説明できる。</p> <p>第5回：子どもをめぐる問題：子ども期や青年期の誕生について理解し、電子メディアと子どもの関わりや育児メディアなどについて問題点を説明できる。</p> <p>第6回：子どもの貧困と教育支援：日本における子どもの貧困の実態を理解し、子どもの貧困対策と教育支援、学校の役割について説明できる。</p> <p>第7回：非行と逸脱：少年非行の現状を理解し、少年非行に対する社会学的アプローチ、社会の変化と</p>			

教育問題の心理主義化・医療化について説明できる。

第8回：子どもの社会学（討議）：学校や子どもをめぐる問題について社会学的に理解し、問題の分析を行うとともに、解決策や今後の展望について議論し結論を発表できる。

第9回：教師をめぐる問題：教師の役割について社会学的にアプローチするとともに、教職の多忙化・バーンアウト、変わる教員養成の現状について説明できる。

第10回：学校における他職種協働：生徒指導に関わる職種の多様化、多職種の配置による教員の役割の変化について理解し、学校における多職種協働について説明できる。

第11回：地域社会と教育：地域社会が果たす教育上の役割とその変容について、子どもと地域の大人のつながり、地域で支える学校づくりを中心として説明できる。

第12回：ジェンダーと教育：教育分野におけるジェンダー・ギャップについて理解し、隠れたカリキュラムやジェンダーの多様性を考える視点について説明できる。

第13回：リスク社会における教育格差：リスク社会と教育をめぐる格差問題について理解し、日本社会における教育費負担、子どもの貧困問題と学力保障について説明できる。

第14回：教育と多様性（討議）：変化する教育の現状について理解するとともに、多様性をめぐる諸課題について解決策や今後の展望について議論し結論を発表できる。

第15回：知識基盤社会と教育改革：知識基盤社会と生涯学習社会について理解し、キーコンピテンシーや社会関係資本と教育改革について説明できる。

定期試験

テキスト

『教育社会学（新しい教職教育講座 教職教育編③）』原清治・山内乾史 編著（ミネルヴァ書房）

参考書・参考資料等

『教育の社会学 ～〈常識〉の問い方 直し方～ 新版』荻谷剛彦 他著（有斐閣），『よくわかる教育社会学』酒井朗 他編著（ミネルヴァ書房）

学生に対する評価

試験（45％）、小テスト（25％）、発表・実技（10％）、授業内課題（20％）

授業科目名： 教育心理学	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松田 信樹
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴を理解する。</p> <p>幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につけ、各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育心理学への導入：教育心理学はどのような学問か？ 発達と学習の心理学を学ぶ意義</p> <p>第2回：発達の基礎：人間が発達するとはどういうことか：発達観の明確化</p> <p>第3回：能力と性格の発達：人間の発達を支える2つの柱：遺伝と環境、そして遺伝と環境の相互作用</p> <p>第4回：子どもの発達①：新生児期から乳児期にかけての発達</p> <p>第5回：子どもの発達②：幼児期から児童期にかけての発達</p> <p>第6回：子どもの発達③：青年期の発達と青年期特有の心の問題</p> <p>第7回：発達をつまづき：生きづらさを抱える子どもの心理</p> <p>第8回：学習の仕組み①：学習の成立：特に条件づけの仕組みについて</p> <p>第9回：学習の仕組み②：学習の成立：特にモデリングの仕組みについて</p> <p>第10回：やる気の心理学①：学習に対する動機づけ：特に内発的動機づけについて</p> <p>第11回：やる気の心理学②：学習に対する動機づけ：無力感に陥る仕組みと自己効力について</p> <p>第12回：学習を支える記憶の仕組み①：記憶の基本的な仕組みについて、心理学実験を通して体験的に理解する。</p> <p>第13回：学習を支える記憶の仕組み②：記憶に残る学習方法を考える。</p> <p>第14回：教授法と教育評価：何をどのように教え、どのように評価するかを学ぶ。</p> <p>第15回：学級集団の理解：集団心理学の観点から学級集団作りについて考える。</p> <p>定期試験：</p>			
<p>テキスト</p> <p>『育ちと学びの心理学 ―こどもの成長に寄り添うために』 松田信樹（著） あいり出版 2018</p>			

参考書・参考資料等

『やさしい教育心理学 [第5版]』 鎌原雅彦・竹綱誠一郎（著） 有斐閣 2019

学生に対する評価

試験（50%）、小テスト（50%）

授業科目名： 発達心理学	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 松田 信樹
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		
授業のテーマ及び到達目標			
<p>発達心理学の基本的事項を理解し、説明することができる。</p> <p>人の生涯発達の過程を理解し、説明することができる。</p>			
授業の概要			
<p>人間の生涯に渡る発達の過程を理解することを目的とする。受胎の瞬間から始まり死をもって終結する一個人の発達の流れを、複数の発達段階に区分し、それぞれの発達段階における身体的・社会的・心理的発達の特徴を理解する。発達障害に関する基礎を理解することも目的とする、</p>			
授業計画			
<p>第1回：発達心理学への導入：心理学の学問上の特徴、そして発達心理学では何をどのような目的をもって学ぶのかを理解する。</p> <p>第2回：発達の定義と発達観：発達の定義について理解した上で、現代の心理学が描く発達観を明確にする。</p> <p>第3回：発達の規定要因：人間発達の規定因は何かという問いを立て、遺伝要因と環境要因の観点から答えを探究する。</p> <p>第4回：胎児期から新生児期：胎児の発達について、母体内環境の重要性に焦点を当てて学ぶ。新生児が秘める能力についても学ぶ。</p> <p>第5回：新生児期から乳児期：赤ちゃんに生得的に備わっている特徴と、出生後1年間の赤ちゃんの発達について学ぶ。</p> <p>第6回：乳児期から幼児期①：乳幼児期の発達について、母子関係の形成と深化の観点から学ぶ。</p> <p>第7回：乳児期から幼児期②：乳幼児期の発達について、言語発達と遊びの発達の観点から学ぶ。</p> <p>第8回：幼児期：幼児期における自己の発達と情緒発達について学ぶ。</p> <p>第9回：幼児期から児童期：幼児期から児童期にかけての知的発達について、ピアジェ理論に依拠しつつ理解する。</p> <p>第10回：児童期①：児童期の発達について、人間関係の発達に焦点を当てて学ぶ。</p> <p>第11回：児童期②：児童期の発達について、学業に対するモチベーションに焦点を当てて学ぶ。</p> <p>第12回：青年期：青年期の発達について、アイデンティティの形成を鍵概念として理解する。</p> <p>第13回：成人期：成人期の発達について、親としての成長ならびに中年期危機を中心に学ぶ。</p>			

第14回：発達のみずきと歪み：発達のみずきと歪みについて理解し、発達障害をどのように捉えるべきかを考える。

第15回：発達障害：発達障害の基本的な事柄を正しく理解し、発達障害を抱える子どもへの支援のあり方を考える。

定期試験

テキスト

『育ちと学びの心理学 ―こどもの成長に寄り添うために』 松田信樹（著） あいり出版 2018

参考書・参考資料等

『よくわかる発達心理学 [第2版]』 無藤隆・岡本裕子・大坪治彦（編） ミネルヴァ書房 2009

学生に対する評価

試験（50%）、小テスト（50%）

授業科目名： 特別支援教育 I	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 杉田 律子
			担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別の支援を必要とする幼児の障害の特性及び心身の発達を理解することができる。 ・ 特別の支援を必要とする幼児に対する教育課程や支援の方法を理解することができる。 ・ 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児の発達や又は生活上の困難とその対応を理解することができる。 ・ 特別支援教育に関する理論や制度を理解することができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション／インクルーシブ教育、ICF」 特別支援教育、インクルーシブ教育等の概念障害をICFから考える</p> <p>第2回：「特別支援教育の理念、制度、法令」 インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組</p> <p>第3回：「特別支援教育の意義／共生社会」 乳幼児教育における特別支援教育の意義／集団保育における「困り感」についてのグループ討論</p> <p>第4回：「障害の理解と支援①発達障害の理解」 発達障害のある子どもの発達の特性について</p> <p>第5回：「障害の理解と支援②発達障害の子どもへの支援」 発達障害のある子どもへの基本的な支援について</p> <p>第6回：「障害の理解と支援③知的障害」 知的障害のある子どもの発達の特性について理解するとともに支援について</p> <p>第7回：「障害の理解と支援④肢体不自由」 肢体不自由の子ども発達の特性について理解するとともに支援について</p> <p>第8回：「障害の理解と支援⑤重複障害」 重複障害の子ども発達の特性について理解するとともに支援について</p>			

第9回：「障害の理解と支援⑥視覚障害」

視覚障害のある子どもの発達の特徴について理解するとともに支援について

第10回：「障害の理解と支援⑦聴覚障害」

聴覚障害のある子どもの発達の特徴について理解するとともに支援について

第11回：「障害の理解と支援⑧言語障害」

言語障害のある子どもの発達の特徴について理解するとともに支援について

第12回：「病弱児の理解と支援」

病弱の子どもの発達の特徴について理解するとともに支援について

第13回：「特別の教育的ニーズのある幼児の理解と支援」

母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上
又は生活上の困難や組織的な対応の必要性

第14回：「特別支援の教育課程および個別の指導計画、教育支援計画」

特別支援教育に関する教育課程（自立活動と通級指導を含む）の枠組みを踏まえ、個別の
指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法について

第15回：「家庭への支援」

特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築する
ことの必要性

定期試験

テキスト

国立特別支援教育総合研究所, 2020、特別支援教育の基礎・基本2020、ジヤース教育新社橋本正
巳, 2012、気になる子どもの支援ハンドブック～マルチアレンジングサポートのすすめ～、全国
心身障害児福祉財団

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する

学生に対する評価

試験（60%）、発表・実技（20%）、授業内課題（20%）

授業科目名： 特別支援教育Ⅱ	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 杉田 律子 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別の支援を必要とする幼児の障害の特性及び心身の発達を理解することができる。 ・ 特別の支援を必要とする幼児に対する教育課程や支援の方法を理解することができる。 ・ 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児の発達や又は生活上の困難とその対応を理解することができる。 ・ 子どもに適した支援方法を学び、教材研究の方向性を理解できる。家族への支援について考えることができる。 			
<p>授業の概要</p> <p>様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児の発達や生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法をグループ研究を通して理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「オリエンテーション／特別支援教育の意義、支援の場」 授業の進め方（グループ研究）の説明とグループ編成を行う。特別支援教育の意義の理解と支援機関について理解する。</p> <p>第2回：「特別支援における課題と連携（1）個別の教育支援計画」 教育機関との連携特別支援教育に関する教育課程（自立活動と通級指導を含む）、個別の指導計画及び個別の教育支援計画について</p> <p>第3回：「特別支援における課題と連携（2）福祉との連携」 保育・教育機関だけでなく社会福祉機関など地域の資源を活用した支援の方法について（貧困・外国籍の子どもの問題など）</p> <p>第4回：「特別支援における課題と連携（3）保健・医療」 それぞれの障害特性について理解し、医療的な支援の基礎的事項を理解し、医療機関の活用した計画立案の方法について学ぶ。</p> <p>第5回：「グループ演習（1）グループ研究のテーマの設定と文献調査」 各グループごとに特別支援教育における課題について話し合い、各グループの研究テーマを設定し、その概要についての文献調査。障害の特性に合った支援方法や通級による指導及び</p>			

「自立活動」の実際、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の作成の実際、家庭や専門機関との連携など多様な研究テーマから選択し、能動的に学習する。

第6回：「グループ演習（2）文献調査と発表スライドづくり」

各グループごとに特別支援教育における課題について文献研究を行い、発表スライドを作成する。

第7回：「グループ演習（3）文献調査と発表スライド、原稿づくり」

各グループごとに文献研究を行い、発表スライドを作成し、発表原稿づくりを行う。

第8回：「グループ演習（4）発表」

研究テーマの概要、現在行われている支援、今後の課題について発表する。

発表グループの評価を行う。

第9回：「グループ演習（5）支援計画」

研究テーマに沿って、特別支援が必要な子どもに対して適切な支援について考え、その具体的な計画を立てる。

第10回：「グループ演習（6）教材研究」 指導計画に基づき、教材研究などを行う。

具体的な支援場面で使用する教材の作成。

第11回：「グループ演習（7）教材制作と実践」 指導計画に基づき、教材研究などを行う。

必要であれば、課外で実践を行う。

第12回：「グループ演習（8）発表スライドの作成」 研究の成果を発表用スライドにまとめ、

発表原稿をつくる。支援計画、教材研究、実践とその効果の結果をまとめる。

第13回：「グループ演習（9）グループ発表」 学習の成果をスライドを用いて発表。

他グループの発表を評価する。

第14回：「グループ演習（10）グループ発表」 学習の成果をスライドを用いて発表。

他グループの発表を評価する。

第15回：「学習のまとめ」

グループ発表を振り返り、特別支援が必要な子どもの現状や支援の在り方について理解を深める。

定期試験

テキスト

国立特別支援教育総合研究所, 2020、特別支援教育の基礎・基本2020、ジアース教育新社橋本正巳, 2012、気になる子どもの支援ハンドブック～マルチアレンジングサポートのすすめ～、全国心身障害児福祉財団

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する。

学生に対する評価

試験（60%）、発表・実技（20%）、授業内課題（20%）

授業科目名： 教育・保育の課程と 評価	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 澤田 真弓 担当形態：単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育課程の意義と役割、機能について理解する 幼稚園、保育所、認定こども園における要領・指針の性質や位置付け、改訂の内容、改訂の社会的背景を理解することができる。 ・教育・保育課程編成の原理と方法を理解する 教育・保育課程編成の原理と方法を理解し、乳幼児や地域の実態を踏まえて課程と指導計画を検討することの重要性を理解することができる。 ・カリキュラム・マネジメントとの意義を理解する カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、カリキュラム評価の基礎的な考え方を身につける 			
<p>授業の概要</p> <p>教育・保育において、カリキュラムが持つ意義と役割を理解し、編成の原理と方法を学ぶ。子ども理解に基づく教育・保育過程の循環とカリキュラム・マネジメントについて学び、これらを生かした教育・保育の質向上の取り組みについて理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：「カリキュラムの基礎理論」 カリキュラムとは何かについて、歴史的変遷を踏まえて学ぶ</p> <p>第2回：「幼稚園教育要領について」 幼稚園教育要領の性格と位置付け、改訂の変遷について学ぶ</p> <p>第3回：「保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について」 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置付け、改訂の変遷について学ぶ</p> <p>第4回：「教育・保育における目標と計画」 幼稚園、保育所、認定こども園等における教育・保育目標と計画の基本的な考え方について学ぶ</p> <p>第5回：「全体的な計画と指導計画の意義と役割」 カリキュラムの意義と役割について、それぞれの特徴を踏まえて学ぶ</p> <p>第6回：「全体的な計画作成の原理と方法」 全体的な計画の特徴と、その編成方法について学ぶ</p> <p>第7回：「長期指導計画作成の原理と方法」</p>			

<p>長期指導計画の特徴と、その編成方法について学ぶ</p> <p>第8回：「短期指導計画作成の原理と方法」</p> <p>短期指導計画の特徴と、その編成方法について学ぶ</p> <p>第9回：「全体的な計画と指導計画検討上の留意点」</p> <p>乳幼児の発達や、園と地域の実態を踏まえてカリキュラムを検討することの重要性を学ぶ</p> <p>第10回：「教育・保育の過程の循環と質の向上」</p> <p>PDCAサイクルとは何かを理解し、この循環を活かした教育・保育の質向上の取り組みについて学ぶ</p> <p>第11回：「教育・保育の記録と省察」</p> <p>教育・保育記録の意義と作成方法について学ぶポートフォリオやドキュメンテーションについて知る</p> <p>第12回：「教育・保育の評価」</p> <p>評価の観点と、実際的な実施方法について学ぶ</p> <p>第13回：「発達の連続性を踏まえたカリキュラムについて」</p> <p>小学校との接続カリキュラムについて学び、アプローチカリキュラム、スタートカリキュラムを理解する。</p> <p>第14回：「カリキュラム・マネジメントの意義」</p> <p>カリキュラム・マネジメントが持つ意味、実際にカリキュラム・マネジメントを実施する際の留意点について学ぶ</p> <p>第15回：「カリキュラム・マネジメントとカンファレンス」</p> <p>カリキュラム・マネジメントの視点から、研修、研究保育等の実践力向上のための取り組みについて学ぶ</p> <p>定期試験</p>
<p>テキスト</p> <p>谷田貝公昭監修『コンパクト版保育者養成シリーズ教育・保育課程論』一藝社（2017）、文部科学省（2018）『幼稚園教育要領解説』、厚生労働省編（2018）『保育所保育指針解説』、内閣府他（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館</p>
<p>参考書・参考資料等</p> <p>必要に応じて紹介する。</p>
<p>学生に対する評価</p> <p>試験（80%） 授業内課題（20%）</p>

授業科目名： 教育方法・技術論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河野 稔 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 教育の方法及び技術		
授業のテーマ及び到達目標 履修カルテ参照： <ul style="list-style-type: none"> ・子どもに育むべき資質・能力を理解し、教育方法を工夫する意義を説明できる。 ・学習指導案の基本的な要素と作成のながれを理解し、実際に設計できる。 ・学習者を支援する基本的な指導技術を身につけ、活用することができる。 ・ICT機器・教材の活用法を理解し、授業設計の際に適切に位置づけることができる。 			
授業の概要 これからの社会を生きる子どもたちを育成するために、どのような授業をすれば上手く教えられるのか、どのように教材や学習環境を工夫すれば学習者は上手く学べるのかを学習する。インストラクショナルデザインの考え方に基づいて、授業設計にかかわる基本的な考え方、授業場面での指導技術、ICT（情報通信技術）の効果的な活用や情報社会の中で学び続ける力の育成方法を学ぶとともに、学習指導案を実際に作成し、受講生間で評価することで、授業設計の一連のプロセスを学ぶ。			
授業計画 第1回：これからの子どもたちに求められる資質・能力の育成 これからの社会を生きる子どもたちに育みたい力を考え、学習活動のアイデアを整理する。 第2回：これからの教師に求められる授業力 教師に求められる資質・能力を確認し、省察的実践家としての教師を目指す上で大事な考え方や態度を整理する。 第3回：授業づくりとそのプロセス 授業づくりの基本的な考え方を確認する。授業パッケージの制作チームをつくり、制作する授業テーマと学習目標を考える。 第4回：評価のデザイン 目的・指導・評価の一体化の意義および評価方法を理解する。授業パッケージで想定するテーマについて評価方法を検討する。 第5回：学習環境のデザイン、授業企画書の発表会			

学習環境を構成する要素や資源を理解する。授業パッケージで想定するテーマを実施する上で必要な環境を検討する。

第6回：授業を支える指導技術（教師編）

授業での教師の振る舞いや板書・資料提示について理解する。授業パッケージのチームでお互いの話し方の特徴を確認する。

第7回：学びを引き出す指導技術（児童・生徒編）

学習者中心の授業のポイントを整理する。授業パッケージのチーム内でノートの取り方や学び方を紹介しあう。

第8回：学習指導案をつくる（1）学習目標の設定

学習指導案の構成要素および学習目標の明確化について理解する。授業パッケージのテーマについて学習目標を定義する。

第9回：学習指導案をつくる（2）深い学びを導く教材研究

教科書等の役割、および教材研究としての課題分析を理解する。授業パッケージの学習目標について課題分析図を作成する。

第10回：学習指導案をつくる（3）主体的・対話的な学習過程

協同学習や自己調整学習を理解し、探求型のアプローチを確認する。授業パッケージのテーマについての学習過程を作成する。

第11回：学習指導案をつくる（4）学びが見える評価方法

ルーブリック等の学習の質を見極めるための評価方法を理解する。授業パッケージのテーマについて評価計画を作成する。

第12回：授業の魅力を高めるICTの活用

ICT活用の意義や目的、活用場面を確認する。実際にICT機器を操作体験し、授業パッケージでの活用の可能性を検討する。

第13回：情報活用能力の育成

情報活用能力を育成する学習活動を確認する。授業パッケージの中で学習者が意識すべき情報活用能力について検討する。

第14回：これからの学習環境とテクノロジーの役割

テクノロジーによる新しい学びの姿を整理する。今後の学校のICT環境における教師の役割について自分の考えをまとめる。

第15回：模擬授業の実施と授業の改善、授業のまとめ：授業内容をふりかえるとともに、授業パッケージを仕上げて模擬授業を実践する。

定期試験は実施しない

テキスト

稲垣忠編著(2019)『教育の方法と技術』北大路書房

参考書・参考資料等

堀田龍也・佐藤和紀編著(2019)『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』三省堂、文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説』、文部科学省(2018)『幼稚園教育要領解説』等

学生に対する評価

授業パッケージ報告書のレポート (50%)、授業企画書の発表と模擬授業 (20%)、毎回の授業のテーマに沿った授業内課題 (30%)

授業科目名： 教育におけるICT活用 の理論と方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 河野 稔 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。） 情報通信技術を活用した教育の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標 履修カルテ参照： ・情報社会の進展に伴うICTを活用した教育の意義と教育データを活用した個別最適な学び等の将来像を説明できる。 ・学校のICT環境の整備に伴う、校務の情報化や外部人材などの活用、情報セキュリティ対策のあり方を説明できる。 ・オンライン教育を含めた学習場面に応じて、ICTを効果的に活用した授業を計画し、デジタル教材を作成できる。 ・各教科等の特性に応じて、児童生徒がICTを活用して個別あるいは協働的に学ぶための基本的な指導法を説明できる。			
授業の概要 児童生徒1人1台端末による学習環境が整備され、ICT（情報通信技術）による個別最適な学びと協働的な学びが実現できるようになった。この科目は、主体的・対話的な深い学びの実現のためのICT活用指導力の養成を目指し、ICTを活用した学習活動の意義を理解し、学習場面に応じたICTを活用した授業の設計と準備、児童生徒の情報活用能力を育成するための指導法、教師や学校を支援するツールとしてのICTの活用について学ぶ。また、各教科等のデジタル教材を作成する演習にも取り組む。			
授業計画 第1回：オリエンテーション 教育の情報化とGIGAスクール構想の現状を確認し、現代社会におけるICTの役割、ICTを活用した教育の意義を概観する。 第2回：教育における視聴覚メディアとコンピュータ活用の展開 視聴覚メディアとコンピュータの学校教育での歴史的展開を理解し、学校でのメディアと技術の活用を議論する。 第3回：教師のICT活用指導力とデジタルコンテンツの活用 デジタル教科書等のデジタルコンテンツの特性と活用のあり方を踏まえて、教師に求められるICT活用			

指導力を理解する。

第4回：対話的な学びと個別最適な学びを支えるICT

ICTを活用した協働学習の特性や個別最適化された学びの意義を理解し、先端技術を含めた活用のあり方を議論する。

第5回：特別支援教育と幼児教育におけるICT活用

特別支援教育と幼児教育でのICT活用の意義と現状を確認し、実践事例から活用するための留意点を理解する。

第6回：遠隔授業・オンライン学習と学びの保障

遠隔授業やオンライン学習の特性と活用方法および著作権等の留意点を理解し、ICTによる学びの保障について議論する。

第7回：校務の情報化と教育データの活用

校務支援システム等による校務の情報化を理解し、教育データの種類や活用、情報セキュリティ等の課題を確認する。

第8回：児童生徒によるICT活用

児童生徒によるICT活用の意義と各教科における学習場面を確認し、日常的にICTを活用するための留意点を理解する。

第9回：情報活用能力と情報モラル教育

情報活用能力における情報モラル教育の位置づけを確認し、実践事例をもとに授業づくりの考え方を議論する。。

第10回：プログラミング教育で育成する資質・能力

プログラミング教育のねらいや位置づけを理解して、具体的な授業方法や授業をする際の留意点を理解する。

第11回：探求を支える情報活用能力

探求の基盤となる資質・能力と情報活用能力の関係を確認し、学校図書館の活用等の実践事例から指導法を理解する。

第12回：デジタル教材の作成と活用(1)

ICTを活用した教材作成として、グループで作成するデジタル教材を設計して、指導内容を企画書としてまとめる。

第13回：デジタル教材の作成と活用(2)

実際にICT機器を使用して、グループで設計したデジタル教材を作成する。

第14回：デジタル教材の作成と活用(3)

グループで作成したデジタル教材を発表し、共有をして相互評価をして、改善点を検討する。

第15回：全体のまとめとICT活用指導力の向上

教師のICT活用指導力に求められる資質・能力をまとめ、ICT活用指導力の向上とその留意点について考察する。

定期試験は実施しない

テキスト

稲垣忠・佐藤和紀編著（2021）『ICT活用の理論と実践』北大路書房

文部科学省(2020)『教育の情報化に関する手引き-追補版-』

参考書・参考資料等

稲垣忠編著(2019)『教育の方法と技術』北大路書房

堀田龍也・佐藤和紀編著（2019）『情報社会を支える教師になるための教育の方法と技術』三省堂

文部科学省『教育の情報化の推進』

文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説 総則編』等

学生に対する評価

レポート課題（30%）、デジタル教材の作成・発表（30%）、毎回の授業のテーマに沿った授業内課題（40%）

授業科目名： 幼児理解	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 1単位	担当教員名： 松田 信樹 担当形態：単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	幼児理解の理論及び方法		
授業のテーマ及び到達目標			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基本的態度を理解することができる。 ・ 幼児理解の方法を具体的に理解することができる。 			
授業の概要			
<p>幼児理解は、幼稚園教育のあらゆる営みの基本となるものである。幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考える。</p>			
授業計画			
<p>第1回：「幼児教育を志す者としての基本的態度」 幼児理解を深めるために教師がとるべき基本的態度について理解する。</p> <p>第2回：「幼児教育における子ども理解とは①」 幼児教育における子ども理解の意義を事例を通して理解する。</p> <p>第3回：「幼児教育における子ども理解とは②」 子どもの行為など様々な情報から子どもの理解を試みる意義を理解する。</p> <p>第4回：「幼児教育と環境①」 環境を通して教育を行うことの意味を理解する。</p> <p>第5回：「幼児教育と環境②」 安心感が子どもの学びと発達を促進することを事例から理解する。</p> <p>第6回：「幼児理解における発達の視点①」 子どもと関わる大人が変われば子どもも変わることを事例から理解する。</p> <p>第7回：「幼児理解における発達の視点②」 個としての発達と関係性の発達について考察する。</p> <p>第8回：「幼児理解における教師の姿勢①」 幼児教育とカウンセリングマインドについて学ぶ。 その1</p> <p>第9回：「幼児理解における教師の姿勢②」 幼児教育とカウンセリングマインドについて学ぶ。 その2</p> <p>第10回：「観察と記録」 幼児教育における観察と記録の実際を事例を通して学ぶ。</p> <p>第11回：「個と集団の関係①」 幼児教育における個と集団の関係の理解と援助の在り方を考える。 その1 個性化と社会化の葛藤</p> <p>第12回：「個と集団の関係②」 幼児教育における個と集団の関係の理解と援助の在り方を考える。 その2 アサーショントレーニングについて</p>			

第13回：「特別なニーズの理解と支援①」 子どもの特別なニーズの理解と援助の在り方を考える。

その1：生きづらさを抱えた子どもへの支援の実際

第14回：「特別なニーズの理解と支援②」 子どもの特別なニーズの理解と援助の在り方を考える。

その2：気持ちの受け止めと支援の実際

第15回：「保護者支援」 子の成長を願う保護者の心情の理解と保護者対応の実際について学ぶ。

定期試験 実施しない

テキスト

『新しい保育講座③ 子ども理解と援助』 高嶋景子・砂上史子（編著） ミネルヴァ書房 2019

参考書・参考資料等

『子ども理解と援助 -子ども・親とのかかわりと相談・援助の実際-』 名倉啓太郎（監修）
寺見陽子（編著） 保育出版社 2004

学生に対する評価

授業内課題（100%）

授業科目名： 教育相談	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤野 正和 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校における教育相談の必要性と意義について説明できる</p> <p>教育相談を支える心理学的理論およびアセスメント、カウンセリング技法について説明できる</p> <p>学校現場における様々な問題に対して、その問題の重要性を理解した上で、具体的な対応を考え出すことができる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この授業では、教育相談が学校生活において児童生徒と接する教員にとっての不可欠な業務であり、学校における基盤的な機能であることを踏まえて、幼児、児童及び生徒の発達の状況に即しつつ、個々の心理的状态や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む）について理解を深めることを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：学校における教育相談の必要性と意義：学校における教育相談の必要性と意義について説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める</p> <p>第2回：教育相談を支える心理学の理論：教育相談を支える心理学の理論について説明し、その理論的背景について理解を深める</p> <p>第3回：教育相談におけるアセスメント：教育相談におけるアセスメントの重要性について説明し、教育現場におけるアセスメントの活用について理解を深める</p> <p>第4回：カウンセリングの基本技法：カウンセリングの基本技法について説明し、その演習をとおして、カウンセリングにおける基本的姿勢に対する理解を深める</p> <p>第5回：幼児期・児童期の発達課題に応じた教育相談：幼児期・児童期の発達課題に応じた教育相談について説明し、その発達段階に応じた対応について理解を深める</p> <p>第6回：青年期の発達課題に応じた教育相談：青年期の発達課題に応じた教育相談について説明し、その発達段階に応じた対応について理解を深める</p> <p>第7回：いじめ問題の理解と対応：いじめ問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応について理解を深める</p> <p>第8回：不登校問題の理解と対応：不登校問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応に</p>			

ついて理解を深める

第9回：虐待・非行問題の理解と対応：いじめ問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応について理解を深める

第10回：特別な支援を必要とするこどもの理解と対応：虐待・非行問題の理解と対応について説明し、その問題に応じた対応について理解を深める

第11回：保護者支援のあり方：保護者支援のあり方について説明し、保護者への対応について理解を深める

第12回：チーム学校で行う教育相談のあり方：チーム学校で行う教育相談のあり方について説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める

第13回：専門機関との連携：専門機関との連携について説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める

第14回：教師のメンタルヘルス：教師のメンタルヘルスについて説明し、学校現場におけるその重要性について理解を深める

第15回：全体の総括：授業全体の総括を行い、課題に向けた内容の整理を行う

定期試験は実施しない

テキスト

学校現場で役立つ教育相談 藤原和政、谷口弘一編著 北大路書房

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する

学生に対する評価

レポート（70%）、授業内課題（30%）

シラバス：教職実践演習

シラバス： 保育・教職実践演習	単位数：2単位	担当教員名：磯野 久美子			
科 目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	25人(4クラスで実施)				
教員の連携・協力体制 学科教員、幼稚園教諭の領域及び保育内容の指導法に関する科目を担当する教員及び教職科目を担当する教員が、相互に担当内容を把握し、適宜学生の学習状況についての情報交換、確認を行う。また、教育委員会や幼稚園・保育所等から講師を招き、現場の実践を講演してもらうなど、外部講師の協力のもと授業をすすめていく。					
授業のテーマ及び到達目標 <ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児教育の知識を身につける 4年間の履修授業内容や実習を通して、身につけた知識等を実践的指導力に繋げることができる。 ・ 保育技術を身につける 保育実践に必要な技能の習得を確認し、さらなる技術の向上を目指す。 ・ 多様な子どもの育ちを支援する 多様な子どもの育ちを支える保育者としての使命感について主体的に考えることができる。 					
授業の概要 大学4年間の各授業科目の履修や保育所実習、幼稚園実習を通して身につけた、保育者として必要な知識や技能等の習得について確認し、自己にとって何が課題であるのかを自覚することを目的とする。必要に応じて不足している知識や技能等を補い、その定着を図るため、現場実践者の講話やグループ討議、さらに、ICTを保育実践に活用した事例研究等を取り入れた授業を展開する。					
授業計画 第1回：「オリエンテーション」 授業の目的や計画を理解し、これまでの学びの振り返りから自己の課題を整理する。 第2回：「講話①「教育委員会」」 保育・教職の意義や役割、職務内容について学ぶ。 第3回：「グループワークと発表①：教育委員会」 講話①をもとに、グループ討議を行い、自己の課題を明確にする。 第4回：「講話②「保育所・幼稚園等での保育」」 保育所や幼稚園等での取り組みや保育の内容についての講話を聴く。 第5回：「グループワークと発表②：保育所・幼稚園等での保育」 講話②をもとに、グループ討議を行い、自己の課題を明確にする。 第6回：「講話③「児童養護施設での取り組み」」 児童養護施設の役割や取り組み、そして、課題に					

についての講話を聴く。

第7回：「グループワークと発表③：児童養護施設での取り組み」講話③をもとに、グループ討議を行い、自己の課題を明確にする。

第8回：「講話④「子どもの心と体」」医療保育の観点から子どもの権利や発達過程における保育者のかかわりについての講話を聴く。

第9回：「講話⑤「子どもの育ちと遊び」」子どもの育ちに沿った遊び（わらべうた）について実践を交えた講話を聴く。

第10回：「グループワークと発表④：子どもの心と体、子どもの育ちと遊び」講話④⑤をもとに、グループ討議を行い、自己の課題を明確にする。

第11回：「保育実践の事例研究①（指導案の作成）」模擬保育実施に向けて保育指導案を作成する。

第12回：「保育実践の事例研究②（模擬保育Ⅰ）」保育指導案をもとに、グループで模擬保育を行う。

第13回：「保育実践の事例研究③（模擬保育Ⅱ）」保育指導案をもとに、グループで模擬保育を行う。

第14回：「教員のメンタルヘルスと服務規定について」教員のストレスやその対処法、服務規定について学ぶ。

第15回：「まとめ」自己課題をもとに、これまでの学びを振り返る。

テキスト

資料は授業において配布する。

参考書・参考資料等

文部科学省（2018）『幼稚園教育要領』、厚生労働省（2018）『保育所保育指針』、内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』

学生に対する評価

レポート（20%）、発表・実技（30%）、授業内課題（50%）

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名： 教職入門	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 古田 薫
			担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>・教員の社会的役割とその歴史の変遷を理解し、自分なりの教職観を持って、自身の課題を省察することができる。・教員養成と教員免許制度について理解している。・教員の任免と服務について理解している。・教員の種類と職務、校務分掌について理解している。・教員に求められる資質能力と研修について理解している。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>教職とは何か、教員の社会的役割は何か、教員の仕事とはどのようなことなのかについてさまざまな角度からアプローチし、教職の意義についての理解を深める。実際の教員の「仕事」や「立場」を、授業、校務分掌、保護者や地域と連携の観点から捉え、チームとしての学校の在り方を考察するとともに、法的な位置づけを理解する。また、教員として求められる資質や能力はどのようなものかについて理解し、自らの課題を明らかにする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教職とは</p> <p>第2回：さまざまな教職観とその歴史の変遷</p> <p>第3回：教員に求められる資質・能力</p> <p>第4回：教員養成と教員免許制度</p> <p>第5回：教員の職務① 教員の種類と職務、校務分掌、チーム学校の意義</p> <p>第6回：教員の職務② 学習指導、生徒指導、その他</p> <p>第7回：教員の職務③ 保護者・地域との連携協力</p> <p>第8回：教員の職務④ アカウンタビリティと学校運営</p> <p>第9回：教員の人事管理①：服務</p> <p>第10回：教員の人事管理②：任免と服務の監督、懲戒</p> <p>第11回：教員の人事管理③：教員評価</p> <p>第12回：教員の資質向上と研修</p> <p>第13回：教員の労働環境</p> <p>第14回：教員という仕事—やりがいと悩み—</p> <p>第15回：目指す教員像と課題</p>			

定期試験
テキスト 必要に応じてプリントを配付する。
参考書・参考資料等 教職論 これから求められる教員の資質能力（石村卓也、昭和堂） その他必要な資料を適宜授業で配布する。
学生に対する評価 試験（60%）、授業内課題（20%）、まとめノート提出分（20%）

授業科目名：特別支援教育の基礎	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉田 律子 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インクルーシブ教育の推進に向け、特別支援教育が果たす役割を理解する。 ・ 共生社会の実現に向けて、特別なニーズのある子どもに対する問題意識を高め、指導と支援のあり方について考える。 ・ 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 ・ 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。 			
<p>授業の概要</p> <p>様々な障害等およびその他のニーズにより特別な支援を必要とする幼児、児童に対して、発達障害のある子どもを中心とした基本的な課題と具体的な指導と支援のあり方について、その方法を考えることができるよう、講義とアクティブラーニングを行う。授業においては学校現場の指導事例等を適宜紹介し、実践的に支援計画と方法を考え、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別支援を必要とする子どもの理解①特別支援教育の理念 特別支援を必要とする子どもの基本的なとらえ方と知識の理解。インクルージョン、ICFの考え方の理解。</p> <p>第2回：特別支援を必要とする子どもの理解②特別支援教育の推進 インクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育の推進の意義について。特殊教育から特別支援教育への変遷</p> <p>第3回：知的障害および発達障害の理解 知的障害および発達障害児の心身の発達、心理的特性及び学習の過程</p> <p>第4回：知的障害および発達障害児教育の教育課程および支援の方法 ①通常の学級、②通級による指導、③特別支援学級、④特別支援学校における指導と支援の概要について、自立活動の意義について</p> <p>第5回：学習障害の理解と支援の方法 学習障害の障害特性の理解および具体的な指導と支援の方法について、事例を用いたアクティブラーニングにより理解を深める</p>			

第6回：ADHDの理解と支援の方法

ADHDの障害特性の理解および具体的な指導と支援の方法について、事例を用いたアクティブラーニングにより理解を深める

第7回：自閉症スペクトラム障害の理解と支援の方法

自閉症スペクトラム障害の障害特性の理解および具体的な指導と支援の方法について、事例を用いたアクティブラーニングにより理解を深める

第8回：視覚・聴覚障害の理解と支援の方法

視覚・聴覚の障害特性の理解および具体的な指導と支援の方法について、事例を用いたアクティブラーニングにより理解を深める

第9回：肢体不自由・重症心身障害児の理解と支援の方法

肢体不自由・重症心身障害の障害特性の理解および具体的な指導と支援の方法について、事例を用いたアクティブラーニングにより理解を深める

第10回：病弱児の理解と支援の方法

病弱児の障害特性さらに医療的ケアの理解および具体的な指導と支援の方法について、事例を用いたアクティブラーニングにより理解を深める

第11回：特別支援の教育課程と個別支援計画

特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法の理解

第12回：特別支援の教育課程および支援の方法

通級指導や自立活動を中心とする教育課程の枠組みの中での合理的配慮、特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性

第13回：家庭支援と教育相談 保護者に対する支援と教育相談、心理的アプローチ

第14回：特別の教育的ニーズのある子どもの把握と支援①

障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応

第15回：特別の教育的ニーズのある子どもの把握と支援②／まとめ

母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応

定期試験

テキスト

国立特別支援教育総合研究所, 2020、特別支援教育の基礎・基本2020、ジヤース教育新社
橋本正巳, 2012、気になる子どもの支援ハンドブック～マルチアレンジングサポートのすすめ～
、全国心身障害児福祉財団

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する

学生に対する評価

試験（70%）、授業内課題（30%）

授業科目名： 教育課程論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 關 浩和 担当形態： 単独
科 目	教育の基礎的理解に関する科目（小学校）		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	教育課程の意義及び編成の方法 （カリキュラム・マネジメントを含む。）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教育課程やその編成原理に関する基礎知識及びその関連性を説明することができる。</p> <p>学習指導要領の歴史的変遷について社会的背景を加味して説明することができる。</p> <p>教育課程の構造や教育課程開発理論、開発手順等について、留意点とともに説明することができる。</p> <p>分析対象校の教育課程や研究推進の組織の現状と課題を分析、検討することができる。</p> <p>カリキュラム・マネジメントにおける教師の役割を説明することができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>近年の教育改革では、特色ある学校づくりが求められるようになっている。学校づくりの核となるのが、教育の内容及び方法の選択・組織に関わる教育課程である。本講義では、我が国の教育課程の基準としての学習指導要領の歴史的変遷を実践的視点からその諸理論を概観して、今日の教育改革や教育課程改革を理解し、そこに潜む問題や課題を把握し、新しい学校教育の展開と特色ある教育課程についてあり方について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：教育課程は、教育基本法や学校教育法、学校教育法施行規則、学習指導要領などに基づいて編成されていることや、「学問中心主義」と「子ども中心主義」という教育課程の編成原理についてケーススタディを行う。</p> <p>第2回：学校制度が始まるまでの日本の古代から近世（藩校や寺子屋の教育法）に至る教育の歴史を概観する。</p> <p>第3回：文明開化の欧化主義と復古的儒教主義との間で揺れていた日本の教育が、天皇制国家主義教育の確立に至った経緯を概観する。</p> <p>第4回：大正デモクラシーの時代の風潮の中で、子どもの個性や自主性の尊重を旗印として起こった大正自由教育を概観する。</p> <p>第5回：中央集権的で画一的な教育編成を改め、アメリカの進歩主義教育思想に基づく教育課程編成論を概観する。</p> <p>第6回：経験主義による教育内容の改造を図った昭和22・26年版学習指導要領について教育内容を把握した上で、各グループで分析結果をプレゼンテーションして、全体での情報の共有化を図るとともに、教育課程編成のねらいを明らかにする。</p>			

第7回：系統主義による教育内容の改革を図った昭和33年版学習指導要領から「教育内容の現代化」を図った昭和43年版学習指導要領の歴史の変遷について社会的背景を基に読み解き、特徴と課題をワークショップで明らかにする。

第8回：現代化カリキュラムは過密という批判の中からゆとりカリキュラムとなった昭和52年版学習指導要領の特徴と課題をワークショップで明らかにする。

第9回：「生きる力」と「ゆとり」を打ち出した平成元年・平成10年版学習指導要領までの歴史の変遷を理解し、特徴と課題をワークショップで明らかにする。

第10回：「最低基準性」を打ち出した学習指導要領の一部改訂の動向とその背景についてケーススタディにより明らかにする。さらに、平成20年版学習指導要領を取り上げ、「確かな学力」をベースにした「生きる力の育成」を打ち出した学習指導要領とその背景についてディスカッションで明らかにする。

第11回：平成29年版学習指導要領を取り上げ、資質・能力の育成やカリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学びを重視した新学習指導要領の特質とその背景についてディスカッションで明らかにする。

第12回：受講生は、地域の特性や保護者のニーズ、子どもの特性、学校の教育課題などを視点とした特色あるカリキュラムを実施している学校の情報についてインターネットを活用して収集をする。

第13回：受講生は、グループでの分析結果をプレゼンテーションして、全体で情報の共有化を図る。また、どのグループにも共通する点や研究課題に固有な点などがあるか全体でディスカッションをする。

第14回：カリキュラム・マネジメント及びカリキュラムの一部としての教師の役割について考察する。

第15回：講義全体を振り返り、残された疑問点に関する質疑応答とディスカッション及びまとめを行い、カリキュラム・マネジメント及び教育課程の重要性を理解する。

テキスト

關浩和（2019）『カリキュラム・マネジメントの理論と方法』兵庫教育大学大学院教育実践高度化専攻，176頁。

参考書・参考資料等

・文部科学省(2017)『小学校学習指導要領』、文部科学省(2017)『小学校学習指導要領解説』を適宜参照する。

・授業の中で、適宜プリントを配付する。

学生に対する評価

小テスト（20％）、レポート（30％）、発表・実践（30％）、授業内課題（20％）

授業科目名： 道徳教育論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 敦司 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	道徳の理論及び指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>道徳科の誕生による新しい道徳教育：学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育の意義、その要としての道徳科について説明できる。</p> <p>現代的な課題に向き合う指導計画の作成と内容の取扱い：年間指導計画の意義と内容について理解し、道徳教育の全体計画に基づく指導計画を作成することができる。</p> <p>「考え、議論する道徳」を実現する授業づくり：道徳科の授業を多様かつ柔軟に発想し、学習指導案を作成することができる。</p> <p>質の高い多様な指導方法と教師の指導技術：児童の学習状況や発言に配慮しながら、柔軟な授業展開を試みることができる。</p> <p>道徳科における評価の実践：道徳科における評価の意義を理解するとともに、評価の考え方と方法について説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>道徳教育の意義と理論について、学校における具体的な取組を分析・検討することで理解を深める。また、道徳科の特質を踏まえながら、「考え、議論する道徳」を実現する授業づくりを進める。学習指導案の作成と模擬授業に重点を置き、①読み物教材の登場人物への自我関与が中心の学習、②問題解決的な学習、③道徳的行為に関する体験的な学習など、多様な指導方法にチャレンジすることで、授業構想力と実践的指導力を身に付ける。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：道徳授業の動画を視聴しながら、本講義の学習の見通しと課題を持つとともに、受講方法を確認する。</p> <p>第2回：近代日本の道徳教育の変遷と教科化の背景：我が国の道徳教育の変遷と世界の道徳教育の動向を踏まえ、現状と課題、道徳科に求められている課題を考察する。</p> <p>第3回：道徳教育の意義と道徳性の発達：学校教育全体で取り組む道徳教育の意義と、児童の心の成長課題について理解する。</p> <p>第4回：道徳科の内容と指導計画：内容項目の構成や取扱いについて理解し、道徳科の年間指導計画作成の方法や手順について考察する。</p> <p>第5回：道徳科の授業①：具体的な授業実践をもとに、道徳科の特質を生かした授業づくりを進めるた</p>			

めの基本方針を確認する。

第6回：道徳科の授業②：児童が問題意識を持って多面的・多角的に考えたり、感動を覚えたりする教材の吟味・活用について考察する。

第7回：道徳科の授業③：「考え、議論する道徳」の実現に向けた学習指導の多様な展開と、それを生かす指導の方法や技術について考察する。

第8回：前半のまとめ授業づくりの構想：前半のまとめの小テスト（30分）授業づくりに向けて構想を練る。

第9回：学習指導案の作成①：学習指導案の内容と作成のための主な手順を確認し、具体的な指導過程を構想する。

第10回：学習指導案の作成②：道徳科の指導の基本方針を踏まえながら、指導の意図や構想を適切に表現した学習指導案を作成する。

第11回：学習指導案の作成③：作成した学習指導案についてグループで話し合い、アクティブ・ラーニングの視点に立った学習指導の展開を検討する。

第12回：模擬授業①：実施した模擬授業について、指導過程や発問構成等を吟味・検討し、改善を加える。

第13回：模擬授業②：前時の振り返りをもとに模擬授業を行い、道徳科の授業づくりの実際についてその理解と実践的指導力の形成を図る。

第14回：道徳科の評価：道徳科における評価のあり方や具体的な方法を整理・検討し、ワークシートに指導要録の評価文を書く。

第15回：講義のまとめ：本講義で学んだ道徳教育や道徳科のあり方について話し合い、学習指導の具体的なイメージをもとに授業内容を整理する。

定期試験は実施しない

テキスト

1. 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別の教科 道徳』文部科学省、廣済堂あかつき株式会社
2. 『新道徳教育全集 第3巻』日本道徳教育学会、学文社

参考書・参考資料等

1. 『道徳教育を学ぶための重要項目100』貝塚茂樹・関根明伸 編著、教育出版
2. 『「道徳科」評価の考え方・進め方』永田繁雄 編集、教育開発研究所

学生に対する評価

小テスト（20%）、レポート（40%）、発表・実技（30%）、授業内課題（10%）

授業科目名： 総合的な学習の理論と 実践	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 敦司、勝見 健史 担当形態： 複数・オムニバス
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	総合的な学習の時間の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>「総合的な学習の時間」の変遷と学習指導要領改訂の経緯：総合的な学習の時間の変遷を踏まえながら、学習指導要領改訂の基本的な考え方が説明できる。</p> <p>「総合的な学習の時間」の意義と教育課程における位置づけ：総合的な学習の時間の意義や教育課程上の位置づけを理解し、年間指導計画及び単元計画を作成できる。</p> <p>「総合的な学習の時間」の内容と指導方法：総合的な学習の時間の特質に応じた指導のあり方を理解し、具体的な授業を構想できる。</p> <p>「総合的な学習の時間」の評価：評価規準の指導計画への位置づけと、観点別学習状況の進め方を説明できる。</p> <p>「総合的な学習の時間」を支える体制づくり：総合的な学習の時間の充実に必要な条件整備について考え、教育環境をデザインすることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>総合的な学習の時間の意義や内容、カリキュラム、探究的な学習と横断的・総合的な学習展開について、学校の実践レベルでの具体的な事例の分析とそれに基づくディスカッション及びグループワークを通して考察する。また、年間指導計画、単元の内容と立案、指導・評価の進め方について具体的なイメージを形成し、総合的な学習の時間の実施に必要な知識や技能を習得する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：本講義の内容や学習方法について確認するとともに、自身の経験を想起しながら具体的な学習イメージを持つ。（担当：林敦司、勝見健史）</p> <p>第2回：「総合的な学習の時間」設置の目的と学習指導要領：現代の子供たちの学力の実態と課題から、総合的な学習の時間の意義と教育活動全体における役割を考察する。（担当：林敦司）</p> <p>第3回：「総合的な学習の時間」の目標と内容：学習指導要領改訂のポイントを踏まえ、総合的な学習の時間の目標と内容、育成する資質・能力について考察する。（担当：林敦司）</p> <p>第4回：「総合的な学習の時間」の学習指導の基本的な考え方：総合的な学習の時間の実践上の課題を明らかにしながら、探究的な学習の指導のあり方について考察する。（担当：林敦司）</p> <p>第5回：カリキュラム・デザイン作成のワークショップ：総合的な学習の時間におけるカリキュラム・</p>			

マネジメントの三つの側面に留意して、全体計画と年間指導計画を作成する。（担当：林敦司）

第6回：作成したカリキュラム・デザインの分析と検討：作成した年間指導計画の構想や内容について、グループで分析し検討する。（担当：林敦司）

第7回：単元デザイン作成のワークショップ：作成の手順を確認し、学習過程が探究的になるよう留意しながら、単元計画を具体的に書き表す。（担当：勝見健史）

第8回：作成した単元デザインの分析と検討：作成した単元計画の構想や内容について、グループで検討・吟味してよりよいものにする。（担当：勝見健史）

第9回：授業デザイン作成のワークショップ①：学習指導案の内容と作成のための手順を確認し、具体的な指導過程をデザインする。（担当：勝見健史）

第10回：授業デザイン作成のワークショップ②：総合的な学習の時間の指導の基本方針を踏まえ、指導の意図や構想を適切に表現した学習指導案を作成する。（担当：勝見健史）

第11回：作成した授業デザインの分析と検討：作成した学習指導案の、①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・表現の探究のプロセスを確認する。（担当：勝見健史）

第12回：マイクロティーチング：作成した学習指導案を用いて模擬授業を行い、探究的な学習の指導のあり方について検討する。（担当：勝見健史）

第13回：実践事例を基にした評価方法の考察：総合的な学習の時間の評価のあり方を理解し、児童の学習状況と教育課程の評価について具体的な方法を検討する。（担当：林敦司）

第14回：「総合的な学習の時間」を支える体制整備：体制整備のための四つの視点に着目し、実践事例についてその効果を検討する。（担当：林敦司）

第15回：講義のまとめ：本講義で学んだ総合的な学習の時間の理論と指導法を振り返り、教育課程において果たす役割について再考する。（担当：林敦司、勝見健史）

定期試験

テキスト

- 『小学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編』文部科学省、東洋館出版
- 『今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開』（小学校編）文部科学省、

参考書・参考資料等

- 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（小学校総合的な学習の時間）国立教育政策研究所、東洋館出版

学生に対する評価

小テスト（10%）、レポート（50%）、発表・実技（40%）

授業科目名： 特別活動論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 林 敦司 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別活動の指導法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校教育にみる特別活動の特質と教育的意義：小学校学習指導要領（平成29年告示）解説「特別活動編」をもとに、特別活動の基本的な性格と意義、目標及び内容を説明できる。</p> <p>教育課程における特別活動の位置づけ：特別活動の指導計画（全体計画、年間指導計画）について、活動の評価を含めて立案できる。</p> <p>特別活動の内容と指導方法：特別活動の指導のあり方を理解し、具体的な授業を構想できる。</p> <p>指導と評価の一体化：特別活動における評価の意義を理解し、評価規準作成の手順に従って適切な評価規準と評価方法を設定できる。</p> <p>特別活動の充実：特別活動に期待される役割について、考えをまとめて発表できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>小学校学習指導要領における特別活動の目標や内容、教育課程上の位置づけと実践上の課題を踏まえ、これからの特別活動のあり方を探究する。また、特別活動で育てる資質・能力の重要な三つの視点「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」をもとに、教育課程全体において特別活動が果たすべき役割を考察し、目標を達成するための指導方法や企画力を、講義やグループワーク等を通して高める。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、アンケート調査：講義の内容と学習方法を確認するとともに、自分のキャリアパスポートや卒業文集を用いながら具体的な学習イメージをもつ。</p> <p>第2回：特別活動の変遷と教育課程の中の位置づけ：学習指導要領改訂のポイントを明らかにし、特別活動の基本的な性格と教育活動全体における意義について考察する。</p> <p>第3回：特別活動の目標と内容：特別活動の目標と内容、育成する資質・能力の視点を理解し、指導計画の作成と内容の取扱いについて考察する。</p> <p>第4回：特別活動とキャリア教育：特別活動が学校教育全体を通して行うキャリア教育の要となることを理解して、その具体的な取組を考える。</p> <p>第5回：特別活動と道徳教育、特別活動と生徒指導：特別活動で行われる集団活動や体験的な活動が、日常生活における道徳的実践に結びつくことや、道徳科と関連させることによって、自己の生き方についての考えを深めることを理解する。特別活動の充実によって、生徒指導上の問題やいじめの未然防止</p>			

につながったり、自己指導能力を高めたりすることを理解する。

第6回：特別活動の授業：模範となる授業動画の視聴を通じて学級活動の具体的なイメージをもち、学級活動(1)(2)(3)の学習過程について考察する。

第7回：学級活動(1)の授業づくり：具体的な事例をもとに、学級活動(1)の特質を踏まえた授業づくりの方法と手順を確認し、指導案を作成してグループで検討する。

第8回：学級活動(2)の授業づくり：具体的な事例をもとに、学級活動(2)の特質を踏まえた授業づくりの方法と手順を確認し、指導案を作成してグループで検討する。

第9回：学級活動(3)の授業づくり：具体的な事例をもとに、学級活動(3)の特質を踏まえた授業づくりの方法と手順を確認し、指導案を作成してグループで検討する。

第10回：児童会活動のデザイン、クラブ活動のデザイン：児童会活動及びクラブ活動の目標と内容を理解し、異年齢の児童による自発的、自治的な活動を通してつくる楽しく豊かな学校生活について、代表委員会の充実や委員会活動の活性化のための工夫、クラブ設置のポイントや運営をスムーズに進めるための方法についてグループで検討する。

第11回：学校行事のデザイン：学校行事の目標と内容を理解し、各教科等の学びや地域の特色、異年齢による交流活動などの要素を取り入れた年間指導計画を作成してグループで検討する。

第12回：特別活動における評価：特別活動の学習評価の基本的な考え方を理解し、具体的な事例を参考に、評価の計画から総括までを考察する。

第13回：特別活動の充実につながる教室環境づくり：モデルとなる教室掲示を参考にしながら、そこから見いだされる教室環境づくりの工夫を探る。

第14回：家庭・地域・関係機関と連携した特別活動：家庭や地域の人々との連携、社会教育施設等を活用することの意義や留意事項について理解する。

第15回：講義のまとめ：「社会に開かれた教育課程」や「汎用的な力の育成」をキーワードに、特別活動に期待される役割についてまとめる。

テキスト

- 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編』文部科学省、東洋館出版
- 特別活動 指導資料『みんなで、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動』（小学校編）文部科学省/国立教育政策研究所 教育課程研究センター、文溪堂

参考書・参考資料等

- 『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料』（小学校特別活動）国立教育政策研究所、東洋館出版

学生に対する評価

小テスト（10%）、レポート（50%）、発表・実技（40%）

授業科目名： 生徒指導・進路・キ ャリア教育の理論及 び方法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 新井 肇 担当形態： 単独
科 目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>学校教育における生徒指導・進路指導・キャリア教育の位置づけの理解：生徒指導・進路指導・キャリア教育の概念を明確に理解し、学校の全教育活動に通底する基本的な機能であることを理解する。</p> <p>児童生徒理解に基づく生徒指導実践の理論と方法：児童生徒の問題行動や内的葛藤に対する理解を深め、生徒指導の多様な方法を身につけ、方向性を持って様々な問題行動に対応できる実践的指導力の基盤の形成を図る。</p> <p>進路指導・キャリア教育の理論と方法：進路に関する課題について理解し、進路指導・キャリア教育の基礎的な知識と指導方法の習得をめざす。</p> <p>学校内外の連携の基づく組織的生徒指導の進め方：学校における危機対応能力や学校内外の連携を進めるコーディネート能力につながる基礎的な力量を形成することを目標とする。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>生徒指導・進路指導の諸課題を総合的に理解するとともに、実践において求められる理論と技法の習得をめざす。いじめ・不登校・暴力行為・非行などの従来型の問題行動に加え、児童虐待・ネット犯罪・自殺等の深刻な児童生徒の問題行動の情勢を捉え、その原因・背景を理解するとともに、生徒指導実践において必要とされる方法（ガイダンス・カウンセリング・ファシリテーションなど）に関する理論と技法について学習する。また、進路指導・キャリア教育の目的・内容・方法についての基礎的理解を図るとともに、青少年の職業観・勤労観の形成、進路選択・職業選択等に関する課題をとりあげ、対応の具体的方向性について学習する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：生徒指導と進路指導の教育的意義と目標：生徒指導と進路指導の意義・目的・内容について概観し、生徒指導と進路指導の教育的意義と目標等について学ぶ。</p> <p>第2回：生徒指導・進路指導・キャリア教育の定義・歴史・理論：日本の学校における生徒指導・進路指導の歴史を振り返り、生徒指導・進路指導・キャリア教育の定義、基盤となる理論について学ぶ。</p> <p>第3回：教育課程の諸領域と生徒指導・進路指導の位置づけ：生徒指導・進路指導が学校の全教育活動に通底する基本的機能であることを理解し、各教科、特別活動、道徳等との関係性について理解する。</p> <p>第4回：生徒指導における児童生徒理解の理論と実際：生徒指導における児童生徒理解の意味と理解の</p>			

ための理論、及び実際の教育活動において求められる技法について学ぶ。

第5回：非行問題の理解と対応：暴力行為、インターネットや性に関する課題など、広く非行問題を理解するとともに、基本的な生活習慣の確立、安全教育の重要性について理解する。

第6回：不登校の理解と対応：不登校・ひきこもり・高校中退について心理学・社会学の理論による検討を行い、非社会的問題行動への対応について学ぶ。

第7回：いじめ問題の理解と対応：いじめを心理学、社会学の視点から理解し、「いじめ防止対策推進法」制定以後の対応の方向性と課題について学ぶ。

第8回：児童生徒の自殺予防対策の理解と方法：自殺の現状と背景、リスクの高い児童生徒への関わり方、学校危機への対応について学ぶとともに、自殺予防教育の方向性と課題を理解する。

第9回：生徒指導に関する主要法令の理解と人権教育：校則、懲戒、体罰等に関する主要法令について理解し、児童生徒の人権保障の視点から生徒指導の方向性について検討する。

第10回：生徒指導の校内体制の組織化と関係機関との連携・協働：組織的生徒指導の重要性と、児童虐待や家庭の貧困等、学校だけでは解決困難な問題に関する専門機関との連携の必要性を理解する。

第11回：進路指導とキャリア教育の意義と内容：職業観・勤労観の育成、自己理解の促進、将来を見通した生き方・あり方など、多様な課題をもつキャリア教育の意義について学ぶ。

第12回：進路指導・キャリア教育の理論的背景：キャリア教育に関する国内外の諸理論を概観する。特に、最近の理論的動向（シャイン、クランボルツ、等）について学ぶ。

第13回：進路指導における児童生徒理解の方法：キャリアカウンセリングの理論と実際について、ロールプレイなどをまじえて体験的に学ぶ。

第14回：キャリア教育の先進的実践事例の検討：日本のキャリア教育の代表的な実践事例を紹介し、今後の取り組みの方向性と課題について学ぶ。

第15回：学校における生徒指導・進路指導の今後の課題：生徒指導、及び進路指導のこれからの課題について、各自の見解を発表し、全体で討議するとともに、講義全体の振り返りを行う。

定期試験

テキスト

文部科学省（編）『生徒指導提要』（教育図書、2011）。なお、講義時に適宜プリント資料を配付する。

参考書・参考資料等

日本生徒指導学会編『現代生徒指導論』（学事出版、2015）

学生に対する評価

試験（40%）、レポート（30%）、授業内課題（30%）

シラバス：教職実践演習

シラバス：教職実践演習(小学校)	単位数：2単位	担当教員名：林 敦司			
科目	教育実践に関する科目				
履修時期	4年次後期	履修履歴の把握(※1)	○	学校現場の意見聴取(※2)	○
受講者数	25人(4クラスで実施)				
教員の連携・協力体制 学科教員、小学校教諭の教科及び教科の指導法に関する科目を担当する教員並びに教職科目を担当する教員が、相互に担当内容を理解し、適宜学生の学習状況についての情報交換、確認、指導方針の検討を行う。また、教育委員会や小学校等から担当者を招き、学校現場の現状と課題、教職を目指す学生に期待することなどを話してもらいなど、外部講師や教育機関の協力を得ながら実効性のある授業を進めていく。					
授業のテーマ及び到達目標 1 「求められる教師像」について多面的・多角的に考えることができる。 ○子供に好かれる教師・・・深い教育愛と情熱 ○保護者に信頼される教師・・・明るく、温かい人柄と確かな指導力 ○地域に愛される教師・・・地域貢献と地域人材の活用 ○教育行政や関係機関に頼りにされる教師・・・自己研鑽と教育貢献 2 教師として必要な資質・能力について考察することができる。 (1) 基本的な素養と行動スタイル (2) 学習指導 (ICT活用指導力) (3) 児童理解、生徒指導、教育相談 (4) 保護者とのコミュニケーション (5) 地域や関係機関とのネットワーク 3 今日的な教育課題について分析と考察を行い、これまでの学修を踏まえながら諸問題を解決する具体的な手立てを検討できる。 (1) いじめ、不登校、ゲーム依存などの問題にどう対処するか (2) 理不尽な要求をする保護者への対応をどうするか (3) ヤングケアラー、児童虐待に対して関係機関とどう連携するか (4) 障害のある子供への理解をどう図るか (5) ICTを活用して学習効果をどう高めるか (6) 働き方改革とメンタルヘルスをどう推進するか					
授業の概要 認定課程の総仕上げとして位置づけられる本授業では、教職に関する科目横断的な資質・能力を習得するために、現在の学校が抱えている教育課題の分析と考察を行う。その際、各種事例を提示し、ディスカッション、グループワーク、プレゼン発表、ロールプレイングなど演習を中心とした授業を行うことで実践的な指導力を身に付ける。また、これまで学修したことを踏まえ、教員として必要な人間的魅力や実践的指導力を確認するとともに、教員になる上での自らの持ち味や課題を明確にし、子供の教育に携わることへの思いを強くする。					

授業計画

第1回：教職実践演習の説明：教職に関する基礎知識の確認と、実践演習で身に付ける内容や方法について理解する。

第2回：教育課題と教師の役割：学校が抱える課題と教育専門職としての教師の使命や意義、役割と責任についてディスカッションする。

第3回：学級経営と児童対応：教育実習の経験を生かしながら、ロールプレイングや事例研究を行い、子供への対応やコミュニケーションの方法を理解する。

第4回：児童を取り巻く環境：いじめ、不登校、ゲーム依存、ヤングケアラーなど、子供を取り巻く今日的課題を取り上げ、グループワークを行いながら対応を検討する。

第5回：保護者との関わり：事例をもとに想定したクレームを用いてロールプレイングを行い、理不尽な要求をする保護者にどう対処するか考える。

第6回：特別な配慮を必要とする子供への支援：インクルーシブ教育の観点から事例の検討を行い、その子供に必要な合理的配慮や支援の方法、他教員との協力体制について話し合う。

第7回：関係機関との連携：具体的な事例をもとに、保・幼・中、児童相談所、SW、SSW、医療などの関係機関との連携方法を考える。

第8回：学級担任の業務①：事前に作成した学級経営案や学級通信を提示しながらプレゼン発表を行い、優れた点や改善点を明らかにするとともに、学級担任の心構えや学級経営の原則について理解を深める。

第9回：学級担任の業務②：朝の会や帰りの会の運営、給食指導、掃除指導を実演し、子供への声かけや指導のポイントを確認する。

第10回：模擬授業の検討：グループで学習指導案を検討する。発問や板書等を計画するポイントを確認し、学習指導案の細案を作成する。

第11回：模擬授業と授業研究1：模擬授業を実施し、学習指導の基本的事項（指導過程、発問、話し合い、ノート指導）を中心に授業研究を行う。

第12回：模擬授業と授業研究2：模擬授業を実施し、学習指導の基本的事項（話し方、表情、板書、評価）を中心に授業研究を行う。

第13回：模擬授業と授業研究3：模擬授業を実施し、学習指導の基本的事項（ICT機器の活用）を中心に授業研究を行う。

第14回：教師という仕事：現職教員の声やアンケートをもとに、教師という仕事でしか得られない「喜び」や「やりがい」についてディスカッションし、理解を深める。

第15回：教師のキャリアプラン：教師としての自己課題や人生設計についてまとめる。

テキスト

資料は授業において配布する。

参考書・参考資料等

必要文献、参考図書については、授業において推奨する。

学生に対する評価

レポート20%、発表・実技60%、授業内課題20%

- ※1 履修カルテを作成し、これを踏まえた指導を行う体制が備えられていることを確認し、「○」と記載すること。
- ※2 授業計画の立案にあたって教育委員会や学校現場の意見を聞いた場合には「○」と記載すること。そうでない場合は空欄とせず、「×」とすること。

授業科目名： 特別支援教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋本 正巳・杉田 律子・平 田 真二・藤野 正和 担当形態：オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育の基礎理論に関する科目		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の障害の特性及び心身の発達を理解する。 特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する教育課程や支援の方法を理解する。 障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応を理解する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：特別支援を必要とする子どもの理解①特別支援教育の理念：インクルーシブ教育システムを含めた特別支援教育に関する理念や仕組み、ICF,合理的配慮（担当：杉田）</p> <p>第2回：特別支援を必要とする子どもの理解②特別支援教育の制度：特別支援教育の歴史的変遷と特別支援教育の制度、通級指導、自立活動（担当：杉田）</p> <p>第3回：視覚障害・聴覚障害の理解：視覚障害と聴覚障害のある子どもの心身の発達、心理的特性及び学習の過程（担当：杉田）</p> <p>第4回：視覚・聴覚障害教育の教育課程および支援の方法：視覚障害・聴覚障害のある子どもの教育課程や支援の方法を理解する。（担当：杉田）</p> <p>第5回：知的障害、肢体不自由、病弱の理解：知的障害児、肢体不自由児、病弱児の心身の発達、心理的特性及び学習の過程（担当：橋本）</p> <p>第6回：知的障害児の教育課程および支援の方法：知的障害児の教育課程や支援の方法（担当：平田）</p> <p>第7回：肢体不自由児の教育課程および支援の方法：肢体不自由児の教育課程や支援の方法（担当：橋本）</p> <p>第8回：病弱児の教育課程および支援の方法：病弱児の教育課程や支援の方法（担当：平田）</p> <p>第9回：発達障害の理解：発達障害児の心身の発達、心理的特性及び学習の過程（担当：藤野）</p> <p>第10回：発達障害児教育の教育課程および支援の方法：発達障害児の教育課程や支援の方法（担当：平田）</p>			

第11回：特別支援の教育課程と個別支援計画：特別支援教育に関する教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画を作成する意義と方法の理解（担当：橋本）

第12回：特別支援の教育課程および支援の方法：特別支援教育コーディネーター、関係機関・家庭と連携しながら支援体制を構築することの必要性（担当：藤野）

第13回：家庭支援と教育相談：保護者に対する支援と教育相談、心理的アプローチ（担当：藤野）

第14回：特別の教育的ニーズのある子どもの把握と支援①：障害はないが特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難とその対応（担当：藤野）

第15回：特別の教育的ニーズのある子どもの把握と支援②／まとめ：母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難や組織的な対応（担当：杉田）

定期試験

テキスト

文部科学省、2018、特別支援学校教育要領・学習指導要領

文部科学省、2018、特別支援学校教育要領・学習指導要領解説[本/雑誌] 総則編（幼稚部・小学部・中学部）。

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編（幼稚部・小学部・中学部）

国立特別支援教育総合研究所、2020、特別支援教育の基礎・基本2020、ジアース教育新社

橋本正巳、2012、気になる子どもの支援ハンドブック～マルチアレンジングサポートのすすめ～、全国心身障害児福祉財団

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する

学生に対する評価

試験（70%）、授業内課題（30%）

授業科目名：知的障害児の心理・生理・病理	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤野 正和、足立 昌夫 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：知）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>知的障害に関する基本的な定義・概念を説明できる</p> <p>知的障害に関連する疾患および要因（成因）について説明できる</p> <p>知的障害に関連する心理的な特性について説明できる</p>			
<p>授業の概要</p> <p>本授業では、知的障害に関する基本的な定義・概念を理解するとともに、その障害における心理的・生理的・病的な基本的知識に関する理解を深めることを目的とする。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション：本講義の概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認する（担当：藤野）</p> <p>第2回：知的障害児の定義とICFとの関連：知的障害児の定義とICFとの関連について理解を深める（担当：藤野）</p> <p>第3回：脳の基本的な構造と機能：脳の基本的な構造と機能（知的能力に関連する領域）について理解を深める（担当：足立）</p> <p>第4回：知的障害の生理・病理（遺伝的要因および先天的な成因）：知的障害の遺伝的要因（メンデル遺伝病、常染色体遺伝病など）について理解を深める（担当：足立）</p> <p>第5回：知的障害の生理・病理（先天的な成因）：知的障害の先天的な成因（代謝異常症、ダウン症候群、内分泌疾患など）について理解を深める（担当：足立）</p> <p>第6回：知的障害の生理・病理（周産期の成因）：知的障害の周産期の成因（脳性麻痺、重症黄疸、分娩仮死状態など）について理解を深める（担当：足立）</p> <p>第7回：知的障害の生理・病理（乳幼児期の成因）：知的障害の乳幼児期の成因（代謝異常症、ダウン症候群、内分泌疾患など）について理解を深める（担当：足立）</p> <p>第8回：知的障害の生理・病理（乳幼児期の成因）：知的障害の乳幼児期の成因（自閉スペクトラム症、LD、ADHDなど）について理解を深める（担当：足立）</p> <p>第9回：知的障害の生理・病理と治療：知的障害児の医療・福祉における治療や支援について理解を深める（担当：藤野）</p> <p>第10回：知的障害児の心理的特性①：知的障害児の知覚・学習・言語・概念について理解を深める（</p>			

担当：藤野)

第11回：知的障害児の心理的特性②：知的障害児の記憶・注意・動機づけ・問題解決について理解を深める（担当：藤野）

第12回：知的障害児の心理的特性③：知的障害児のコミュニケーション・対人関係について理解を深める（担当：藤野）

第13回：知的障害児の心理的特性④：知的障害児の実用的な適応機能について理解を深める（担当：藤野）

第14回：知的障害と心理・教育的な支援：知的障害児の実態把握から心理・教育的な支援について理解を深める（担当：藤野）

第15回：授業の総括：授業全体の総括を行い、試験に向けた内容の整理を行う（担当：藤野）

定期試験

テキスト

随時配布資料を使用する

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する

学生に対する評価

試験（70%）、レポート（30%）

授業科目名： 肢体不自由児の心理 ・生理・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤野 正和、足立 昌夫 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：肢）（含む領域：知、病）		
授業のテーマ及び到達目標 肢体不自由に関する基本的な定義・概念を説明できる 肢体不自由に関連する疾患および要因（成因）について説明できる 肢体不自由に関連する心理的な特性について説明できる			
授業の概要 本授業では、肢体不自由に関する基本的な定義・概念を理解するとともに、その障害における心理的・生理的・病理的な基本的知識に関する理解を深めることを目的とする。			
授業計画 第1回：オリエンテーション：本講義の概要と目標を理解し、毎回の学習内容と学習方法を確認する（担当：藤野） 第2回：肢体不自由の定義とICFとの関連：肢体不自由児の定義とICFとの関連について理解を深める（担当：藤野） 第3回：脳の基本的な構造と機能：脳の基本的な構造と機能（運動・感覚に関連する領域）について理解を深める（担当：足立） 第4回：知的障害の生理・病理（脊椎・脊髄疾患など）：知的障害の生理・病理（脊椎・脊髄疾患など）について理解を深める（担当：足立） 第5回：知的障害の生理・病理（骨関節疾患など）：知的障害の生理・病理（骨関節疾患など）について理解を深める（担当：足立） 第6回：知的障害の生理・病理（筋原性疾患など）：知的障害の生理・病理（筋原性疾患など）について理解を深める（担当：足立） 第7回：肢体不自由とてんかん発作：肢体不自由とてんかん発作の関連性について理解を深める（担当：足立） 第8回：重度重複障害と医療的ケア：重度重複障害児における医療的ケアの重要性について理解を深める（担当：藤野） 第9回：姿勢・運動発達：姿勢・運動発達について理解を深める（担当：藤野） 第10回：肢体不自由児の発達と発達検査：肢体不自由児の発達と発達検査について理解を深める（担当：藤野）			

第11回：肢体不自由児の運動・動作の特性：肢体不自由児の運動・動作の特性について理解を深める
(担当：藤野)

第12回：肢体不自由児の知覚・知能の特性：肢体不自由児の知覚・知能の特性について理解を深める
(担当：藤野)

第13回：肢体不自由児の社会性・コミュニケーションの特性：肢体不自由児の社会性・コミュニケーションの特性について理解を深める (担当：藤野)

第14回：肢体不自由児への心理的支援・配慮：肢体不自由児への心理的支援・配慮について理解を深める (担当：藤野)

第15回：授業の総括：授業全体の総括を行い、試験に向けた内容の整理を行う (担当：藤野)

定期試験

テキスト

随時配布資料を使用する

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する

学生に対する評価

試験 (70%)、レポート (30%)

授業科目名： 病弱児の心理・生理 ・病理	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤野 正和、高野 美由紀 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目（中心領域：病）（含む領域：知、肢）		
授業のテーマ及び到達目標 病弱・身体虚弱に関する基本的な定義・概念を説明できる 病弱・身体虚弱に関連する疾患について説明できる 病弱・身体虚弱に関連する心理的な特性について説明できる			
授業の概要 本授業では、病弱・身体虚弱に関する基本的な定義・概念を理解するとともに、その障害における心理的・生理的・病理的な基本的知識に関する理解を深めることを目的とする。			
授業計画 第1回：病弱・身体虚弱の概念：病弱の意味、身体虚弱の意味を概観し、近年の患者のQOLを重視する医療の流れに伴う病気に対する理解の変化について理解を深める（担当：藤野） 第2回：病気等に応じた配慮事項①白血病等小児がん：白血病、脳腫瘍、神経芽細胞種などの病態や治療法について理解し、小児がんの子どもが求める支援、学校の役割等について考える（担当：高野） 第3回：病気等に応じた配慮事項②筋ジストロフィー：筋肉の生理、筋ジストロフィーの病態や治療法について理解し、筋ジストロフィーの子どもが求める支援、学校の役割等について考える（担当：高野） 第4回：病気等に応じた配慮事項③アレルギー疾患：気管支喘息等アレルギー疾患の病態や治療法について理解し、アレルギー疾患の子どもが求める支援、学校の役割等について考える（担当：高野） 第5回：病気等に応じた配慮事項④心臓疾患、糖尿病他：子どもに多い心臓疾患や腎疾患、糖尿病等について病態やその治療法を理解し、治療中の子どもを支えるための学校の役割について考える（担当：高野） 第6回：病気等に応じた配慮事項⑤てんかん、医療的ケア：てんかんの病態やその治療法、医療的ケアについて理解し、緊急時の対応について考える（担当：高野） 第7回：病気等に応じた配慮事項⑥うつ病等精神疾患、心身症：うつ病等の精神疾患や心身症の病態やその治療法について理解し、発達障害との並存例を中心に支援の在り方を考える（担当：高野） 第8回：健康障害が知的発達に及ぼす影響：健康障害の有する児童生徒には、様々な未学習、学習内容の未定着が起りうることを理解し、その発見と基本的な対応について理解を深める（担当：高野） 第9回：健康障害における認知スタイル①：自己効力感について説明し、病気治療過程にある子どもに			

とっての重要性について理解を深める（担当：藤野）

第10回：健康障害における認知スタイル②：自己コントロールについて説明し、病気治療過程にある子どもにとっての重要性について理解を深める（担当：藤野）

第11回：健康障害における認知スタイル③：レジリエンス・バルネラビリティについて説明し、病気治療過程にある子どもにとっての重要性について理解を深める（担当：藤野）

第12回：健康障害における認知スタイル④ 学習性無力感について説明し、病気治療過程にある子どもにとっての重要性について理解する（担当：藤野）

第13回：ヘルス・エンパワーメント：ヘルス・エンパワーメントについて説明し、病気治療過程にある子ども・家族にとっての重要性について理解を深める（担当：藤野）

第14回：病弱・身体虚弱と心理・教育的な支援：病弱・身体虚弱児の実態把握から心理・教育的な支援について理解を深める（担当：藤野）

第15回：授業の総括：授業全体の総括を行い、試験に向けた内容の整理を行う（担当：藤野）

定期試験

テキスト

随時配布資料を使用する

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する

学生に対する評価

試験（70%）、レポート（30%）

授業科目名： 知的障害児の教育課程と指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平田 真二 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：知）（含む領域：肢、病）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>知的障害教育における専門的知識：知的障害児の指導実践における理論や方法論を理解し、説明することができる。</p> <p>知的障害教育における実践的指導力：特別支援学校（知的障害）や特別支援学級で求められる指導法について学び、実践力を身につける。</p> <p>教材研究、指導計画作成、授業の進め方のポイントについて学び、授業実践力を身につける。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>知的特別支援学校や知的特別支援学級の教育課程を理解し、教科別の指導、各教科を合わせた指導、自立活動等の教材研究、指導案作成、授業の進め方のポイントについて学ぶ。授業では、グループワークを中心とした演習形式を通して、実際に教材作成や模擬授業を考えることで、学校現場での指導に役立つ力を培う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、教育課程と指導の特徴：本講義の目標と概要を理解し、学習内容と学習方法を確認する。知的障害教育における教育課程と指導の特徴の基本について確認する。</p> <p>第2回：自立活動の指導の実際：事例を通して、実態把握と課題設定の方法を理解し、具体的な指導内容を考える。</p> <p>第3回：日常生活の指導の実際：日常生活の指導の内容について理解し、事例を通して、具体的な指導内容を考える。</p> <p>第4回：遊びの指導の実際：遊びの指導の形態等について理解し、実際に題材を設定し指導計画を考える。</p> <p>第5回：生活単元学習の実際：指導事例を通して、指導計画の立て方のポイントや指導上の留意点について理解する。</p> <p>第6回：作業学習の実際：指導事例を通して、指導計画の立て方のポイントや指導上の留意点について理解する。</p> <p>第7回：学習指導要領における各教科の目標・内容について：学習指導要領に示されている、各教科の目標・内容について、3観点で理解する。</p> <p>第8回：各教科の指導の実際（国語）：知的障害児の特性を踏まえた国語科の指導上の留意点について</p>			

理解し、事例を通して、有効な教材や指導内容を考える。

第9回：各教科の指導の実際（算数）：知的障害児の特性を踏まえた算数科の指導上の留意点について理解し、事例を通して、有効な教材や指導内容を考える。

第10回：個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成及び活用：個別の教育支援計画ならびに個別の指導計画の作成方法と、その活用と実際について理解する。

第11回：指導案作成の要点と工夫の実際：学習指導案の作成についてのポイントと工夫について理解する。

第12回：授業実践研究1：事例理解と題材設定：事例について課題を把握し、課題に応じた題材について、グループで検討する。

第13回：授業実践研究2：指導計画作成：グループごとに指導方法・内容を決め、指導計画を作成する。

第14回：授業実践研究3：模擬授業発表：グループごとに模擬授業を発表し合い、効果的な指導の在り方について考える。

第15回：学習のまとめ：これまで学習してきたことを再度整理し、知的障害児への指導法について全体的に理解を深め、定着を図る。

定期試験

テキスト

『はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導』 杉野学・上田征三編著 大学図書出版

参考書・参考資料等

「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」文部科学省 海文堂出版

学生に対する評価

試験（70%）、レポート（20%）、授業内課題（10%）

授業科目名： 肢体不自由児の教育 課程と指導法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋本 正巳・平田 真二 担当形態： オムニバス
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目（中心領域：肢）		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>肢体不自由教育における専門的知識：肢体不自由児の指導実践における理論や方法論を理解し、説明することができる。</p> <p>肢体不自由教育における実践的指導力：事例を通して具体的な指導と支援の実際を説明し、個別の指導計画が作成できる。</p> <p>自立活動の相互関連性とP D C Aサイクルを踏まえた根拠のある指導・支援ができるような実践的な力量を体得する。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>肢体不自由児の指導について、教育課程を理解し、自立活動の指導を中心に、①トップダウン、ボトムアップの観点、②自立活動の相互関連性、③自立活動の指導における配慮事項を踏まえ、個別の指導計画、個別の支援計画の作成を通して、P D C Aサイクルの実践体系として学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：肢体不自由児に応じた教育課程の編成：肢体不自由教育の教育課程の編成の基本的考え方と教育課程の編成について理解する。（担当：橋本）</p> <p>第2回：自立活動の指導：自立の定義、自立活動の6つの内容の相互関連的理解、「時間の指導」「教育活動全体における指導」について理解する。（担当：橋本）</p> <p>第3回：肢体不自由児の指導1：運動・動作：肢体不自由児の運動・動作機能を中心とした基本的指導技法について理解し、その実際について考える。（担当：橋本）</p> <p>第4回：肢体不自由児の指導2：感覚・知覚・認知：肢体不自由児の感覚・知覚・認知機能を中心とした指導理論について理解し、その実際について考える。（担当：平田）</p> <p>第5回：肢体不自由児の指導3：認知・コミュニケーション：肢体不自由児の認知・コミュニケーション機能と指導理論について理解し、その実際について考える。（担当：橋本）</p> <p>第6回：肢体不自由児の指導4：言語：肢体不自由児の言語機能と言語指導の理論について理解し、その実際について考える。（担当：平田）</p> <p>第7回：肢体不自由児の指導5：食事：肢体不自由児の摂食指導の理論について理解し、その実際について考える。（担当：橋本）</p>			

第8回：肢体不自由児の指導6：教科指導（学習）：肢体不自由児の教科指導における姿勢及び認知特性について理解し、その指導・支援について考える。（担当：橋本）

第9回：重度・重複障害児の指導と医療的ケア：重度・重複肢体不自由児における医療的ケアについて理解し、その実際について考える。（担当：平田）

第10回：個別の指導計画の作成(PDCA)：個別の指導計画の作成手順に沿って作成し、その活用と実際について理解する。（担当：橋本）

第11回：個別の教育支援計画と移行：個別の教育支援計画の作成し、その活用と実際について理解する。（担当：平田）

第12回：地域のセンター的機能の実際：肢体不自由特別支援学校の地域におけるセンター的役割の基幹を担う巡回相談を通じたコンサルテーションの実際について理解する。（担当：平田）

第13回：事例検討1：理解：実践例から指導方法、内容を理解する（担当：平田）

第14回：事例検討2：指導計画：事例提案し、指導方法・内容を決め指導計画を作成する。（担当：平田）

第15回：事例実践検討・まとめ：実践例から指導方法、内容を理解し、肢体不自由教育を総括する。（担当：橋本）

定期試験

テキスト

よくわかる肢体不自由教育：ミネルヴァ書房、

橋本 2012 気になる子どもの支援ハンドブック：全国心身障害児福祉財団、

橋本 2014 気になる子どもの支援ハンドブックⅡ：全国心身障害児福祉財団、

橋本 2016 障害の重い子どもへのかかわりハンドブック：全国心身障害児福祉財団

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

試験（90%）、レポート（10%）

授業科目名：病弱者の教育課程と指導法	教員の免許状取得のための選択科目	単位数： 2単位	担当教員名：西上優子
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：病) (含む領域：知、肢)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>病弱特別支援学校の教育を学び、一人一人の子どものニーズに応じた実践的な指導内容に基づく学習計画を立て、授業できることを目標とします。</p> <p>①病弱児者を対象とする学校や学級での授業や教材の工夫を学び、個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づく学習指導計画を作成し、模擬授業ができる。</p> <p>②病弱児者に対する合理的配慮のある学級づくりや授業を検討し、個別の教育支援計画に反映させ、復学支援について計画することができる。</p> <p>③個々の子どもについて、教育、医療、福祉、労働等関係機関の連携を図り、進学・就職等、社会自立をめざすために必要な支援を考えることができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別支援学校および小・中学校の特別支援学級（病弱・身体虚弱）の教育実践から、その現状を知り、病弱教育における教育課程、指導法、さらに児童生徒一人一人の実態に合わせた合理的配慮に基づく学習指導計画を作成し、教材づくりや指導の工夫を考え、模擬授業ができることを目標とする。</p> <p>地域の小・中学校等において合理的配慮のある学級づくりや授業内容の配慮等を学び、復学への支援について、学校間連携の在り方を考える機会とする。</p> <p>病弱特別支援学校の教員として、教育、医療、福祉、保健、労働等関係機関との連携を図り、進学・就職等、病気の子どもの社会自立に向けての総合支援を検討課題とする。</p> <p>地域の小学校・中学校で行われている病弱および身体虚弱の児童・生徒の理解啓発活動の内容を理解し体験する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、「病弱教育」について</p> <p>シラバス全体の確認、特に授業の目標および評価、授業参加等、留意事項の説明、病弱教育の基礎知識について確認する。</p> <p>第2回：病弱教育の現状を知る</p> <p>病気の子どもの具体的な教育支援と配慮事項、不登校の子どもの現状と病弱教育との関連と実態を知</p>			

る。

第3回：病弱教育と学習保障について

病弱教育における柔軟な学びの場における学習保障、病弱教育における合理的配慮と遠隔授業、ICTの活用：アバターロボット「オリヒメ」等の活用の効果

第4回：病弱教育と合理的配慮について

病弱教育特有の合理的配慮および学習環境に応じた学習指導の工夫、授業内容の振り返り、小レポート（60分程度）配布資料による授業の予習（60分程度）

第5回：病弱教育と教育課程①について

一人一人のニーズに応じた小・中学校の病弱・身体虚弱特別支援学級の教育

第6回：病弱教育と教育課程②について

病気のある子どもの教育活動と病種による指導上の配慮事項、学校生活管理指導表の活用と各種医療器具の使用方法を知る

第7回：関係諸機関との連携について

特別支援学校（病弱）の学校組織と地域に果たす役割、地域のセンター的機能および医療との連携

第8回：関係諸機関との連携について

特別支援学校（病弱）の学校組織と地域に果たす役割、地域のセンター的機能および医療との連携

第9回：病気の子どもの理解と復学支援②について

復学支援・進学支援等、病弱特別支援学校が果たす役割および心理面や病状に応じた教科指導の工夫

第10回：病気の子どもの理解と復学支援③について

慢性疾患の児童生徒を対象とした、個別の教育支援計画と個別の指導計画の関連（小児がん、アレルギー疾患、糖尿病（I型糖尿病）、てんかん、精神性疾患、筋ジストロフィー等）

第11回：病気の子どもの理解と復学支援③について

慢性疾患の児童生徒を対象とした、個別の教育支援計画と個別の指導計画の関連（小児がん、アレルギー疾患、糖尿病（I型糖尿病）、てんかん、精神性疾患、筋ジストロフィー等）

第12回：病弱教育と自立活動について

自立活動領域の実際（自立活動の指導計画、実践事例演習）

第13回：病気の理解を深める教材について

自立活動：病気の理解と自己管理について

病気の理解と自己管理を図る学習の展開や教材の工夫を学び、理解啓発教材を共同制作する。

第14回：学習指導案と模擬授業の計画②について

グループワーク：個別の教育支援計画および個別の指導計画から模擬授業を考える。

第15回：病気の子どもへの教育的支援について、まとめ

病弱児教育におけるインクルーシブ教育と今後の課題について考える、病気と学びの環境の関連について（学校心理学の視点から）

定期試験

テキスト

標準「病弱児の教育」テキスト改訂版 日本育療学会編著 ジアース教育新社 2022, (ISBN978-4-86371-618-6)、配布資料

参考書・参考資料等

- ・「特別支援学校学習指導要領解説 総則編」(平成30年3月版)
- ・「特別支援学校学習指導要領解説 各教科編」(平成30年3月版)
- ・「特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編」(平成30年3月版)
- ・「教育支援資料」文部科学省(平成25年)
- ・「病気の子どもの理解のために」(病気の理解冊子) 国立特別支援教育総合研究所等

学生に対する評価

積極的な授業参加及び振り返りシートへの記載内容等(20%)、
課題作成およびレポート(30%)、
模擬授業等の発表課題、筆記試験(50%)

授業科目名： 知的障害教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 平田 真二 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標 ・知的障害教育における専門的知識：知的障害児の理解を基本に据え、知的障害教育と I C F の関係を理解して説明できる。 ・特別支援教育の観点から、知的障害教育の歴史、教育課程の基本的な考えと編成を説明できる。 ・知的障害児の特性を踏まえ、自立活動の指導、各教科等の指導の形態の工夫について説明できる。 ・個別の教育計画・個別の指導計画の意義と役割について説明できる。 ・知的障害児のライフステージを見据えたキャリア教育や進路指導の重要性について説明できる。			
授業の概要 知的障害児の障害特性について理解するとともに、知的特別支援学校（学級）における教育課程、指導方法・内容、個別の教育支援計画・個別の指導計画等についての概要を学び、理解を深める。			
授業計画 第1回：オリエンテーション、障害のとらえ方：本講義の目標と概要を理解し、学習内容と学習方法を確認する。 I C F をもとにした障害のとらえ方を理解する。 第2回：知的障害の定義と分類：知的障害の定義と、原因や障害の程度や障害の種類について理解する。 第3回：知的障害教育の歴史：日本における知的障害教育の歴史的経緯と児童生徒の変遷について理解する。 第4回：知的障害教育の教育課程：知的特別支援学校における教育課程の基本と、知的障害児の多様な教育の場について理解する。。			

第5回：知的障害教育における指導の特徴：知的障害児の学習上の特性と指導形態の特徴等について理解する。

第6回：自立活動の指導について：自立活動の基本的事項と、知的障害教育における自立活動の実際について理解する。

第7回：日常生活の指導・遊びの指導について：日常生活の指導と遊びの指導について、ねらいと指導の形態や特徴について理解する。

第8回：生活単元学習について：生活単元学習について、ねらいと指導の形態や特徴について理解する。

第9回：作業学習について：作業学習について、ねらいと指導の形態や特徴について理解する。

第10回：教科別の指導について：各教科の指導について、学習指導要領における目標と内容と、指導上の留意点について理解する。

第11回：キャリア教育について：知的障害教育におけるキャリア教育ならびに進路指導に関する基本的な内容を理解する。

第12回：個別の教育支援計画と個別の指導計画：個別の指導計画・個別の指導計画について、作成・活用に至る経緯や意義について理解する。

第13回：特別支援学級の学級経営と教育課程：特別支援学級の教育課程と指導の工夫の在り方について理解する。

第14回：知的障害教育の現状と課題：知的障害教育の現状と課題について把握し、今後の展望について理解する。

第15回：学習のまとめ：これまで学習してきたことを再度整理し、知的障害教育の全体像についての理解の定着を図る。

定期試験

テキスト

『はじめて学ぶ知的障害児の理解と指導』 杉野学・上田征三編著 大学図書出版

参考書・参考資料等

「特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領」文部科学省 海文堂

学生に対する評価

試験（70%）、レポート（20%）、授業内課題（10%）

授業科目名： 肢体不自由教育総論	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋本 正巳 担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心となる領域：肢体不自由者)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>肢体不自由教育における専門的知識：肢体不自由児の理解を基本に据え、肢体不自由教育とICFの関係を理解し説明できる。</p> <p>特別支援教育の観点から、肢体不自由教育の歴史、教育課程の基本的な考え方と編成を説明できる。</p> <p>肢体不自由児の特性を踏まえ、各教科等の指導の工夫、自立活動の指導を理解し、個別の指導計画・個別の教育支援計画を作成することができる。</p> <p>肢体不自由児の立場に立った進路指導と職業教育を説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>特別支援教育の観点から、肢体不自由とICFの関係を理解し、肢体不自由児の実態、教育課程、指導方法・内容、自立活動等を、全般的に理解する。また、肢体不自由特別支援学校の役割についても考える。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：肢体不自由の理解とICF：肢体不自由の定義(医学的側面、心理学的教育学的側面)とICFの相互作用について実例を通して理解する。</p> <p>第2回：特別支援教育と肢体不自由教育：特別支援教育の基本的な考えと肢体不自由教育の在り方について理解する。</p> <p>第3回：肢体不自由教育の歴史：肢体不自由教育の児童生徒の変遷を通じた歴史的経過について理解する。</p> <p>第4回：肢体不自由と脳性麻痺：脳性麻痺の状態像を通じた分類と随伴障害と行動特性について理解する。</p> <p>第5回：脳性麻痺児の心理的理解と特性：肢体不自由児の知覚の特徴や行動特性の把握と心理的理解について理解する。</p> <p>第6回：肢体不自由教育の教育課程：自肢体不自由教育の教育課程の編成の基本的考え方と教育課程の</p>			

編成について理解する。

第7回：各教科等の指導：肢体不自由特別支援学校の幼稚部、小・中学部、高等部の各指導の工夫について理解する。

第8回：自立活動の指導：自立活動の主な指導内容と指導時間、指導形態と評価について理解する。
自立活動の主な指導内容と指導時間、指導形態と評価

第9回：進路指導と職業教育：進路指導の意義、配慮事項、進路状況と職業教育について理解する。

第10回：医療的ケア：医療的ケアの概要と意義について理解する。

第11回：情報機器等の活用：肢体不自由児の教育を支援する情報機器等の活用と活用した指導の実際例について理解する。

第12回：個別の指導計画・個別の教育支援計画の作成：個別の指導計画の概要とPDCAによる作成方法について理解する。個別の教育支援計画の意義と作成例について理解する。

第13回：地域のセンター的機能：特別支援教育における肢体不自由特別支援学校の地域のセンター的役割について理解する。

第14回：肢体不自由教育の現状と課題：肢体不自由教育の現状の把握と課題認識そして展望について理解する。肢体不自由教育の現状の把握と課題認識そして展望の理解

第15回：事例紹介とまとめ：事例紹介から肢体不自由教育を総括する。

定期試験

テキスト

よくわかる肢体不自由教育：ミネルヴァ書房、

橋本 2012 気になる子どもの支援ハンドブック：全国心身障害児福祉財団、

橋本 2014 気になる子どもの支援ハンドブックⅡ：全国心身障害児福祉財団、

橋本 2016 障害の重い子どもへのかかわりハンドブック：全国心身障害児福祉財団

参考書・参考資料等

適宜紹介する。

学生に対する評価

試験（80％）、レポート（10％）、授業内課題（10％）

授業科目名：病弱教育総論	教員の免許状取得のための 選択科目	単位数： 2単位	担当教員名： 西上 優子
			担当形態： 単独
科 目	特別支援教育領域に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：病)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>教員として、さまざまな病気の子どもに対する正しい理解と適切な支援の仕方や配慮事項を考え、実行できる能力を高める。</p> <p>① 特別支援教育の対象とする障害の種類と病弱・身体虚弱教育の概念、主な疾患について説明できる。</p> <p>② 病弱教育の歴史や現状から、病気の子どもの教育課題について説明できる。</p> <p>③ 病弱教育の場や教育課程について説明し、さらに自立活動の具体的な取り組みについて述べるができる。</p> <p>④ 病気の子どもの復学支援・進学のための教育的支援を考えることができる。</p> <p>⑤ 病気の子どもや家族への対応や教育・医療・福祉等、関係機関の連携を考えることができる。</p> <p>⑥ 病気の子どもの心理と子どもを支える家族の心情の理解ができる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>病弱・身体虚弱の子どもの教育について、法令、教育制度、教育課程、教育の場、指導内容・方法等や子どもの病気についての基本的知識の習得をめざす。さらに復学への支援について、入院中、退院後に分けて病気の子どもや家族を支える支援体制を考え、教育、医療、福祉等、関係機関の連携と教育の役割を考える機会とする。</p> <p>病気の子どもにとっての「教育とは何か」を考え、教員として求められる能力を養うために、ロールプレイやグループワーク、パワーポイントを使用してプレゼンテーションを行う。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：オリエンテーション、病弱・身体虚弱と学習上・生活上の困難について</p> <p>授業を始めるにあたって、特別支援教育の範疇にある病弱教育について基礎的知識の確認をおこなう。病弱・身体虚弱とは、病弱・身体虚弱に伴う学習上・生活上の困難、学習上・生活上の困難への対応、学校生活管理指導表の活用について学ぶ。</p> <p>第2回：病弱教育の変遷について</p>			

病弱教育の歴史の変遷を知り、求められている教育的支援について理解する。明治から第二次世界大戦まで、第二次世界大戦後について病弱教育の各種課題について学ぶ。

第3回：病弱教育の制度について

病弱教育の対象となる個別性の高い病気の子どもの教育、病弱や身体虚弱者とは、法令等での病弱者・身体虚弱者と学びの場について知る。

第4回：学びの場と教育形態について

多様な病気の種類と連続性のある多様な学びの場、(小児がん、アレルギー疾患、糖尿病、てんかん、精神性疾患、筋ジストロフィー等)、ダイバーシティ・インクルージョン及びダイバーシティ教育と個に応じた指導の充実、連続性のある多様な学びの場、病気の子どもが学習する場所について学び、病弱教育の場と教育形態について知識を広げる。

第5回：病弱児の心理について

病弱児が抱える可能性のある心理社会的な困難、自分の病気を知ること、病弱児のきょうだいの問題について学び、理解を深める。

第6回：主な病気の概要と教育支援について

小児がん、アレルギー疾患、糖尿病（I型糖尿病）、てんかん、精神性疾患、筋ジストロフィー等の病弱児の理解と支援における基本的な心構え、医療器具（ピークフローメーター、パルスオキシメーター等、エピペントレーニング等）の使用方法、病気の特性に応じた教育支援について学び、多様な教育支援を検討する。

第7回：教育課程の編成について

教育課程の法的根拠、学習指導要領の基本、教育目標と教育課程の編成、授業時間時数、指導計画作成の配慮、合科的・関連的な指導と個別の指導計画、重複障害者等に関する教育課程の取扱い、特別支援学級における教育課程、個別の指導計画と個別の教育支援計画について学び、病弱児者への支援を考える。

第8回：各教科の指導について

指導計画の作成等、実際の指導例、体育の指導について学び、特に病種による配慮事項について理解を進める。

第9回：自立活動の指導について

自立活動について、病弱教育における自立活動、個別の指導計画の作成と指導・支援、主体的で意欲的に活動できる環境づくり、他領域・各教科等との関連について学び、病弱児特有の配慮と教育支援について理解を進める。

第10回：病弱教育における情報化について

病弱教育における情報化の意義・施策・実践、病気の高校生支援におけるICT活用、病弱教育における情報化の課題、アバターロボット「オリヒメ」の活用による復学支援について学び、現状の病弱教育への活用について検討する。

第11回：キャリア教育について

病弱児童・生徒について進学や進路、就労等、キャリア教育について学ぶ、特別支援教育におけるキャリア教育、病弱教育における進路指導とキャリア教育、病弱児の社会的自立のために必要な力、病弱教育におけるキャリア教育の実際、これからのキャリア教育について学び、病気の子どもへの支援について検討する。

第12回：病弱児と医療的ケアについて

医療的ケアとは、学校における医療的ケアとその実施者、医療的ケアの実態、医行為、医療的ケアの経過、医療的ケア児について学び、その必要性について理解を図る。

第13回：教育と医療・福祉等との連携

病弱児に関係する医療の現状、病弱児に関係する医療費制度、病弱児に関係する医療に関わる職種、病弱教育に関係する福祉制度、小児慢性特定疾病対策と学校教育について学び、関係機関の連携の必要性を理解する。

第14回：病弱児への復学支援の実際

復学支援が注目される背景、入院から退院までの学籍移動のプロセス、復学後の学校生活について、復学支援の成功の指標、復学支援に関する内容を学ぶ機会（子どもをつなぐICTの活用）を学ぶ。

第15回：病弱教育の今後の課題とターミナル期の教育保障、まとめ

病弱教育の今後の課題、ターミナル期の児童生徒への教育保障について学び、病気の子どもへの教育の必要性について考える。

定期試験

テキスト

標準「病弱児の教育」テキスト改訂版 日本育療学会編著 ジアース教育新社 2022, (ISBN978-4-86371-618-6)、配布資料

参考書・参考資料等

- ・特別支援学校学習指導要領解説、総則編（平成30年）
- ・特別支援学校学習指導要領各教科編（平成30年）
- ・特別支援学校学習指導要領自立活動編（平成30年）
- ・教育支援資料 文部科学省（平成25年）
- ・国立特別支援教育総合研究所等発行「病気の子どもの理解のために」（冊子）

※第1回目の授業のオリエンテーション時に紹介します。

学生に対する評価

授業への参加、意欲・態度、ふり返りシートの記載内容（30%）

提出課題（20%）

試験（50%）

授業科目名： 心理検査法	教員の免許状取得のための 必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 藤野正和・杉田律子 担当形態： 複数
科 目	特別支援教育に関する科目		
施行規則に定める 科目区分又は事項等	特別支援教育領域に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：知)		
授業のテーマ及び到達目標 集団における教育と個別支援の双方に子どもの発達理解の意義を理解する 知能検査を体験し、子ども理解の本質を考え、子どもの発達を多面的に捉える大切さに理解する 知能検査のプロフィールから、子どもの特徴を捉えて教育計画に生かすことができるようになる			
授業の概要 心理検査のうち特に障害児のアセスメントに用いられる発達検査や知能検査・投影法的検査の演習を通して、子どものアセスメントの意義を理解し、子どもの教育計画に活用する力を身につけることを目標とする。			
授業計画 第1回：子ども理解とアセスメントの意義：教育実践における子ども理解の意義とアセスメント（心理検査、面接、観察）の意義の理解 第2回：心理検査の概要と進め方：子どものアセスメントによく用いられる心理検査の概要と検査の進め方について 第3回：心理検査の妥当性と信頼性：心理検査の妥当性と信頼性について学び、検査を実施するにあたっての留意点を学ぶ 第4回：遠城寺式・乳幼児分析的発達検査の演習①：遠城寺式・乳幼児分析的発達検査の進め方 第5回：遠城寺式・乳幼児分析的発達検査の演習②：事例を通して、子どもの特性を理解する 第6回：田中ビネー式知能検査の演習①：田中ビネー式知能検査の進め方・演習 第7回：田中ビネー式知能検査の演習②：事例を通して、子どもの特性を理解する 第8回：WISCの演習①：WISCの進め方・演習 第9回：WISCの演習②：事例を通して、子どもの特性を理解する 第10回：K-ABCの演習①：K-ABCの進め方・演習			

第11回：K-ABCの演習②：事例を通して、子どもの特性を理解する

第12回：その他の心理検査①（投影描画法）：心理検査（投影描画法）の進め方・演習・解釈

第13回：その他の心理検査②（SCT・P-Fスタディ）：心理検査（SCT・P-Fスタディ）の進め方・演習・解釈

第14回：アセスメントから教育計画へ：子どものアセスメントから個別支援の方法について考える

第15回：アセスメントから教育計画へ：子どものアセスメントから個別支援の方法について考える

定期試験

テキスト

随時配布資料を使用する

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する

学生に対する評価

試験（50%）、レポート（20%）、授業内課題（30%）

授業科目名：視覚障害教育総論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名：正井 隆晶 担当形態：単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：視)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>視覚の生理、病理及び視覚障害者の心理の基礎的な事項を説明できる。</p> <p>視覚障害教育の教育課程や教材教具の工夫、自立活動の内容、盲と弱視の指導の違い等を説明できる。</p>			
<p>授業の概要</p> <p>この講義では、視覚の生理、病理及び視覚障害者の心理から解説し、病理では理解が深まるようにシミュレーションも取り入れて取り組む。また、視覚障害教育の教育内容や方法の講義では、視覚障害特別支援学校でのアセスメント方法、授業における教材教具の工夫、実技科目における指導の工夫、自立活動における指導内容と方法などについて、視覚障害特別支援学校での指導経験をもとに具体的に講義する。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：視覚障害者の歴史：日本における視覚障害者の歴史／視覚障害者への教育の歴史</p> <p>第2回：視覚障害教育の場：日本における視覚障害教育制度・教育課程等</p> <p>第3回：点字についての学び：点字の歴史／日本点字の読み</p> <p>第4回：点字の指導：視覚障害特別支援学校における点字の指導について</p> <p>第5回：眼の生理と視機能：眼の構造と視機能／視覚の発達</p> <p>第6回：視機能評価の基礎知識：視力検査／視野検査</p> <p>第7回：眼の病理と視覚障害：視覚障害の病理／弱視体験と注意点／シミュレーション／シミュレーションレポートの作成</p> <p>第8回：アセスメント：視覚障害とは／盲と弱視の定義／教育的視機能評価／点字・感覚能力検査</p> <p>第9回：弱視への指導（1）：弱視への教育的配慮の基本／教科での教材・教具の工夫</p> <p>第10回：弱視への指導（2）：自立活動の指導／弱視レンズ／拡大読書器／PC／ADL</p> <p>第11回：盲への指導（1）：盲への教育的配慮の基本／教科での教材・教具の工夫</p> <p>第12回：盲への指導（2）：自立活動の指導／墨字・漢字／触察／PC／ADL</p> <p>第13回：スポーツの指導・歩行指導：視覚障害者のスポーツ／パラリンピック／歩行指導／歩行補助具／盲導犬</p>			

第14回：重複障害への指導：盲聾重複障害と視覚・知的重複障害への指導の実際

第15回：職業課程とキャリア教育・センター的役割：職業課程の概要と中途視覚障害者／キャリア教育／センター的役割と教育相談

定期試験

テキスト

テキストは使用しない。各回ごとに資料を配付する。

参考書・参考資料等

「新・視覚障害教育入門」青柳まゆみ・鳥山由子 編著 ジアース教育新社

学生に対する評価

試験（40％）、小テスト（20％）、レポート（20％）、発表・実技（20％）

授業科目名：重複・発達障害教育総論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 橋本 正巳・杉田 律子・平田 真二・藤野 正和 担当形態： オムニバス
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：重複・LD等) (含む領域：視、聴、知、肢、病)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>重度・重複障害の概念を理解し、その心理・生理・病理を学ぶとともに、障害特性に合わせた、指導の理論と技法を理解することを目標とする</p> <p>発達障害の概要を学ぶとともに、障害特性に合わせた、指導の理論と技法を学ぶ</p>			
<p>授業の概要</p> <p>重複障害および発達障害の概念と重度・重複障害の実態、障害の診断・状態把握、障害特性について理解し、教育課程、個別の指導計画等について学ぶ。</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：重複障害と発達障害の概念の理解：重度・重複障害および発達障害の概念について理解する (担当：橋本)</p> <p>第2回：重度・重複障害児の生理・病理の理解：重度・重複障害児の生理・病理について理解する (担当：杉田)</p> <p>第3回：重度・重複障害児の心理の理解：重度・重複障害児の心理について理解する (担当：藤野)</p> <p>第4回：重度・重複障害児の教育課程の編成：肢体不自由教育の教育課程の編成の基本的考え方と教育課程の編成について理解する。(担当：橋本)</p> <p>第5回：重度・重複障害児の指導方法①感覚・運動機能：感覚・運動機能の特性から支援方法について考える (担当：橋本)</p> <p>第6回：重度・重複障害児の指導②認知・コミュニケーション：認知・コミュニケーションの特性から支援方法について考える。(担当：杉田)</p> <p>第7回：重度・重複障害児の指導③医療的ケア：医療的ケアの概要と意義について理解する。(担当：平田)</p> <p>第8回：重度・重複障害児の個別指導計画の作成：事例検討を通して個別の指導計画について理解を深める (担当：橋本)</p>			

第9回：発達障害の生理・病理の理解：発達障害の概念および生理・病理について理解する。（担当：杉田）

第10回：発達障害児の心理の理解：発達障害の概念および生理・病理について理解する。（担当：藤野）

第11回：発達障害児の教育課程の編成：発達障害児教育の教育課程の編成の基本的考え方と教育課程の編成について理解する。（担当：橋本）

第12回：発達障害児の指導①自閉症スペクトラム障害：自閉症スペクトラムの概要と支援方法について理解する（担当：平田）

第13回：発達障害児の指導②ADHD：ADHDの概要と支援方法について理解する（担当：平田）

第14回：発達障害児の指導③学習障害：学習内容の概要と支援方法について理解する（担当：杉田）

第15回：発達障害児の個別の指導計画の作成：事例検討を通して個別の指導計画について理解を深める（担当：杉田）

テキスト

橋本正巳、2016, 障害の重い子どもへのかかわりハンドブック～マルチアレンジングサポートの観点から～, 全国心身障害児福祉財団橋本正巳、2012, 気になる子どもの支援ハンドブック財団

参考書・参考資料等

授業内に適宜紹介する

学生に対する評価

試験（70%）、レポート（20%）授業内課題（10%）

授業科目名：聴覚障害教育総論	教員の免許状取得のための必修科目	単位数： 2単位	担当教員名： 杉田 律子 担当形態： 単独
科 目	免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	<ul style="list-style-type: none"> ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目 (中心領域：聴)		
<p>授業のテーマ及び到達目標</p> <p>聴覚障害の生理・病理および検査法について理解を深める</p> <p>聴覚障害児の心理について理解を深める</p> <p>聴覚障害教育の歴史を学び、教育方法および教育課程の変遷について理解を深める</p>			
<p>授業の概要</p> <p>聴覚障害の診断・状態把握、障害特性について理解し、教育課程、個別の指導計画等について学ぶ。</p> <p>聴覚障害者の心理的問題に着目して、援助方法について学ぶ</p>			
<p>授業計画</p> <p>第1回：聴覚障害児の生理・病理：聴覚障害児の生理・病理の理解</p> <p>第2回：聴力検査と診断法：緒力検査法について学び、障害特性を理解する</p> <p>第3回：聴覚障害児と認知発達・言語発達：聴覚障害の特性が子どもの認知発達・言語発達に与える影響について学ぶ</p> <p>第4回：聴覚障害児の学力と社会性の発達：聴覚障害の特性が社会性やコミュニケーションに与える影響について学ぶ</p> <p>第5回：聴覚障害児の心理的諸問題：聴覚障害児の心理的諸問題について、基本的なカウンセリングの手法を学ぶ</p> <p>第6回：聴覚障害児の自我発達と障害認識：自我発達の観点から、聴覚障害児の障害認識について学ぶ。自立活動やエンパワーメントプログラムについて</p> <p>第7回：聴覚障害教育の歴史：聴覚障害児の教育の歴史について学ぶ</p> <p>第8回：早期発見・早期療育の意義：早期発見・早期療育の意義について</p> <p>第9回：聴覚障害教育の教育課程：聴覚障害教育の教育課程について学ぶ。</p> <p>第10回：聴覚障害教育の実際①障害の特性の理解：障害特性の理解</p> <p>第11回：聴覚障害教育の実際②聴能訓練：基本的な聴能訓練の方法について</p>			

第12回：聴覚障害教育の実際③発声・発語指導：基本的な発声・発語指導の方法について学ぶ
第13回：聴覚障害教育の実際④自立活動：自立計画の概要について
第14回：聴覚障害教育の実際⑤学習支援：学習支援について
第15回：聴覚障害児の個別の支援計画：地域との連携を葉から、個別の支援計画によって
定期試験

テキスト

文部科学省，2020，聴覚障害教育の手引—言語に関する指導の充実を目指して—

参考書・参考資料等

脇中起余子，009、聴覚障害教育これまでとこれから、北大路書房

学生に対する評価

試験（70%）、レポート（10%）、授業内課題（20%）